CFDC-9664P
PCDC-9664P
取扱説明書

103203-01

【本書での呼び方】

呼び方	意味
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me、Windows 98およびWindows 95の総称
Windows 98/95	Windows 98およびWindows 95の総称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0 Workstation
Windows CE	Microsoft® Windows® CE Operating System
Windows	Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows NT 4.0、Windows CEの総称

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各１部だけ複写できるものとします。
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に１台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
13) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATA,PLANT は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windows,Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- cdmaOne は、CDG(CDMA Development Group)の商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ ····· i
本製品を使用すれば ····· vi
本書の見方 ····· vii
本製品のご紹介 ····· viii
注意していただきたいこと ····· x

1 ご使用になる前に

箱を開けたら ····· 2
対応している機種と OS ····· 4

2 取り付ける

準備する ····· 8
電話機に接続する ····· 11

3 Windows XP で使うには

準備編
本製品で通信できるまでの流れ ····· 18
ステップ1 インストールする ····· 19
ステップ2 インストールは正常ですか？ ····· 26
ステップ3 端末速度を設定する ····· 28
ステップ4 発信情報を設定する ····· 35
ステップ5 パソコンから取り出す場合 ····· 41
ステップ6 再度取り付ける場合 ····· 42
ステップ7 電話機を変更する場合 ····· 43

インターネット接続編
Windows XP でインターネットに接続するには ····· 44
ステップ1 接続前の準備 ····· 45
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ····· 47
ステップ3 通信方式を設定する ····· 59
ステップ4 インターネットを楽しもう ····· 63
ステップ5 通信方式を変更する場合 ····· 68

4 Windows 2000 で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ …… 72
ステップ1 インストールする …… 73
ステップ2 インストールは正常ですか？ …… 82
ステップ3 端末速度を設定する …… 84
ステップ4 発信情報を設定する …… 88
ステップ5 パソコンから取り出す場合 …… 92
ステップ6 再度取り付ける場合 …… 93
ステップ7 電話機を変更する場合 …… 94

インターネット接続編

Windows 2000 でインターネットに接続するには …… 95
ステップ1 接続前の準備 …… 96
ステップ2 接続に必要なソフトウェア …… 98
ステップ3 通信方式を設定する …… 112
ステップ4 インターネットを楽しもう …… 116
ステップ5 通信方式を変更する場合 …… 123

5 Windows Me で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ …… 128
ステップ1 インストールする …… 129
ステップ2 インストールは正常ですか？ …… 135
ステップ3 端末速度を設定する …… 137
ステップ4 発信情報を設定する …… 140
ステップ5 パソコンから取り出す場合 …… 144
ステップ6 再度取り付ける場合 …… 145
ステップ7 電話機を変更する場合 …… 146

インターネット接続編

Windows Me でインターネットに接続するには …… 147
ステップ1 接続前の準備 …… 148
ステップ2 接続に必要なソフトウェア …… 150
ステップ3 通信方式を設定する …… 161
ステップ4 インターネットを楽しもう …… 165
ステップ5 通信方式を変更する場合 …… 170

6 Windows 98/95 で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ……174
ステップ1 事前の準備……175
ステップ2 インストールする……176
ステップ3 インストールは正常ですか？……193
ステップ4 端末速度を設定する……195
ステップ5 発信情報を設定する……199
ステップ6 パソコンから取り出す場合……203
ステップ7 再度取り付ける場合……204
ステップ8 電話機を変更する場合……205

インターネット接続編

Windows 98/95 でインターネットに接続するには……206
ステップ1 接続前の準備……207
ステップ2 接続に必要なソフトウェア……209
ステップ3 通信方式を設定する……221
ステップ4 インターネットを楽しもう……225
ステップ5 通信方式を変更する場合……230

7 Windows NT 4.0 で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ……234
ステップ1 インストールする……235
ステップ2 通信するための設定……244
ステップ3 電話機を変更する場合……248

インターネット接続編

Windows NT 4.0 でインターネットに接続するには……249
ステップ1 接続前の準備……250
ステップ2 接続に必要なソフトウェア……252
ステップ3 通信方式を設定する……261
ステップ4 インターネットを楽しもう……264
ステップ5 通信方式を変更する場合……267

8 Windows CE で使うには

準備編

Windows CE マシンに取り付ける ····· 272

インターネット接続編

Windows CE でインターネットに接続するには····· 274
ステップ1 接続前の準備····· 275
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ····· 277
ステップ3 インターネットを楽しもう····· 283

9 Mac OS で使うには

準備編

本製品で通信できるまでの流れ····· 288
ステップ1 Mac OS のバージョンを確認する ····· 289
ステップ2 設定ファイルをコピーする ····· 290
ステップ3 パソコンに取り付ける····· 292

インターネット接続編

Mac OS でインターネットに接続するには····· 293
ステップ1 接続前の準備····· 294
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ····· 296
ステップ3 インターネットを楽しもう····· 313
ステップ4 通信方式を変更する場合 ····· 316

付録1　困ったときには ····· 319

付録2　サービス品について ·· 346

付録3　インストールしたソフトを削除するには····· 348

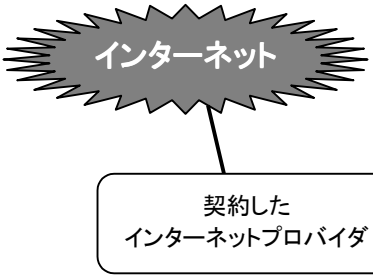
付録4　仕様 ····· 360

付録5　用語解説 ····· 362

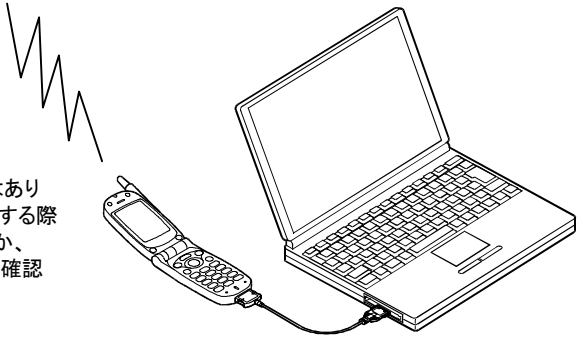
PLANT コールセンターへのお問い合わせ ····· 365
サポートソフトのバージョンアップ····· 366
保証について ····· 367
修理について ····· 368

本製品を使用すれば

本製品を使用すれば、パソコン上から、電話機を利用してインターネット接続や FAX の送受信ができます。



※インターネットに接続するには、事前にインターネットプロバイダと契約しておく必要があります。
パケット通信対応電話機でパケット通信を行うには、さらにキャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。



※電話機を操作する必要はありませんが、本製品を使用する際には、電源が入っているか、電波の状態が良好か、を確認しておいてください。

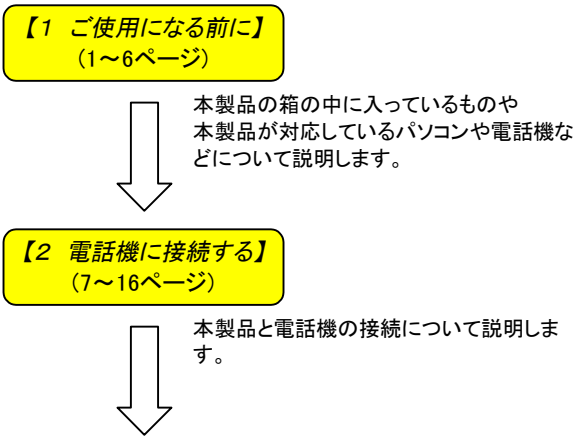
参考

「キャリア」とは

→「コモンキャリア」と呼ばれる自前の通信設備(特に回線網)を所有している通信事業者(第一種電気通信事業者)のこと。日本では NTT、KDDI、日本テレコムなどがこれにあたります。

本書の見方

本書は以下の流れに沿って、必要な個所をお読みください。



本製品のご紹介

● *あらゆる電話機に対応した、3種類のケーブルを標準添付*

PDC方式のデジタル電話機はもちろん、PHS、H″（エッジ）端末、ドッチーモなど、対応電話機は多彩です。3種類のケーブルを標準添付しているので、種類の違う電話機を使い分けている場合でもOK。

電話機に応じたケーブルを選び、通信アダプタに差し込むだけです。

（※cdmaOne方式およびアナログ方式の電話機ではご使用いただけません）

● 高速モバイル通信を実現

PDC方式の電話機	・最大28.8Kbpsのパケットデータ通信 （ドコモパケットデータ通信サービス使用時） ・最大9600bpsのデータ通信
PHS、H″端末	最大64Kbpsのデータ通信

※　本製品は、FAX通信には対応しておりません。



参考

「PDC 方式の電話機」とは

→PDC 方式とは日本国内におけるデジタル電話機の通信方式です。
電話機の通信方式には、この他に、cdmaOne 方式やアナログ方式があります。
本製品は、cdmaOne 方式やアナログ方式ではご使用いただけません。
お使いの電話機がどの方式かは電話機の取扱説明書などをご参照ください。



参考

「ASYNC 通信」→アナログモデムと同じ通信方式です。
「パケット通信」→データを小さなまとまり（パケット）に分割して、一つ一つ送受信する通信方式です。

● モバイルに最適な低消費電流設計

パソコン本体のバッテリに負荷をかけない低消費電流設計です。

● ATコマンド準拠

Hayes社のATコマンドを採用。市販の通信ソフトを利用できます。



本書にはATコマンドの使い方については記述しておりません。ATコマンドに関しては、「サポートソフト」CD-ROM 内の Manual.htm ファイルを参照してください。

注意していただきたいこと

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては、本製品に同梱されている小冊子「安全で快適にお使いいただくために」を必ずお読みください。
ここでは、その小冊子の記載以外の注意点について説明します。

1）以下の注意事項を守ってお使いください。

●本製品は次のような場所で使用しないでください。
・腐食性ガス（Cl_2, H_2S, NH_3, SO_2, NO_x など）の多い場所
・静電気の影響が強い場所
・「安全で快適にお使いいただくために」に記載されている使用禁止場所

●電話機の電波が弱い地域では正常にデータ通信できない場合があります。接続するときは電波の強い状態を確認してから行ってください。
また、電波の強い状態でも、環境により通信が不安定になったり切断される場合があります。そのような場合には、再度接続してご使用ください。

●本製品は、アナログ電話機や cdmaOne 方式のデジタル電話機ではご使用になれません。

●本製品は、サスペンド/スタンバイ/休止/スリープモードに対応しておりません。本製品を接続中にサスペンド/スタンバイ/休止/スリープモードになってしまった場合は、必ずスタンバイ復帰後に本製品を PC カードスロットから取り出し、もう１度差し込んでください。

2）本製品の修理は弊社修理係にご依頼ください。（368 ページ参照）

改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

1 ご使用になる前に

箱を開けたら ……2ページ
対応している機種と OS ……4ページ

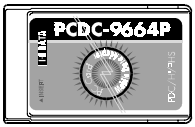
箱を開けたら

箱を開けたら、以下のものが入っているか確認してください。

☐ 本製品(1 枚)



または

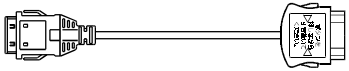


(CFDC-9664P)

(PCDC-9664P)

☐ 電話機接続用ケーブル(3本)
※詳細は 8 ページ参照

・*PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機用ケーブル*[約 55cm]



・*PHS(NTT ドコモ、アステル)用ケーブル*
[約 55cm]



・*H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)用ケーブル*[約 55cm]



☐ サポートソフト
CD-ROM(1 枚)



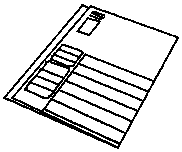
☐ ハードウェア
シリアル No.
シール



☐ ハードウェア
保証書(1 枚)



☐ ユーザー登録
カード(1 枚)

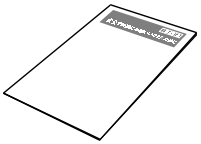


☑ 取扱説明書(1 冊)

本書



☐ 『安全で快適に
お使いいただく
ために』(1 冊)



☐ DION オンラインサインアップ用
CD-ROM（1 枚）

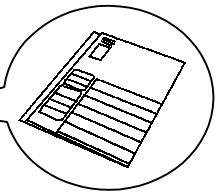


万が一、不足品がございましたら、弊社 PLANT コールセンターまでご連絡ください。

注意

・箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。
・本製品には、Macintosh 用としてモデム設定ファイル（Apple Remote Access CCL ファイル）およびドライバソフトのみ添付しております。通信ソフトウェアなどのアプリケーションは添付しておりませんので、別途お買い求めください。

ユーザー登録はお済みですか？
「ユーザー登録カード」に登録方法が記載されています。
登録してから次ページへ進みましょう。



対応している機種と OS

本製品を使用できるパソコンおよび環境は以下の通りです。ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

■ Windows ■

対応機種	CF+ TYPE Ⅱ スロット*([CFDC-9664P の場合のみ])*もしくは、 PC CARD 規格 TypeⅡ以上の PC カードスロット※1 を持つ機種 ・NEC PC98-NX シリーズ ・DOS/V マシン※2 ・NEC PC-9821 シリーズ(Ne を除く) ・下記の弊社製 PC カードアダプタ CardDock シリーズが使用できる機種※3 ・CardDock2-EX/DV ・CardDock2-IN/DV ・CardDock2-EX/98
対応 OS (日本語版)	Windows XP Windows 2000 Windows Me Windows 98※4(Second Edition を含む) Windows 95※4 Windows NT 4.0※5 Windows CE※6
CD-ROM ドライブ	インストール時に必要(Windows CE 機では特に必要ありません。)

※1 CFDC-9664P を PC カードスロットでご利用になる場合は、別途弊社製 PC カードアダプタ[CFMD-ADP]をお買い求めください。
※2 弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認を行っています。
※3 CardDock2-EX/DV,IN/DV,EX/98 の対応 OS でのみ使用可能です。
※4 32 ビット PCMCIA ドライバがインストールされていることが必要です。
※5 環境によっては、パソコンに付属の PC カードドライバをインストールする必要があります。詳細については、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
※6 対応機種につきましたは、弊社ホームページ(http://www.iodata.jp/)にてご確認ください。

■ Macintosh ■

対応機種	PC CARD 規格 Type Ⅱ 以上の PC カードスロットを持つ Macintosh シリーズ PowerBook G3/G4
対応 OS	Mac OS 8.6、9.0、9.0.4、9.1、9.2、9.2.1

■ 対応電話機 ■

下記の「注意」も合わせてご参照ください。

デジタル電話機	NTT ドコモ	・PDC 方式デジタル （800MHz[201HYPER 以降]、1.5GHz タイプ） ・ドコモパケットデータ通信サービス ・ドッチーモ
	au （エーユーグループ、KDDI）	・PDC 方式デジタル
	J-PHONE	・PDC 方式デジタル
	ツーカー	・PDC 方式デジタル
PHS	NTT ドコモ	・PIAFS 32K/64Kbps ・ドッチーモ
	アステル	・PIAFS 32Kbps
	DDI ポケット	・PIAFS 32K/64Kbps （H″端末、α-DATA32 対応電話機）

注意

・アナログ電話機、cdmaOne 方式のデジタル電話機ではご使用いただけません。
・対応電話機の最新情報につきましては、弊社ホームページ上の対応製品検索エンジン「PIO」でご確認ください。
[URL] http://ss.iodata.co.jp/Matching
・本製品は FAX 通信には対応しておりません。

MEMO

2 取り付ける

準備する……8ページ
電話機に接続する……11ページ

準備する

最初に本製品をパソコンに取り付ける前の準備について説明します。

準備①:接続ケーブルを確認する

準備②:PC カードアダプタを取り付ける(CFDC-9664P の場合のみ)

準備①:接続ケーブルを確認する

本製品には接続ケーブルが3本添付されております。使用する電話機によって、接続ケーブルが異なりますので、必ず、確認してください。
接続ケーブルは、コネクタの形状で見分けることができます。

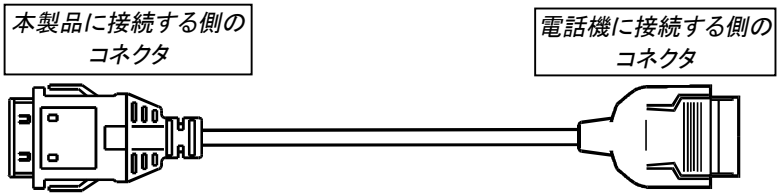
■PDC方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機の場合

[電話機に接続側のコネクタ]の左右にボタンがついているものをお使いください。



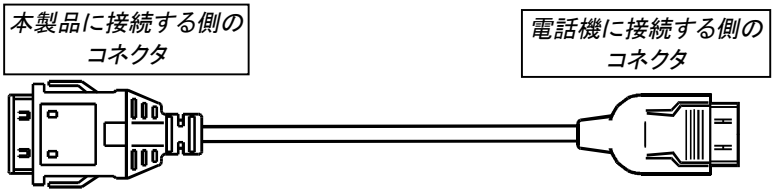
■PHS(NTTドコモ、アステル)の場合

[電話機に接続側のコネクタ]が少し広めのものをお使いください



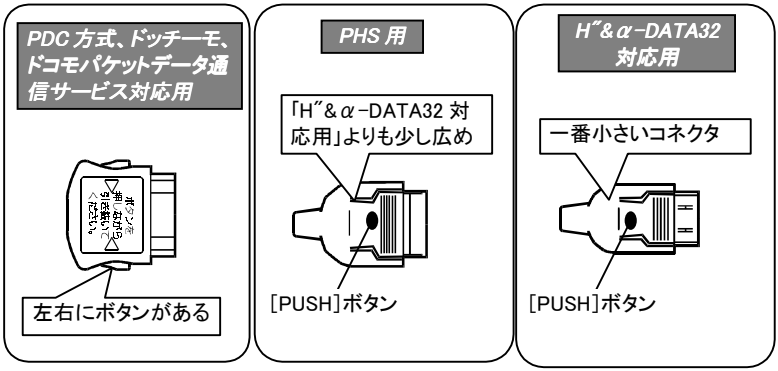
■H″&α-DATA32対応電話機(DDIポケット)の場合

［電話機に接続側のコネクタ］が一番小さいコネクタのものをお使いください。



参考:ケーブルの見分け方

［本製品に接続する側のコネクタ］はすべて同じ形状のため、以下のように
［電話機に接続する側のコネクタ］を確認し、ケーブルを見分けてください。

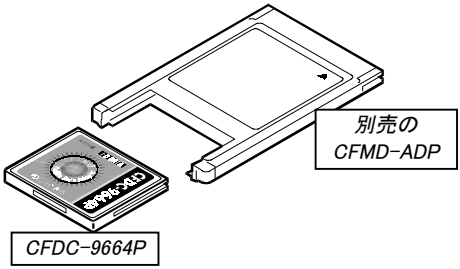


ケーブル確認後、
「CFDC-9664P」をお使いの場合は、次ページへお進みください。
「PCDC-9664P」をお使いの場合は、11 ページへお進みください。

準備②:PC カードアダプタを取り付ける*(CFDC-9664P の場合のみ)*

「CFDC-9664P」を PC カードスロットで使用する場合は、別売の「CFMD-ADP」が必要です。(「CFDC-9664P」を CF カードスロットでご使用の場合は特に必要ありません。次ページにお進みください。)
以下の手順にて、「CFDC-9664P」を電話機に接続する前に「CFMD-ADP」に取り付けておいてください。

[CFDC-9664P]をPCカードスロットでご利用になる場合は、
別売の弊社製品[CFMD-ADP]が必要です。
ご用意いただいた後、[CFDC-9664P]を[CFMD-ADP]に挿入します。



以上で電話機に取り付け前の準備は終了です。
次ページを参照して、本製品を電話機に取り付けてください。

電話機に接続する

本製品を電話機を接続します。

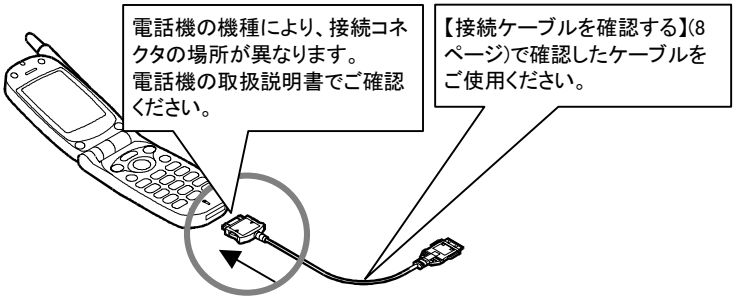
電話機にケーブルを接続する

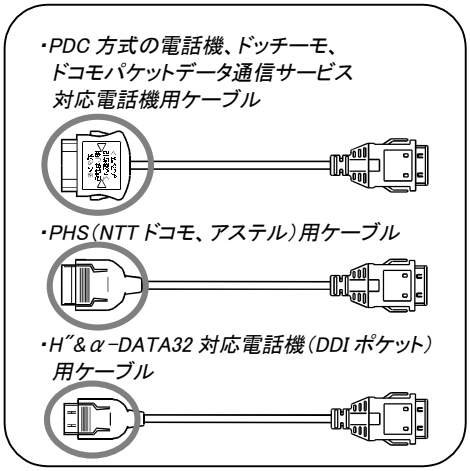
電話機の接続コネクタのカバーを取り外し、【接続ケーブルを確認する】(8 ページ)で確認したケーブルを電話機に接続します。

電話機にはカチッと音がするまで差し込んでください。

コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き(裏表)を確認してください。

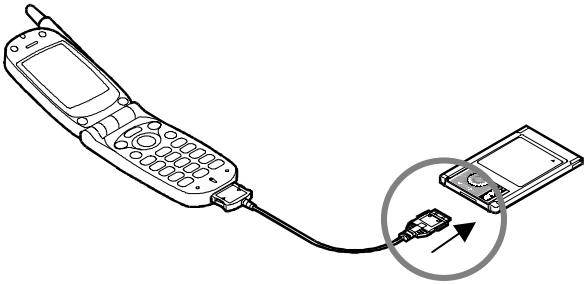
取り外したカバーはなくさないように保管してください。





本製品と電話機を接続する

ケーブルの本製品接続側を本製品に接続します。
コネクタが入りにくいときは無理な力で挿入せず、コネクタの向き（裏表）を確認してください。



注意

必ず本製品にケーブルを接続してください。
この後、パソコンの PC カードスロット（あるいは CF カードスロット）に本製品を挿入し、インストール作業を行いますが、ケーブルが接続されていないとパソコンが本製品を認識しないため、インストール作業をすることができません。
必ずケーブルを接続して PC カードスロット（あるいは CF カードスロット）に挿入してください。

これで接続が完了しました。
次ページのケーブルの取り外し方を確認後、
次に「サポートソフト」をインストールします。以下のお使いのOSの個所へお進みください。

Windows XP の場合 →【3 Windows XP で使うには】(17 ページ)
Windows 2000 の場合 →【4 Windows 2000 で使うには】(71 ページ)
Windows Me の場合 →【5 Windows Me で使うには】(127 ページ)
Windows 98/95 の場合 →【6 Windows 98/95 で使うには】(173 ページ)
Windows NT 4.0 の場合 →【7 Windows NT 4.0 で使うには】(233 ページ)
Windows CE の場合 →【8 Windows CE で使うには】(271 ページ)
Mac OS の場合 →【9 Mac OS で使うには】(287 ページ)

電話機からケーブルを取り外す場合

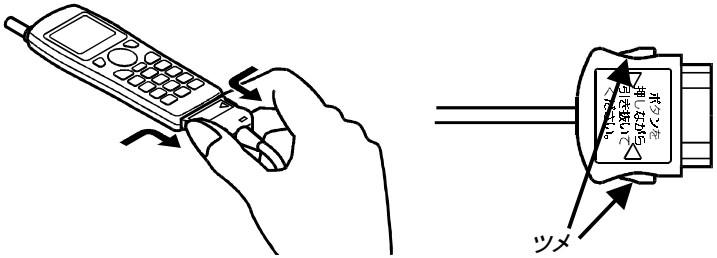
電話機から接続ケーブルを無理に取り外そうとすると、接続ケーブルやコネクタを傷める原因となります。取り外す場合は、必ず、下記の通りに行ってください。

参考

以下および次ページの電話機のイラストおよび電話機の接続コネクタ位置は一例です。電話機の機種により、コネクタの位置や向きが異なります。

■PDC方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機の場合

コネクタの左右にある、灰色のツメを押しながら、まっすぐに抜いてください。

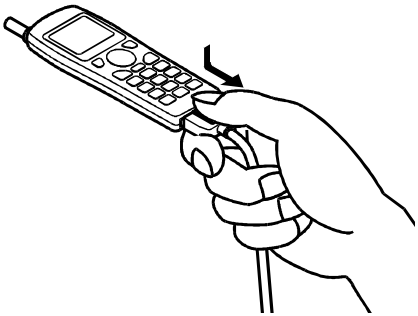


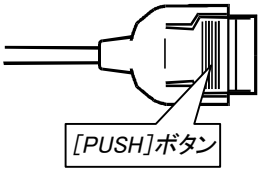
注意

本製品を取り外す場合は、コネクタ左右のツメを押しながら、まっすぐに引き抜いてください。
ツメを押さずに無理に引き抜くと、接続ケーブルやコネクタが破損する原因になります。

■PHS（NTTドコモ、アステル）の場合

コネクタの［PUSH］ボタンを押しながら、まっすぐに抜いてください。



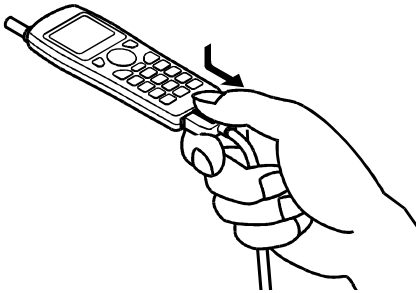


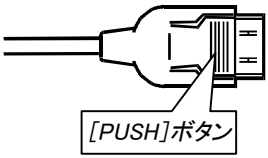
注意

本製品を取り外す場合は、コネクタ左右のツメを押しながら、まっすぐに引き抜いてください。
ツメを押さずに無理に引き抜くと、接続ケーブルやコネクタが破損する原因になります。

■H″&α-DATA32対応電話機（DDIポケット）の場合

コネクタの［PUSH］ボタンを押しながら、まっすぐに抜いてください。
※H″の場合、（電話機に対し）コネクタの［PUSH］ボタンは裏側になります。





注意

本製品を取り外す場合は、コネクタ左右のツメを押しながら、まっすぐに引き抜いてください。
ツメを押さずに無理に引き抜くと、接続ケーブルやコネクタが破損する原因になります。

MEMO

3 Windows XP で使うには

～ *準備編* ～

本製品で通信できるまでの流れ ····· 18ページ
ステップ1 インストールする ····· 19ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ 26ページ
ステップ3 端末速度を設定する ····· 28ページ
ステップ4 発信情報を設定する ····· 35ページ
ステップ5 パソコンから取り出す場合 ·· 41ページ
ステップ6 再度取り付ける場合 ····· 42ページ
ステップ7 電話機を変更する場合 ····· 43ページ

～ *インターネット接続編* ～

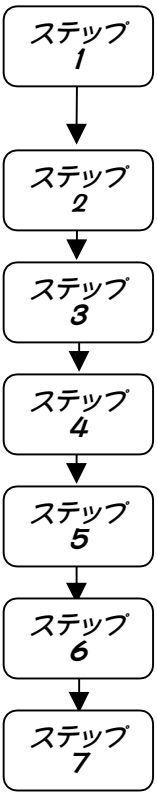
Windows XP でインターネットに
接続するには ··· 44ページ
ステップ1 接続前の準備 ····· 45ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ··· 47ページ
ステップ3 通信方式を設定する ····· 59ページ
ステップ4 インターネットを楽しもう ····· 63ページ
ステップ5 通信方式を変更する場合 ··· 68ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。

ここでは、本製品を使用して、パソコンから通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。



インストールする……19ページ
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。ここではそのインストール手順について説明します。

インストールは正常ですか？……26ページ
【ステップ1】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

端末速度を設定する……28ページ
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

発信情報を設定する……35ページ
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

パソコンから取り出す場合……41ページ
本製品をパソコンのPCカードスロットから取り出す手順について説明します。

再度取りつける場合……42ページ
一度取り出した本製品を再度取りつける手順について説明します。

電話機を変更する場合……43ページ
使用していた電話機から別の電話機に変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

準備編

インストールする

本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」CD-ROM ディスクのインストールが必要です。

・はじめに...

本書で使用しているイラストおよび表示される画面について

次ページ以降のインストール作業を含め、本書では、CFDC-9664P（CFDC-9664P に弊社製 PC カードアダプタ[CFMD-ADP]を取り付けたもの）と PDC 用のケーブルを接続しているイラストおよび画面を例にしています。

他のケーブルおよび PCDC-9664P をご使用の場合には、画面やイラストが異なります。画面に関しては、以下の表の該当する[表示]の個所に読み替えてください。

・CFDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PHS]
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P H]

・PCDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PHS]
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P H]

カードスロットについて

本書では本製品を挿入する（取り付ける）パソコンのカードスロットを「PC カードスロット」を例にしています。

CFDC-9664P を CF カードスロットでお使いの場合は、「PC カードスロット」の個所を「CF カードスロット」に読み替えてください。

「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、添付の「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

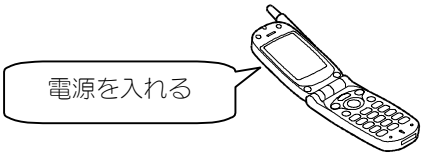
インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

注意

弊社製 CardDock2-EX/DV、IN/DV は Windows XP には対応しておりませんので、本製品を CardDock2-EX/DV、IN/DV でご利用いただくことはできません。

1 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ Windows XPを起動します。

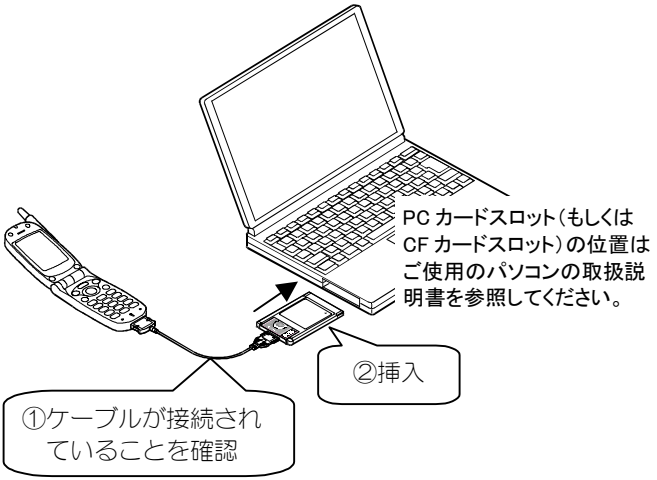
2 電話機の電源を入れます。



参考

次ページ3 の手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。（接続後に電話機の電源を入れることもできます。）

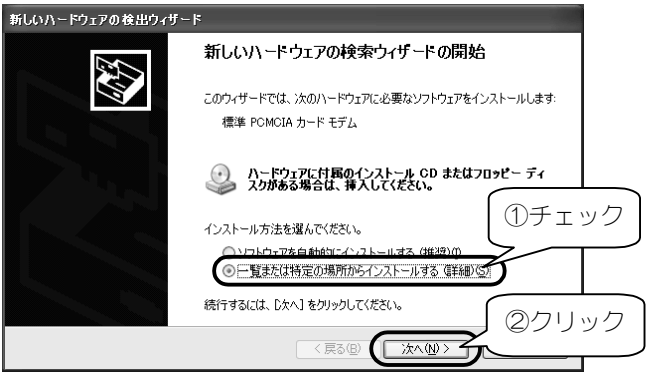
3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。



注意

ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

4 しばらくすると、パソコンのディスプレイ上に以下の画面が表示されます。 ※ケーブルが接続されていないと表示されません。
[一覧または特定の場所からインストールする]をチェック後、[次へ]ボタンをクリックします。



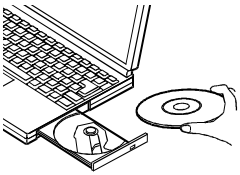
注意

カードにケーブルが接続されていないと前ページ画面は表示されません。
必ずケーブルを接続してから挿入し直してください。

ケーブルを接続しているのに、このインストール画面が表示されない場合は…

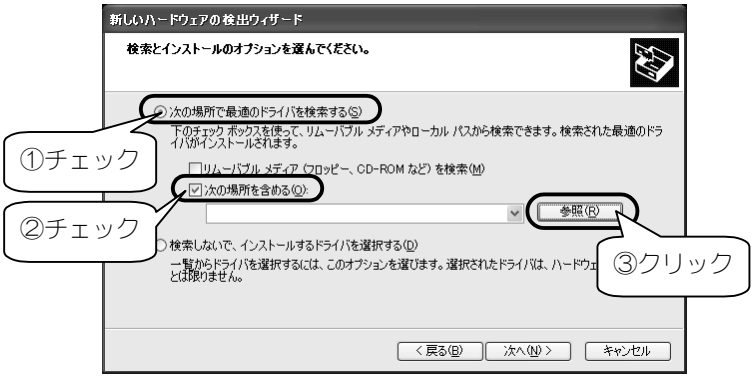
【困ったときには】の
321 ページ
をご参照ください。

5 「サポートソフト」CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。



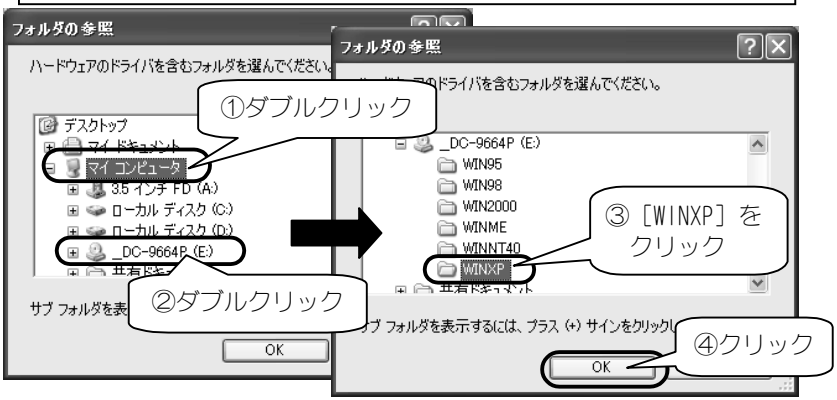
「サポートソフト」CD-ROM

6 [次の場所で最適のドライバを検索する]をチェック後、[次の場所を含める]のみをチェックして(その他の項目のチェックは外してください)、[参照]ボタンをクリックします。

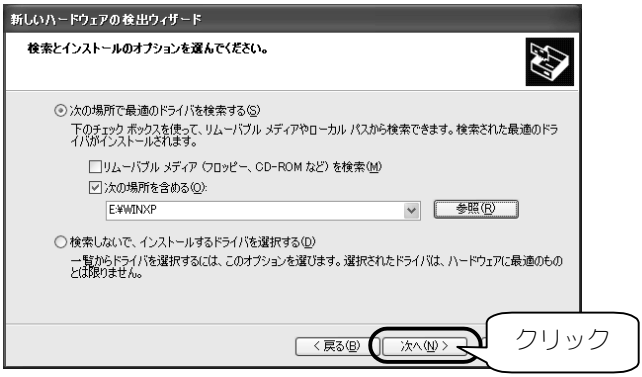


7 [マイコンピュータ]→CD-ROMドライブ(_DC-9664P) を順にダブルクリック後、[WINXP]をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

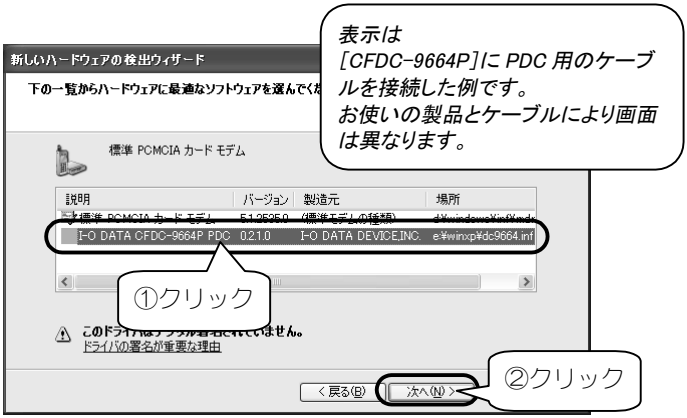
「サポートソフト」を、お使いのパソコンのハードディスクにコピーした場合は →以下の手順①でコピー先のハードディスクを選択し、[WINXP]フォルダを指定します。



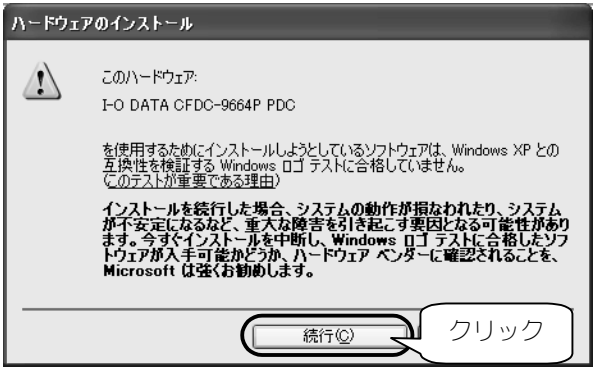
8 [次へ]ボタンをクリックします。



9 以下の画面の[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては19ページを参照してください）をクリック後、[OK]ボタンをクリックします。



10 [続行]ボタンをクリックします。
ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。



参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

11 しばらくして以下の画面が表示されたら、
［完了］ボタンをクリックします。



以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

注意

Windows XP 使用中に本製品の動作を終了しないでPCカードスロットから取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。取り出す際には【パソコンから取り出す場合】(41 ページ)を参照してください。

ステップ
2

準備編

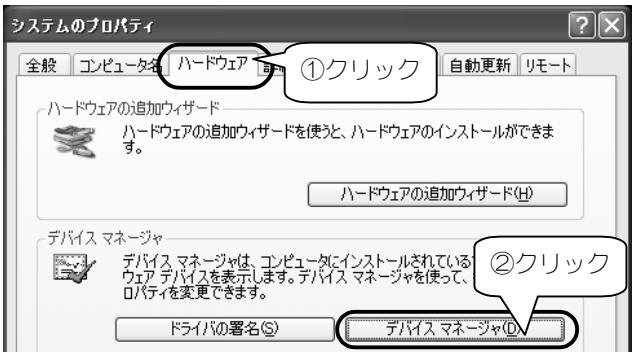
インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま(ケーブルを電話機に接続した状態）で確認してください。

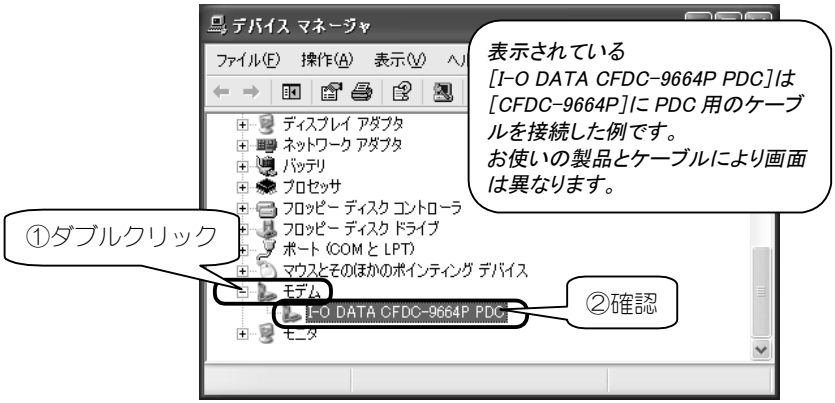
1 [スタート]をクリック後、
[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。



2 [ハードウェア]タブをクリック後、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては19ページを参照してください）が表示されていることをご確認ください。。



「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されない場合は… → 【困ったときには】の 324 ページをご参照ください。

「I-O DATA xxDC-9664P xxx」の頭に[！]マークが表示されている場合は… → 【困ったときには】の 324 ページをご参照ください。

4 画面右上の ✕ ボタンをクリックして、画面を閉じます。
前ページ**2**の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

ステップ
3

準備編

端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかを確認します。
設定と確認は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま（ケーブルを電話機に接続した状態）で設定および確認してください。

1 **［スタート］→［コントロールパネル］を順にクリックします。**



2 [コントロールパネル]が以下のような“カテゴリ表示画面”の場合は、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。



3 [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。





参考

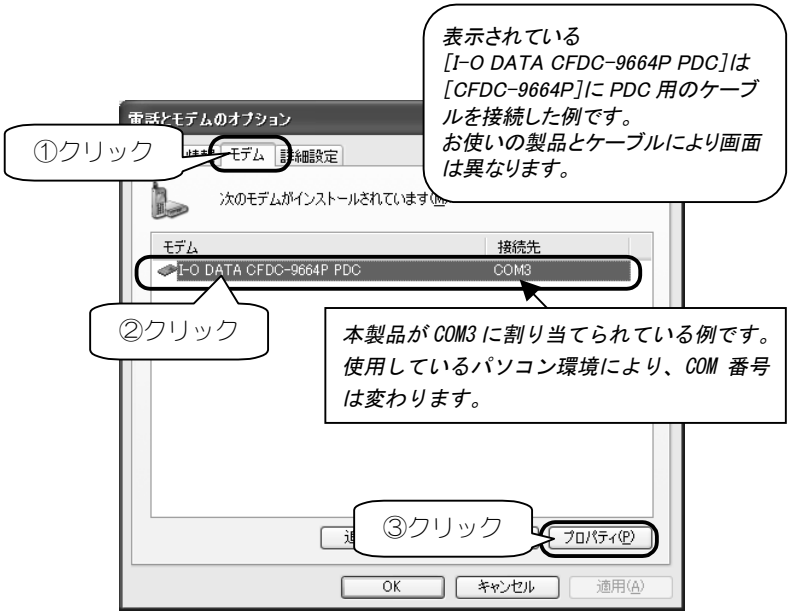
[電話とモデムのオプション]は[カテゴリ表示]からでも選択できます。
[カテゴリ表示]の場合は、[プリンタとその他のハードウェア]をクリック後、「コントロールパネルを選択します」の文字の下に[電話とモデムのオプション]があります。

4 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	国名／地域名	「日本」であることを確認
②	市外局番/エリアコード	「000」などの存在しない数値を入力（半角文字） ※PHS や PDC の電話機は、市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
③	電話会社の識別番号	入力しないでください。
④	外線発信番号	入力しないでください。
⑤	ダイヤル方法	[トーン]を選択



5 [電話とモデムのオプション]画面で[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては19ページを参照してください）をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。



[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 325 ページをご参照ください。

6 端末速度を設定します。

[モデム]タブで、[ポートの最高速度]を選択肢中で一番速い速度に設定します。

最高速度には、選択できる速度のうち、最高の速度（115200bpsが望ましい）を設定しておくと、最大パフォーマンスが引き出せます。

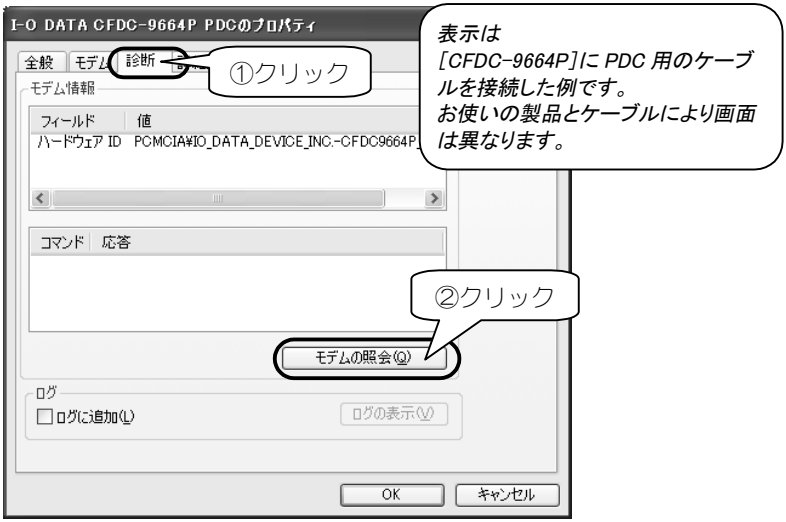


参考

1. **ご使用になるパソコンの種類によっては設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**
2. **ここで設定する速度は、端末速度(パソコンとモデム間の速度)です。**

7 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

[診断]タブをクリックして、
[モデムの照会]ボタンをクリックします。



8 「お待ちください」と表示されます。
次ページ**9** の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。



9 しばらくすると以下のように表示されます。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら正常です。



「ポートが開けません」などと
表示された場合は…

【困ったときには】の
325 ページ
をご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間の通信テストであり、電話機を介して通信するテストではありません。
・[応答]欄に[コマンドはサポートされていません]と表示されていますが、動作上問題ありません。

10 [OK]ボタンをクリックし、
[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 4

準備編

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま(ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

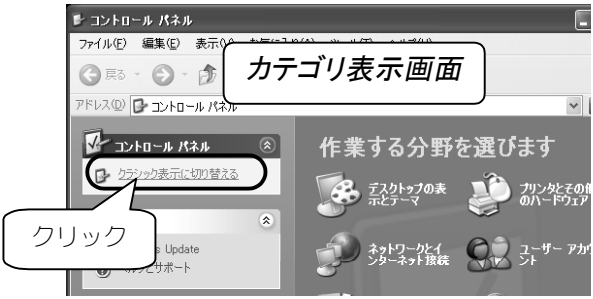
参考

【ステップ3】で[コントロールパネル]をすでに表示させている場合は、次ページ3の手順から行ってください。

1 [スタート]→[コントロールパネル]を順にクリックします。



2 [コントロールパネル]が“カテゴリ表示画面”になっている場合は、[クラシック表示に切り替える]をクリックします。



参考

[電話とモデムのオプション]は[カテゴリ表示]からでも選択できます。
[カテゴリ表示]の場合は、[プリンタとその他のハードウェア]をクリック後、「コントロールパネルを選択します」の文字の下に[電話とモデムのオプション]があります。

3 [電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。





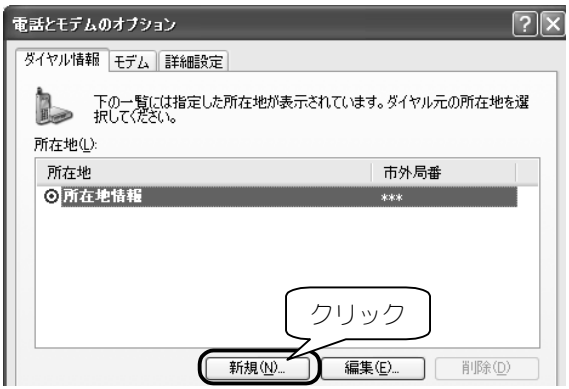
4 次ページの画面が表示された場合は、
以下の表を参照し、必要な情報を設定後、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	国名／地域名	「日本」であることを確認
②	市外局番/ エリアコード	「000」などの存在しない数値を入力（半角文字） ※PHS や PDC は市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
③	電話会社の 識別番号	入力しないでください。
④	外線発信番号	入力しないでください。
⑤	ダイヤル方法	[トーン]を選択



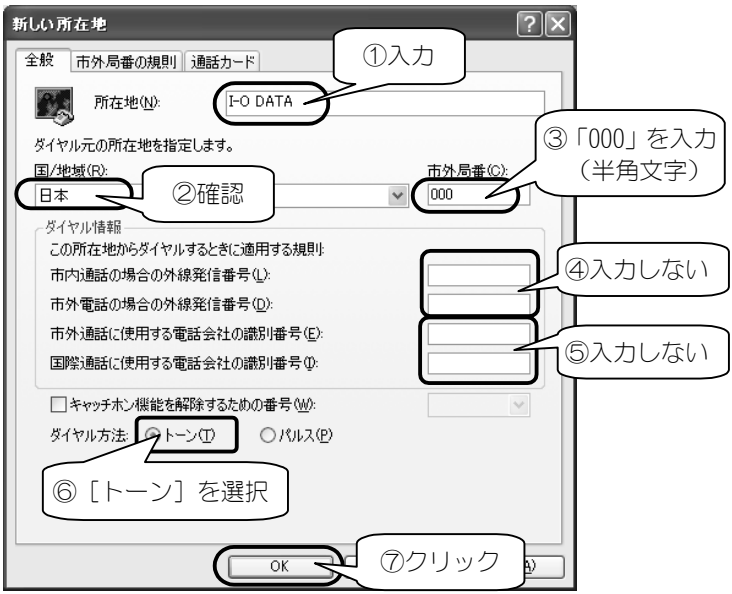
5　[新規]ボタンをクリックします。

以前に発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、
次ページ***6***の手順へ進んでください。
（一般公衆回線やISDN回線用の所在地とは設定内容が異なります。
この場合は新しく所在地を追加してください。）



6 [全般]タブで必要な情報を設定して、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	所在地	任意の名称(お好きな名称)を入力
②	国／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	「000」などの存在しない数値を入力(半角文字) ※PHS や PDC は市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 (設定しないと市外局番から発信できません。)
④	外線発信番号	入力しないでください。
⑤	識別番号	入力しないでください。
⑥	ダイヤル方法	[トーン]を選択



7 [OK]ボタンをクリックし、[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

8 *ドッチーモでPHS通信を行う場合のみ*
次ページを参照して追加設定を行ってください。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ5】(41 ページ)および【ステップ6】(42 ページ)を参照して、本製品の正しい取り出し方・取り付け方をマスターしてください。
電話機を変更する場合は、【ステップ7】(43 ページ)を参照してください。

本製品を使って…

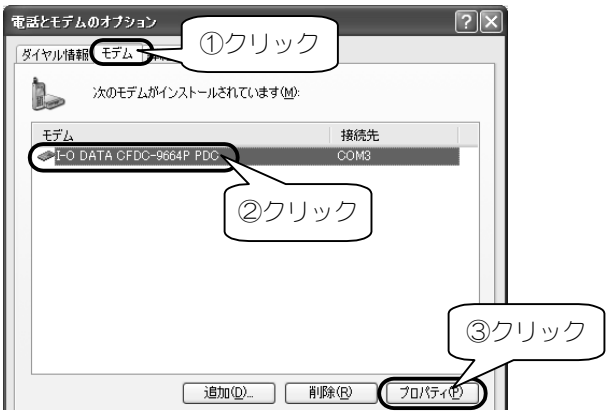
インターネットを楽しみたい	→【Windows XP でインターネットに接続するには】(44 ページ)へ
Lotus Notes でモバイル通信したい	→【Lotus Notes でモバイル通信したい】(346 ページ)へ

●ドッチーモで PHS 通信を行う場合の追加設定

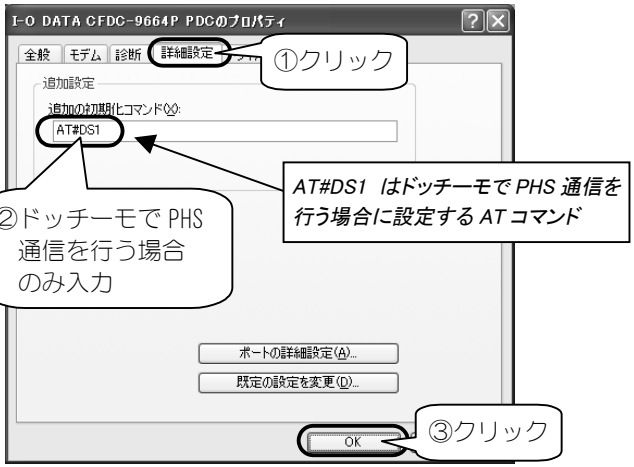
電話機の[カード選択]モードを[自動]にしてご使用ください。

1 [スタート]→[コントロールパネル]を順にクリックし、“クラシック表示”で[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

2 [モデム]タブをクリックし、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]をクリック後、[プロパティ]ボタンをクリックします。



3 [詳細設定]タブをクリックし、[追加の初期化コマンド]に半角で「AT#DS1」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



4 後は[OK]ボタンや[閉じる]ボタンをクリックして画面を閉じてください。

ステップ 5

準備編

パソコンから取り出す場合

本製品を使用しなくなった場合などに、パソコンの PC カードスロットから取り出すには、以下の方法があります。

・パソコンの電源を切った後に取り出す

・Windows XP を使用中に本製品の動作を終了して取り出す

Windows XP を使用中に取り出す際に、以下の本製品の動作を終了する手順を行わずに取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

取り出す際には、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認した後、必ず以下の手順を行ってください。

注意

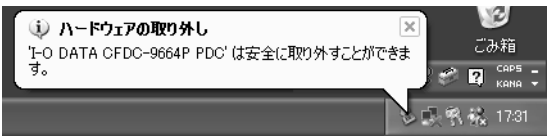
以下の動作の終了作業を行うと、実際に本製品を抜かなくても、本製品は使えなくなります。再度使いたいときは、いったん本製品を PC カードスロットから取り出してから再び差し込んでください。

本製品の動作を終了する

1 ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある[取り出し]アイコンをクリックし、[I-O DATA xxDC-9664P xxxを安全に取り外せます]をクリックします。



2 以下の画面が表示されたら、
本製品をPCカードスロットから取り出してください。



ステップ 6

準備編

再度取り付ける場合

本製品は、パソコンの電源を入れる前でも、また、パソコンの電源を入れた後（Windows を起動した後）のどちらでもパソコンに取り付けることができます。

ただし、***必ず以下のことを確認してから、本製品を PC カードスロットに差し込んでください。***

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 7

準備編

電話機を変更する場合

使用していた電話機から別の電話機に変更する場合は、以下の手順で変更してください。

1 パソコンの電源を切り、本製品をケーブルを接続したままPCカードスロットから取り出します。

2 電話機からケーブルを取り外します。
（【電話機からケーブルを取り外す場合】(14ページ)参照）

3 変更する電話機に応じたケーブルを確認します。
（【接続ケーブルを確認する】(8ページ)参照）

4 ケーブルを別のケーブルに変える場合は、ケーブルを本製品から取り外し、電話機に応じたケーブルを本製品に接続し直します。（【本製品と電話機を接続する】(12ページ)参照）

5 電話機にケーブルを接続します。
（【電話機にケーブルを接続する】(11ページ)参照）

6 パソコンの電源を入れ、本製品をPCカードスロットに挿入します。挿入後、自動的にケーブルに応じたドライバソフトがインストールされます。

注意

電話機（およびケーブル）を切り替えても自動で Windows に認識されますので、インストール作業はありません。
ただし、ケーブルを変更した場合は、Windows 上で表示される名称が異なります。
表示については、19 ページにてご確認ください。

以上で、電話機の変更手順は終了です。

インターネット接続編

Windows XP で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ1】(18 ページ)～【ステップ7】(43 ページ)) が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· 45ページ

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- 通信方式の確認
- パソコン、本製品、電話機の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア ····· 47ページ

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- ダイヤルアップ接続

ステップ 3

通信方式を設定する ····· 59ページ

通信方式に応じた設定について説明します。

ステップ 4

インターネットを楽しもう ····· 63ページ

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 5

通信方式を変更する場合 ····· 68ページ

通信方式を変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合には、キャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（47 ページ【ステップ２】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ４】63 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。



ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

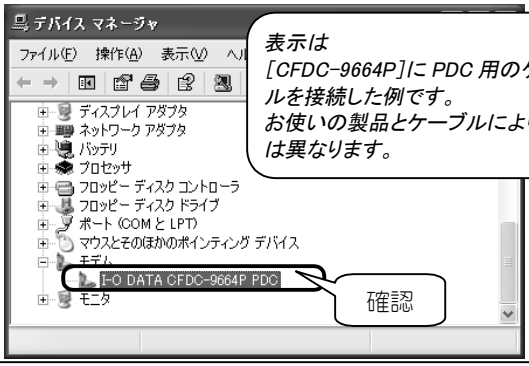
接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下および次ページのソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(19 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(26 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[デバイスマネージャ]画面での[モデム]の下の
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]の表示



②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

次ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、次ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows XP には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

ここでは、以下で[ダイヤルアップ接続]の設定について説明します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップ接続]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[ダイヤルアップ接続]を設定する必要があります。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま(ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

はじめて［ダイヤルアップ接続］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、次ページの【新しい設定を作るとき】を行います。



参考 1

ダイヤルアップとは
→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続すること。



参考 2

すでにダイヤルアップ接続（インターネット）の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 54 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

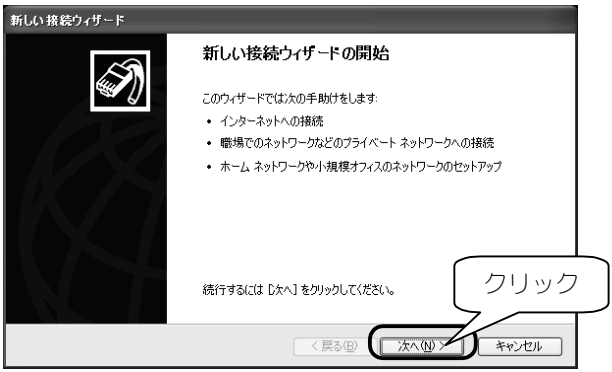
2 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[新しい接続ウィザード]を順にクリックします。



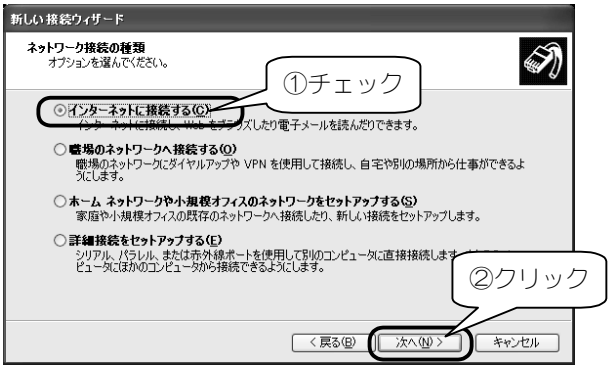
参考

[新しい接続ウィザード]と表示されず、[インターネット接続ウィザード]が表示されている場合は、[インターネット接続ウィザード]をクリックしてください。

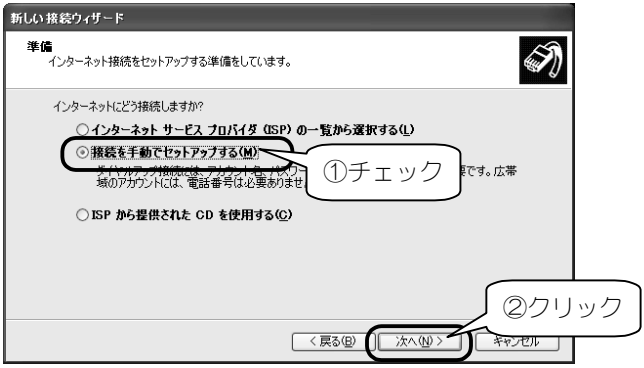
3 [次へ]ボタンをクリックします。



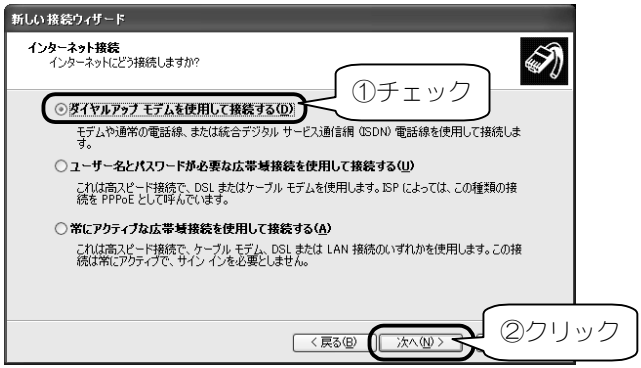
4 [インターネットに接続する]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



5 [接続を手動でセットアップする]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。

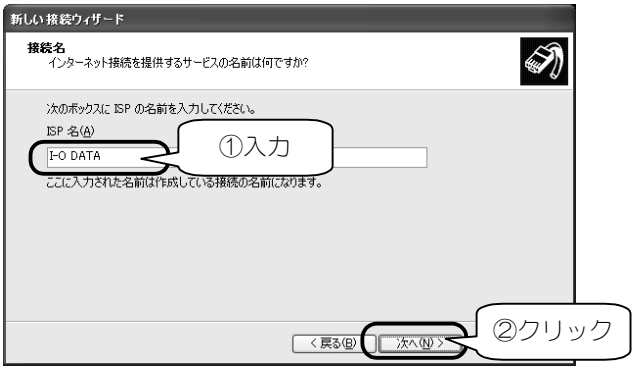


6 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。

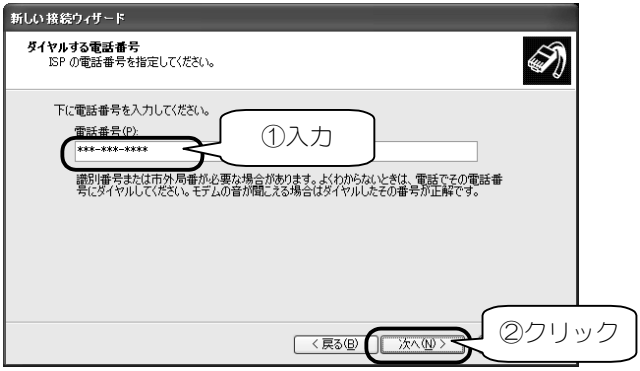


7 モデムが複数ある場合、モデムを選択する画面が表示されます。
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては19ページを参照してください）を選択してください。

8 任意の名前（プロバイダの名前など、お好きな名前）を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



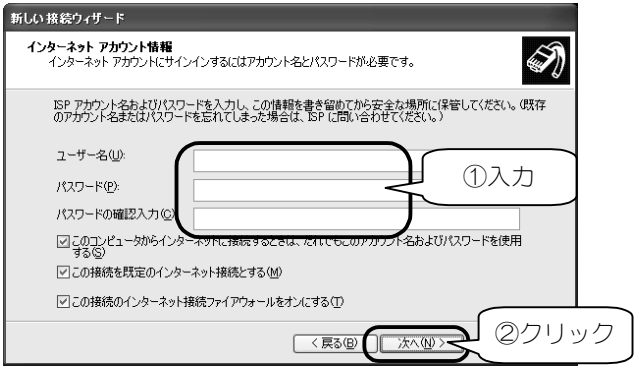
9 接続先（プロバイダ）の電話番号を市外局番から入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



注意

・[電話番号]欄の「*-***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル0120などでは、携帯およびPHSからの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

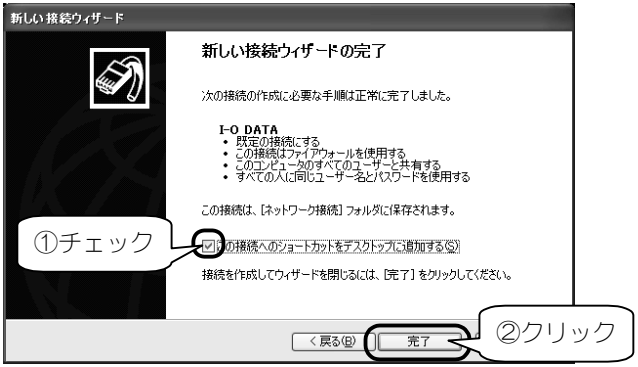
10 プロバイダから案内された[ユーザー名]や[パスワード]を入力します。
[パスワードの確認入力]にも[パスワード]で入力したものと同じものを入力後、[次へ]ボタンをクリックします。



注意

[パスワード]や[パスワードの確認入力]は[*****]と表示され、入力内容が確認できませんので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。

11 [この接続へのショートカット…]をチェック後、
[完了]ボタンをクリックします。



12 デスクトップ上に新しく作成された接続アイコンのショートカット（**8**の手順で入力した名前のアイコン）が表示されていることを確認します。



参考

デスクトップ上に接続のアイコンのショートカットを作成していない場合は、[スタート]→[接続]→[すべての接続の表示]を順にクリックし、作成した接続のアイコンをご確認ください。

● *プロバイダから[DNS サーバー]を案内されている場合*

次ページ【設定を変更するとき】を参照して[DNS サーバー]を設定してください。

● *プロバイダから[DNS サーバー]の案内がない場合*

以上で[ダイヤルアップ接続]の設定は終了です。

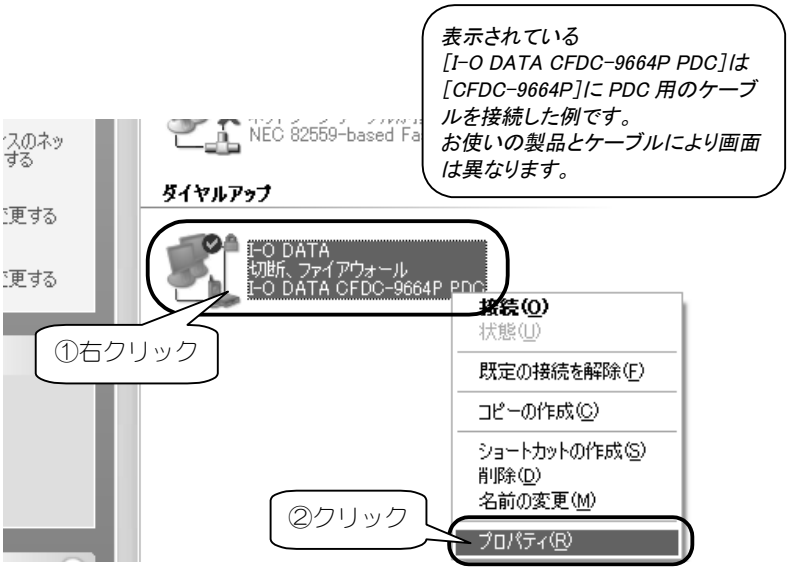
59 ページからの【通信方式を設定する】を参照して、通信方式を設定してください。

設定を変更するとき

1 [スタート]→[接続]→[すべての接続の表示]を順にクリックします。



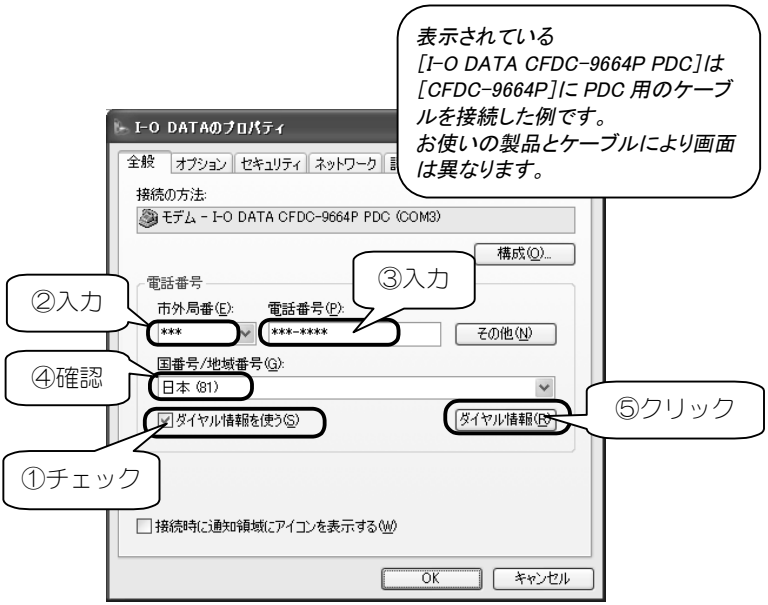
2 [ダイヤルアップ]欄の変更したい接続のアイコンを右クリック後、表示された[プロパティ]をクリックします。



3 以下のようにプロバイダの電話番号などを設定します。

①[ダイヤル情報を使う]をチェックします。
②[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
③[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
④[国番号/地域番号]欄は、「日本」であることを確認します。

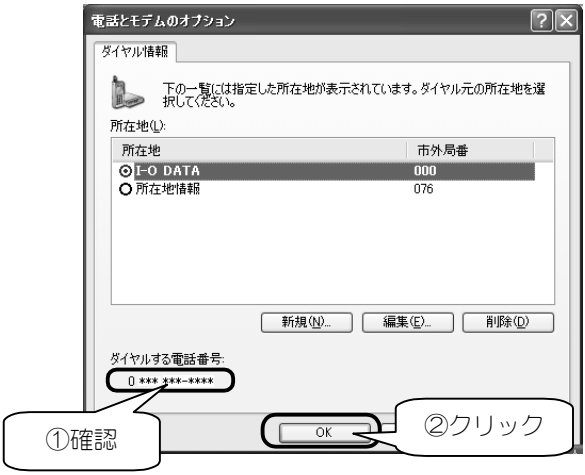
設定後、[ダイヤル情報]ボタンをクリックします。



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）
・ご契約のプロバイダによっては、モバイル専用電話番号として、#** の番号で案内されている場合があります。その場合は、[市外局番]を空白にして電話番号に #**** を入力してください。（#**** はダイヤル番号になります。必ず、市外局番、電話番号は半角文字で入力してください。）**

4 表示されている電話番号に間違いがないか確認します。
間違っている場合は[キャンセル]ボタンをクリック後、再度設定し直してください。
正しい場合は、[OK]ボタンをクリックします。



5 ***3***の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。



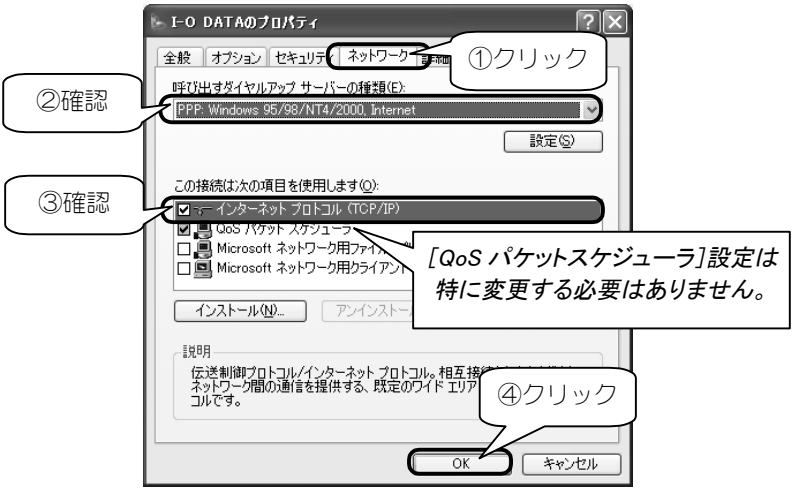
6 [ネットワーク]タブをクリックして、以下を確認します。

・[呼び出すダイヤルアップサーバーの種類]:
[PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet]

・[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照し、設定してください。

確認・設定後、[OK]ボタンをクリックします。

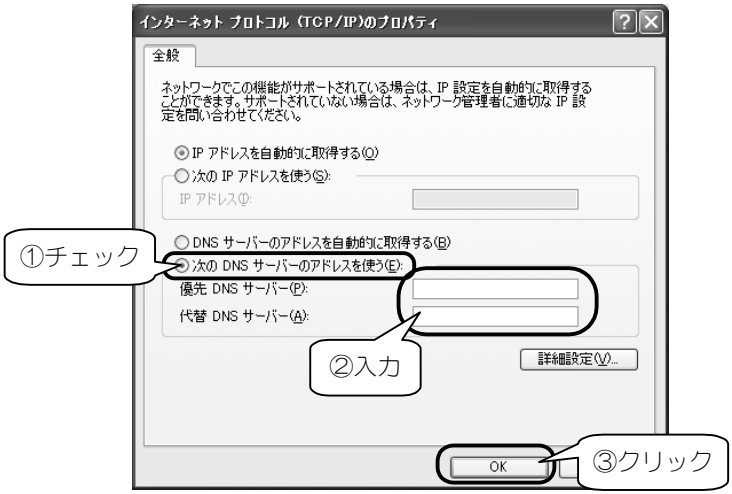


これでダイヤルアップ接続の設定は終了です。
63 ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**6** の手順の画面で、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]が選択されている状態で、[プロパティ]ボタンをクリックします。

2 以下の画面が表示されますので、以下の手順で設定します。
①[次の DNS サーバーのアドレスを使う]をチェックします。
②[優先 DNS サーバー]欄にプライマリ DNS を、[代替 DNS サーバー]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



3 前ページ**6** の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じてください。

注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

ステップ 3

インターネット接続編

通信方式を設定する

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
次ページ以降を参照して追加設定してください。
以下に該当しない場合は、本ステップを読み飛ばし、【ステップ４】(63 ページ)へお進みください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。(次ページの手順と 40 ページの手順の両方の手順が必要です。)*	次ページの手順で変更します。
64K 対応 H"で PIAFS 32K 通信を行う場合	
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合	

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント(電話番号)も異なる(別になっている)場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

注意

・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

参考

ここでの設定は、1つのプロバイダのみに接続する場合(1つの通信方式しか使用しない場合)の設定です。
複数のプロバイダに接続する場合など、プロバイダ毎に通信方式を変更したい場合は、接続する際に設定し直すこともできます。手順については、【ステップ5 通信方式を変更する場合】(68 ページ)を参照してください。

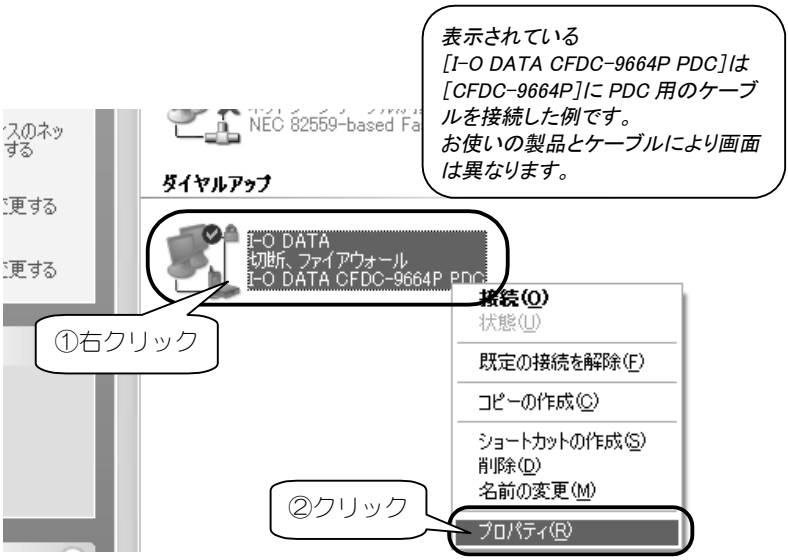
通信方式に応じて設定する

通信方式に応じた設定をします。
設定は、【ステップ2】で作成した［ダイヤルアップ接続］アイコンで行います。本製品をPCカードスロットに挿入したまま（ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

1 ［スタート］→［接続］→［すべての接続の表示］を順にクリックします。



2 ［ダイヤルアップ］欄の変更したい接続のアイコンを右クリック後、表示された［プロパティ］をクリックします。



3 ［市外局番］［電話番号］欄に以下の【通信方式に応じた設定】を行います。
設定後、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。



注意

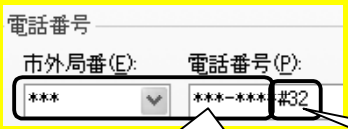
・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、上記画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】**(**すべて半角**)を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例）上記［64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合］の例



①32K 通信に対応した電話番号に変更します。

②電話番号の後に #32 （すべて半角）を入力します。

以上で通信方式に応じた設定は終了です。
次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

ステップ 4

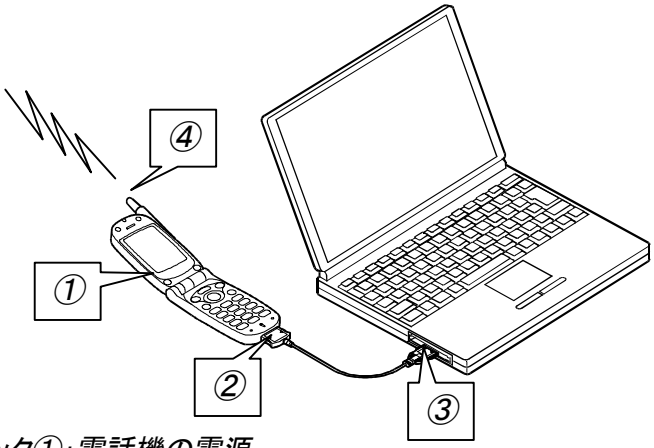
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品をパソコンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップ接続] を設定する】(48 ページ)で作成した[ダイヤルアップ接続]で行います。

1 デスクトップ上に作成した接続のアイコンをダブルクリックします。



参考

デスクトップ上に接続のアイコンのショートカットを作成していない場合は、[スタート]→[接続]→[すべての接続の表示]を順にクリックし、作成した接続のアイコンをダブルクリックしてください。

2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[ダイヤル]ボタンをクリックします。

[ダイヤル]ボタンをクリックすると、指定した電話番号にかかりプロバイダと通信を開始します。



注意

・[ダイヤル]欄の「*-***-****」は、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が表示されていることを確認してください。**
・［次のユーザーが接続するとき……]をチェックすると、ユーザー単位での設定ができます。
セキュリティの必要に応じて設定してください。

参考

接続先の電話番号を確認したい、または変更したい場合は
【設定を変更するとき】(54 ページ)を参照してください。

3 しばらくしてディスプレイ画面右下のタスクトレイに[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されたら、接続完了です。



[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコン

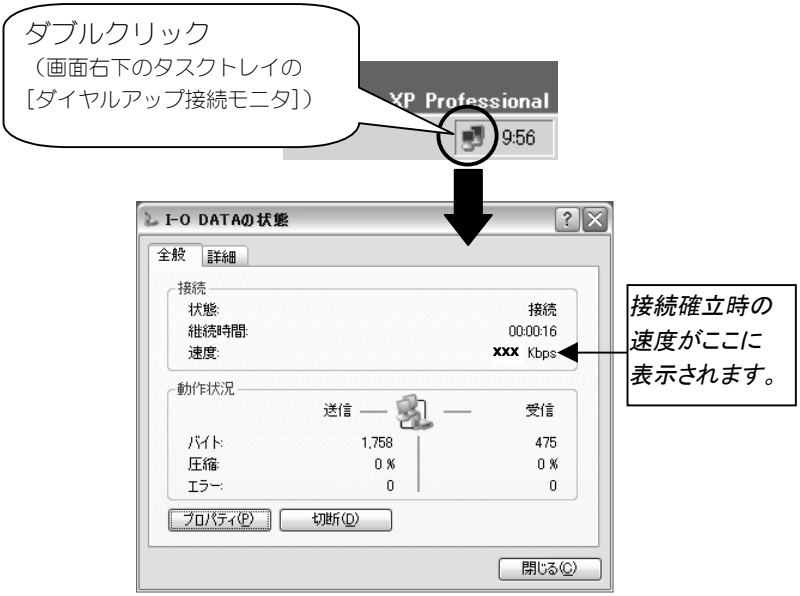
「回線が使用中です」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 328 ページをご参照ください。

[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されない場合は…

【困ったときには】の 330 ページをご参照ください。

4 接続状況は、[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



5 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、ずっと[ダイヤルアップ接続モニタ]が表示されています。

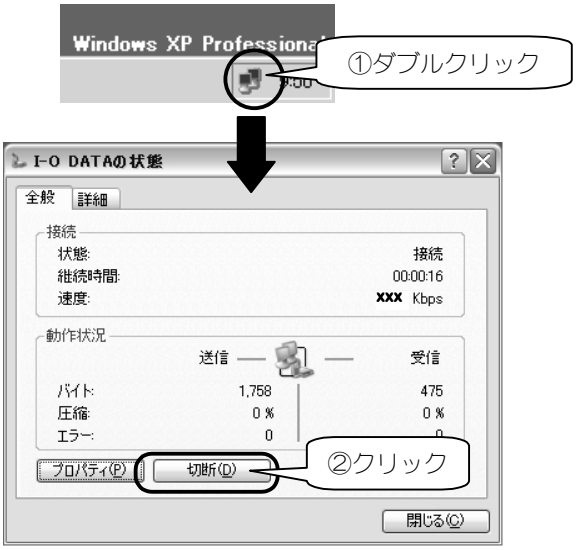
インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。
必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。
クリック後、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えることを必ず確認してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップ接続モニタ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。
これでインターネットが切断され、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えます。



以上で、インターネットは終了できました。

ステップ 5

インターネット接続編

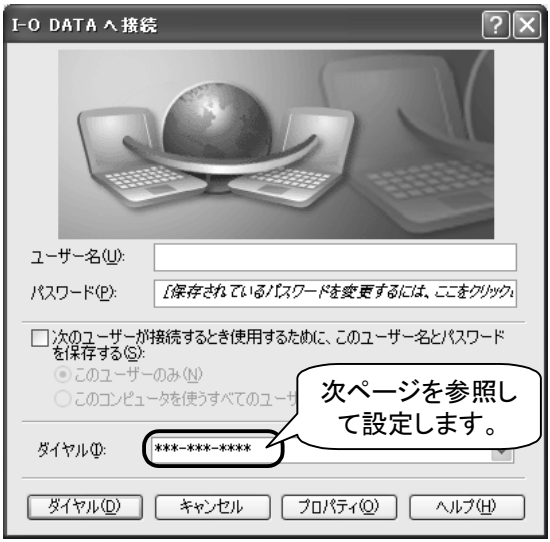
通信方式を変更する場合

通信方式（PIAFS 64K、PIAFS 32K、パケット通信）は、【ステップ３】（59 ページ）で設定することができますが、複数の通信方式でご利用になる場合などに、接続する際に通信方式を設定することもできます。

注意

この設定は、1 回限りなので、インターネットへの接続が終了すると元の設定に戻ります。

1 以下の接続画面（64ページ**2** の手順の画面）で［ダイヤル］欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行います。



注意

・[ダイヤル]欄の「*-***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。**

・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。

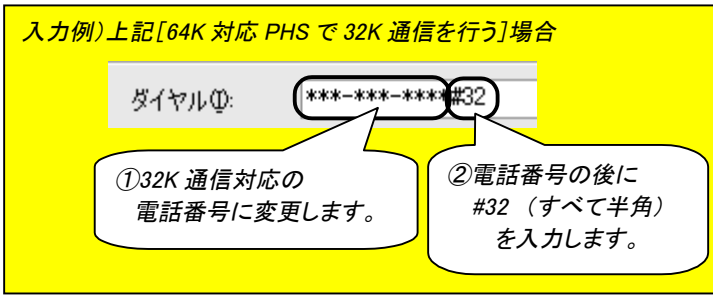
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［ダイヤル］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→ *※ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で 32K 通信を行う]場合



2　[ユーザー名][パスワード]を設定後、
[ダイヤル]ボタンをクリックすれば、設定した通信方式で
インターネットに接続します。

MEMO

4 Windows 2000 で使うには

～ 準備編 ～

本製品で通信できるまでの流れ ····· 72ページ
ステップ1 インストールする ····· 73ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？ 82ページ
ステップ3 端末速度を設定する ····· 84ページ
ステップ4 発信情報を設定する ····· 88ページ
ステップ5 パソコンから取り出す場合 ·· 92ページ
ステップ6 再度取り付ける場合 ····· 93ページ
ステップ7 電話機を変更する場合 ····· 94ページ

～ インターネット接続編 ～

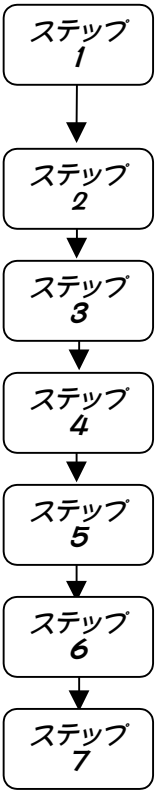
Windows 2000 でインターネットに
接続するには ··· 95ページ
ステップ1 接続前の準備 ····· 96ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ··· 98ページ
ステップ3 通信方式を設定する ·····112ページ
ステップ4 インターネットを楽しもう ····116ページ
ステップ5 通信方式を変更する場合 ··123ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。

ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。



インストールする ····· 73ページ
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。ここではそのインストール手順について説明します。

インストールは正常ですか？ ····· 82ページ
【ステップ1】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

端末速度を設定する ····· 84ページ
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

発信情報を設定する ····· 88ページ
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

パソコンから取り出す場合 ····· 92ページ
本製品をパソコンのPCカードスロットから取り出す手順について説明します。

再度取りつける場合 ····· 93ページ
一度取り出した本製品を再度取りつける手順について説明します。

電話機を変更する場合 ····· 94ページ
使用していた電話機から別の電話機に変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

準備編

インストールする

本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」CD-ROM のインストールが必要です。

・はじめに...

本書で使用しているイラストおよび表示される画面について

次ページ以降のインストール作業を含め、本書では、CFDC-9664P（CFDC-9664P に弊社製 PC カードアダプタ[CFMD-ADP]を取り付けたもの）とPDC 用のケーブルを接続しているイラストおよび画面を例にしています。
他のケーブルおよび PCDC-9664P をご使用の場合には、画面やイラストが異なります。画面に関しては、以下の表の該当する[表示]の個所に読み替えてください。

・CFDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PHS]
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P H]

・PCDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PHS]
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P H]

カードスロットについて

本書では本製品を挿入する（取り付ける）パソコンのカードスロットを「PC カードスロット」を例にしています。
CFDC-9664P を CF カードスロットでお使いの場合は、「PC カードスロット」の個所を「CF カードスロット」に読み替えてください。

「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、添付の「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

注意

弊社製 CardDock2-EX/DV、IN/DV は Windows 2000 には対応しておりませんので、本製品を CardDock2-EX/DV、IN/DV でご利用いただくことはできません。

1 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ
Windows 2000を起動します。

2 電話機の電源を入れます。

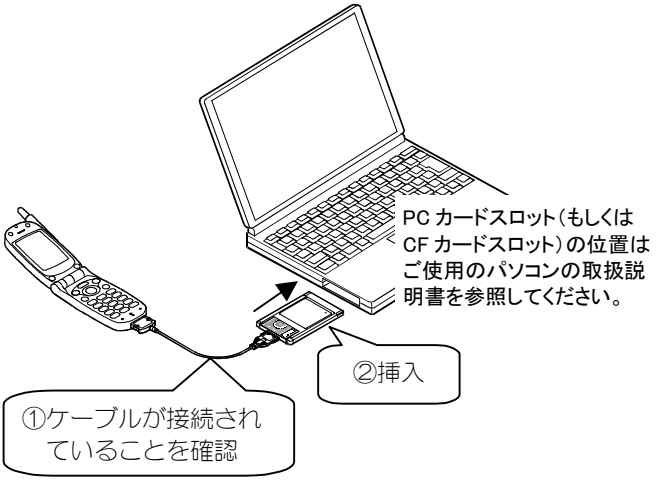


参考

次ページ3 の手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。（接続後に電話機の電源を入れることもできます。）

3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。

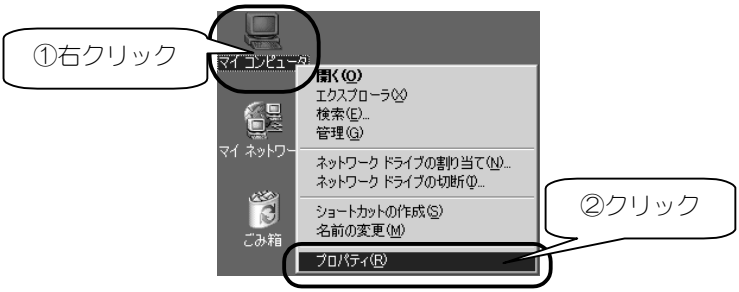
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。
（自動的に[標準PCMCIAカードモデム]として登録されます。）



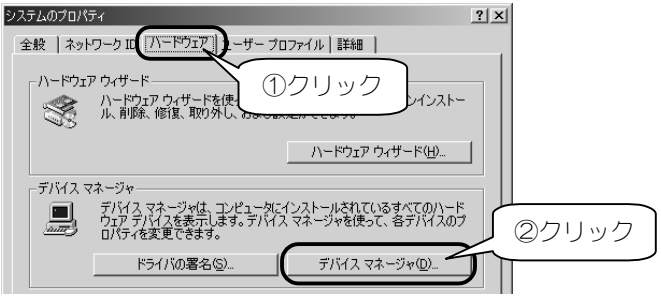
注意

ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

4 [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。



5 [ハードウェア]タブをクリックし、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



6 [モデム]をダブルクリック後に[標準 PCMCIA カードモデム]※を右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックします。

※ケーブルが接続されていないと表示されません。
ケーブルを接続しているのに、表示されない場合は、画面右上の ✕ ボタンをクリックして画面を閉じ、前ページ**3** の手順に戻り、本製品を正しく挿入してみてください。



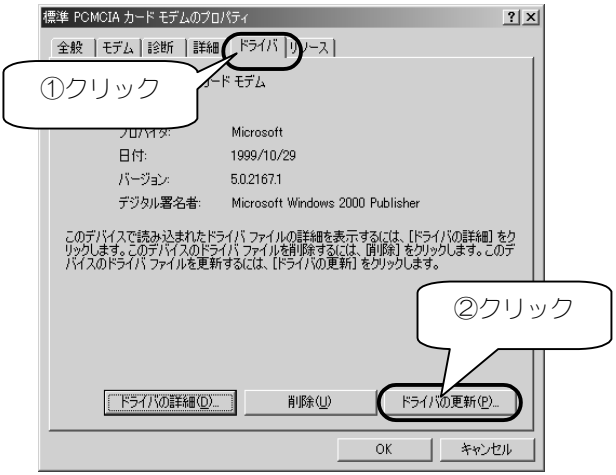
注意

カードにケーブルが接続されていないと上記画面の[標準 PCMCIA カードモデム]は表示されません。
必ずケーブルを接続してから挿入し直してください。

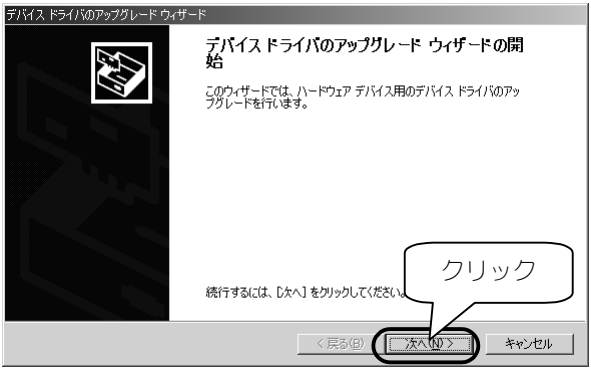
ケーブルを接続しているのに、
[標準 PCMCIA カードモデム]が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
321 ページ
をご参照ください。

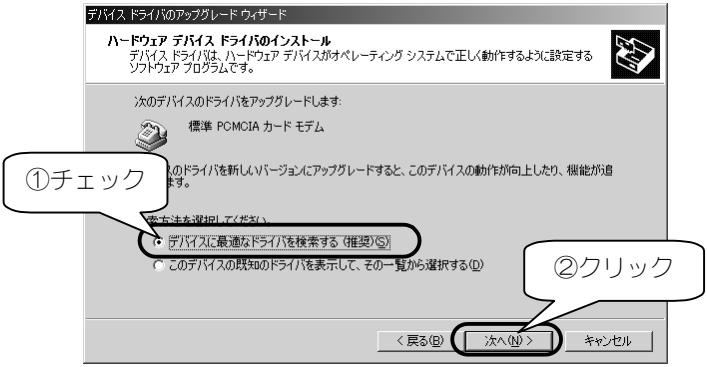
7 [ドライバ]タブをクリックし、
[ドライバの更新]ボタンをクリックします。



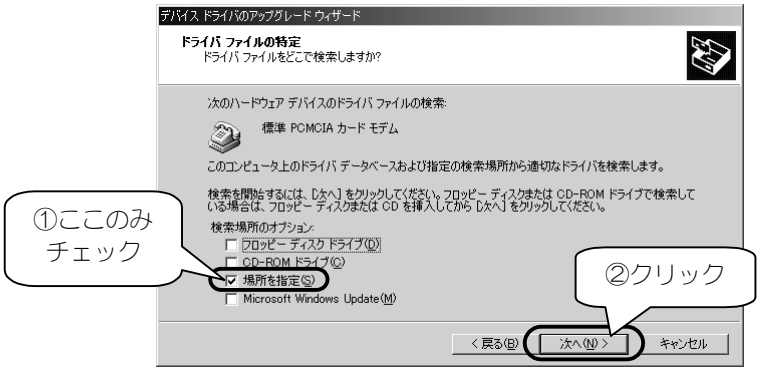
8 以下の画面で、[次へ]ボタンをクリックします。



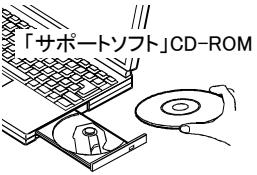
9 「デバイスに最適なドライバを検索する」をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



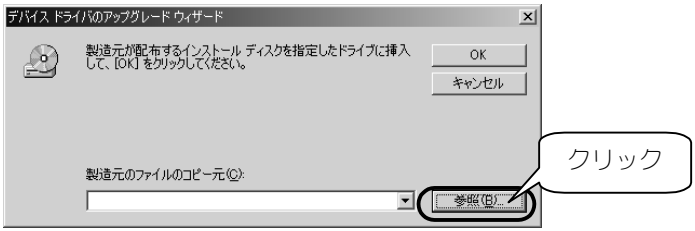
10 [場所を指定]のみにチェックし（他のチェックは外してください）、
[次へ]ボタンをクリックします。



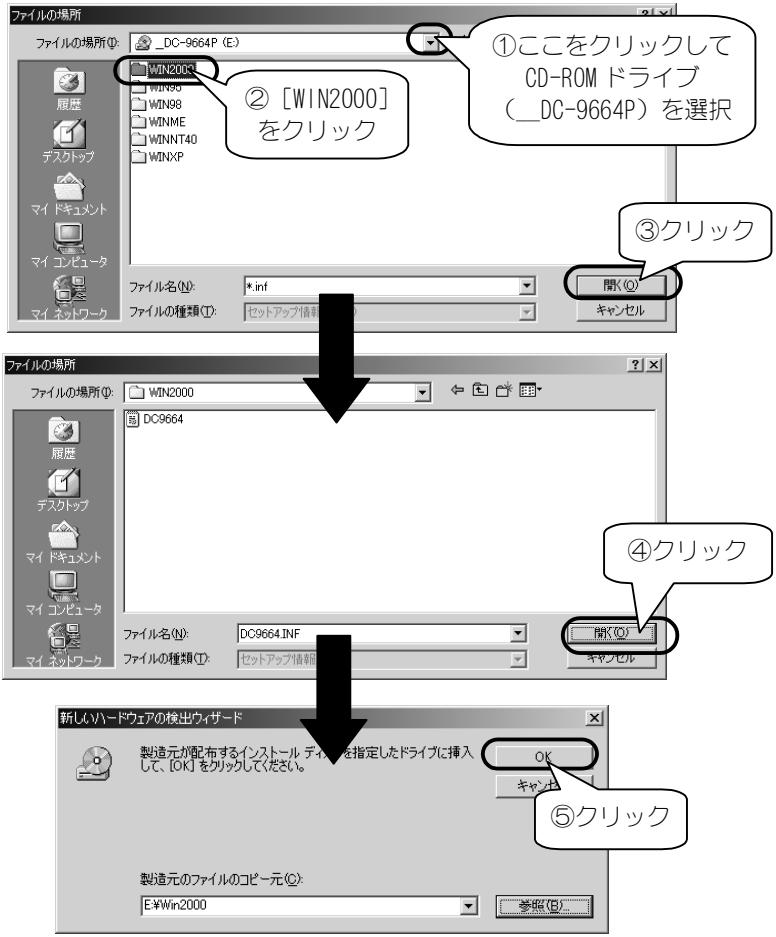
11 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



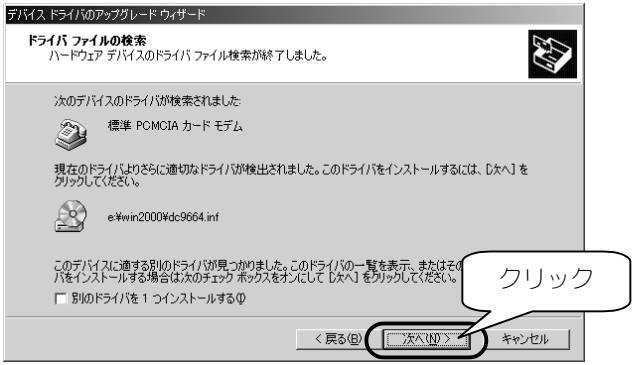
12 画面の[参照]ボタンをクリックします。



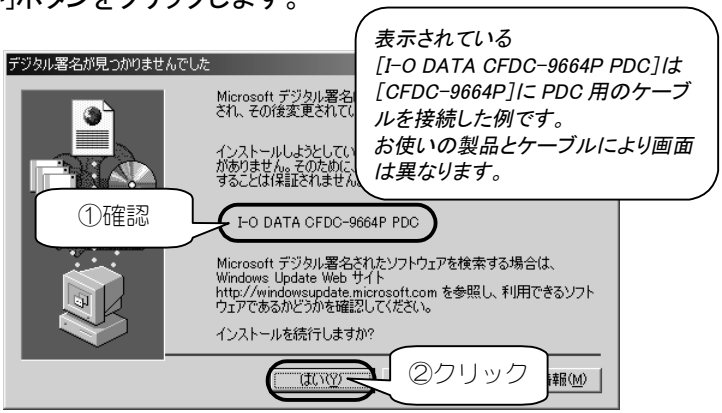
13 「サポートソフト」CD-ROM内の[WIN2000]フォルダを指定後、[OK]ボタンをクリックします。



14 [次へ]ボタンをクリックします。



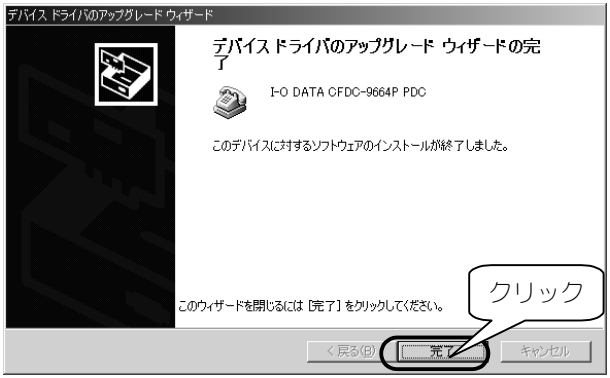
15 画面に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては 73 ページを参照してください）が表示されていること確認後、[はい]ボタンをクリックします。



参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は現時点では認定を受けておりません。

16 [完了]ボタンをクリックします。

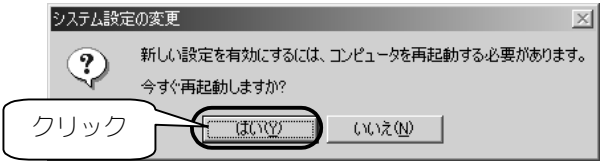


17 ***16*** の手順の画面が消えたらCD-ROMドライブから「サポートソフト」ディスクを取り出します。

18 すべての画面を閉じて、本製品を挿入したまま、パソコンを再起動してください。

以下の画面が表示された場合は、[はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。

表示されなかった場合は、手動でパソコンを再起動してください。([スタート]→[シャットダウン]を順にクリックし、表示された画面で[再起動]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。)



以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

注意

Windows 2000 使用中に本製品の動作を終了しないで PC カードスロットから取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。取り出す際には【パソコンから取り出す場合】(92 ページ)を参照してください。

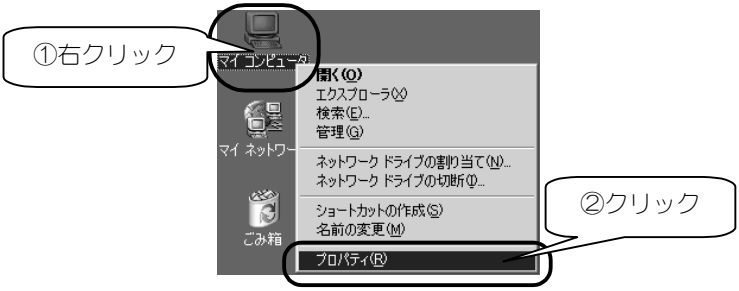
ステップ 2

準備編

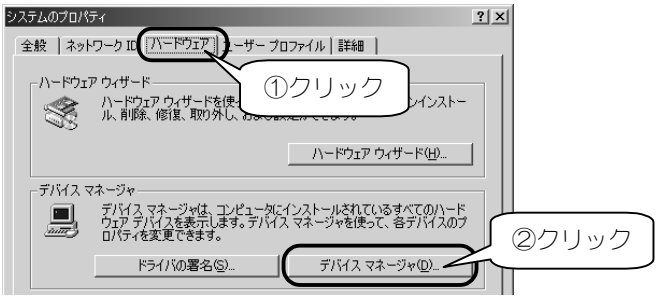
インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま(専用ケーブルを電話機に接続した状態）で確認してください。

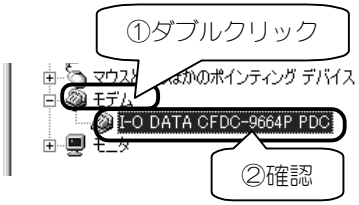
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



2 [ハードウェア]タブをクリックし、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、「I-O DATA xxDC-9664P xxx」(※ここの表示に関しては 73 ページ参照)が表示されていることを確認します。
また、表示の頭に[！]マークがないことも確認します。



表示されている
[I-O DATA CFDC-9664P PDC]は
[CFDC-9664P]に PDC 用のケーブルを接続した例です。
お使いの製品とケーブルにより画面は異なります。

「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されない場合は…
【困ったときには】の 324 ページをご参照ください。

「I-O DATA xxDC-9664P xxx」の頭に[！]マークが表示されている場合は…
【困ったときには】の 324 ページをご参照ください。

4 画面右上の ✕ ボタンをクリックして、画面を閉じます。
前ページ手順**2**の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度を設定します。次ページへお進みください。

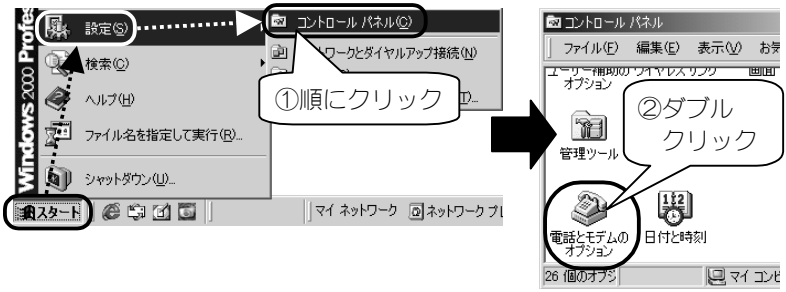
ステップ 3

準備編

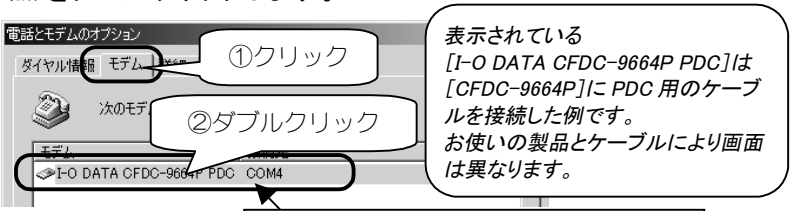
端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかを確認します。
設定と確認は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定および確認してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



2 「電話とモデムのオプション」画面で[モデム]タブをクリック後、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては73ページ参照）をダブルクリックします。



表示されている[I-O DATA CFDC-9664P PDC]は[CFDC-9664P]に PDC 用のケーブルを接続した例です。お使いの製品とケーブルにより画面は異なります。

本製品が COM4 に割り当てられている例です。使用しているパソコン環境により、COM 番号は変わります。

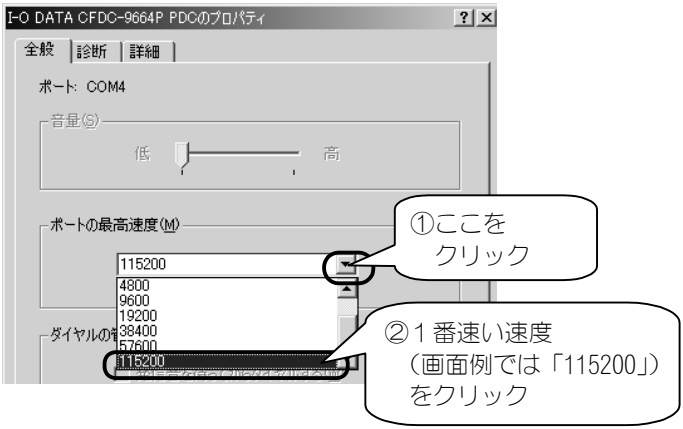
「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されない場合は…

【困ったときには】の 325 ページをご参照ください。

3 端末速度を設定します。

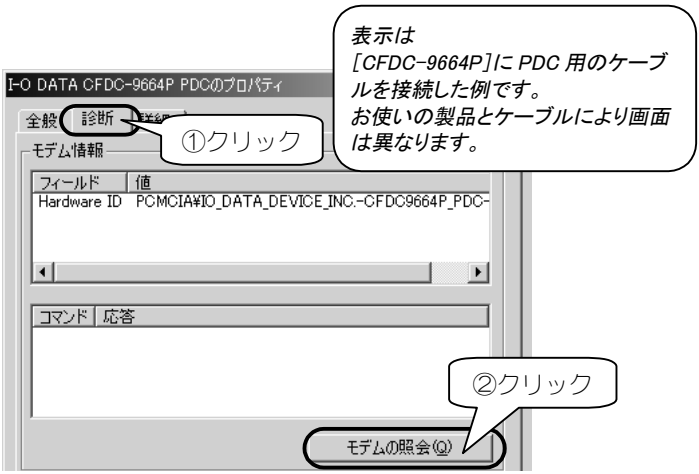
[全般]タブで、[ポートの最高速度]を選択肢中で一番速い速度に設定します。

最高速度には、選択できる速度のうち、最高の速度（115200bpsが望ましい）を設定しておくと、最大パフォーマンスが引き出せます。



4 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

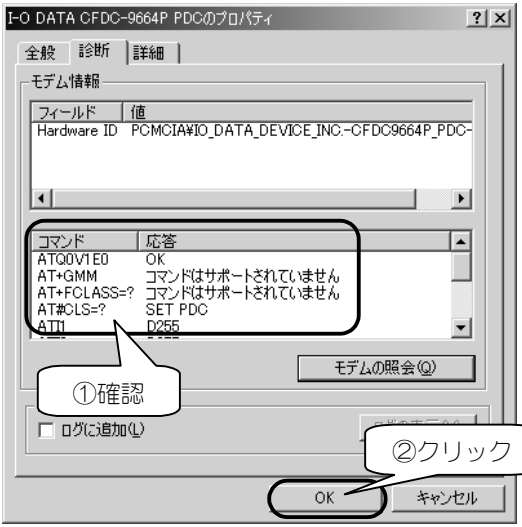
[診断]タブをクリックして、
[モデムの照会]ボタンをクリックします。



5 「お待ちください」と表示されます。
以下の**6**の手順の画面が表示されるまで、そのままでお待ちください。



6 しばらくすると以下のように表示されます。
確認後、[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら正常です。



「ポートが開けません」などと
表示された場合は…

【困ったときには】の
325 ページ
をご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間の通信テストであり、電話機を介して通信するテストではありません。
・[応答]欄に[コマンドはサポートされていません]と表示されていますが、動作上問題ありません。

7 [OK]ボタンをクリックし、
[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

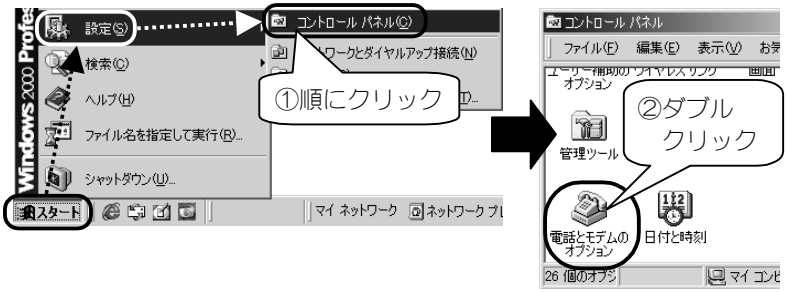
ステップ 4

準備編

発信情報を設定する

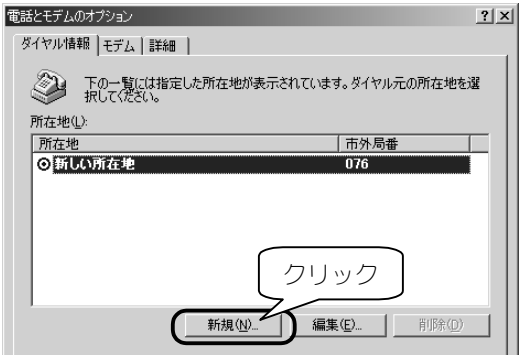
インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［電話とモデムのオプション］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに挿入したまま(専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。



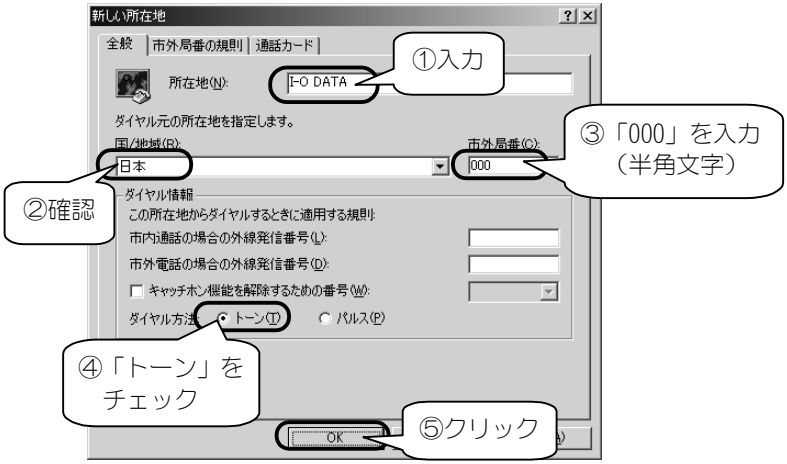
2 [新規]ボタンをクリックします。

電話機で発信するための設定（所在地）を登録したことがある場合は、
次ページ**3**の手順へ進んでください。
（一般公衆回線やISDN回線用の所在地とは設定内容が異なります。
この場合は新しく所在地を追加してください。）



3 [全般]タブで必要な情報を設定して、
[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	所在地	任意の名称(プロバイダの名前など、お好きな名称)を入力
②	国／地域	「日本」であることを確認
③	市外局番	「000」などの存在しない数値を入力(半角文字) ※PHS や PDC は市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 (設定しないと市外局番から発信できません。)
④	ダイヤル方式	「トーン」を選択



4 [OK]ボタンをクリックし、
[電話とモデムのオプション]画面を閉じます。

5 *ドッチーモでPHS通信を行う場合のみ*
91ページを参照して追加設定を行ってください。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ5】(92 ページ)および【ステップ6】(93 ページ)を参照して、本製品の正しい取り出し方・取り付け方をマスターしてください。
電話機を変更する場合は、【ステップ7】(94 ページ)を参照してください。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→【Windows 2000 でインターネットに接続するには】(95 ページ)へ
Lotus Notes でモバイル通信したい	→【Lotus Notes でモバイル通信したい】(346 ページ)へ

●ドッチーモで PHS 通信を行う場合の追加設定

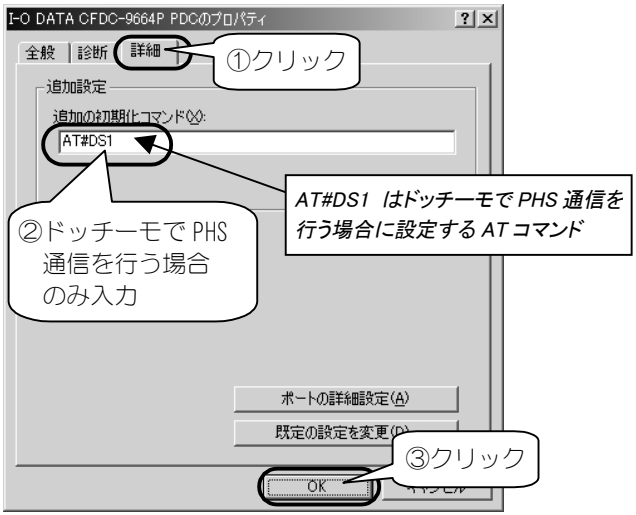
電話機の[カード選択]モードを[自動]にしてご使用ください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。

2 [モデム]タブをクリックし、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



3 [詳細]タブをクリックし、[追加の初期化コマンド]に半角で「AT#DS1」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



4 後は[OK]ボタンや[閉じる]ボタンをクリックして画面を閉じてください。

ステップ 5

準備編

パソコンから取り出す場合

本製品を使用しなくなった場合などに、パソコンの PC カードスロット（もしくは CF カードスロット）から取り出すには、以下の方法があります。

・パソコンの電源を切った後に取り出す

・Windows 2000 を使用中に本製品の動作を終了して取り出す

Windows 2000 を使用中に取り出す際に、以下の本製品の動作を終了する手順を行わずに取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

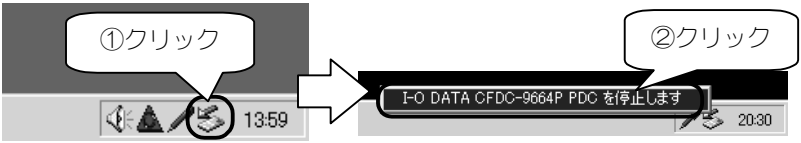
取り出す際には、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認した後、必ず以下の手順を行ってください。

注意

以下の動作の終了作業を行うと、実際に本製品を抜かなくても、本製品は使えなくなります。再度使いたいときは、いったん本製品を PC カードスロットから取り出してから再び差し込んでください。

本製品の動作を終了する

1 ディスプレイ画面右下のタスクトレイにある アイコンをクリックし、[I-O DATA xxDC-9664P xxxを停止します]をクリックします。



2 [OK]ボタンをクリック後、
本製品をPCカードスロットから取り出してください。



ステップ 6

準備編

再度取り付ける場合

本製品は、パソコンの電源を入れる前でも、また、パソコンの電源を入れた後（Windows を起動した後）のどちらでもパソコンに取り付けることができます。

ただし、***必ず以下のことを確認してから、本製品を PC カードスロットに差し込んでください。***

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ
7

準備編

電話機を変更する合

使用していた電話機から別の電話機に変更する場合は、以下の手順で
変更してください。

1 パソコンの電源を切り、本製品をケーブルを接続したままPCカードスロットから取り出します。

2 電話機からケーブルを取り外します。
(【電話機からケーブルを取り外す場合】(14ページ)参照)

3 変更する電話機に応じたケーブルを確認します。
(【接続ケーブルを確認する】(8ページ)参照)

4 ケーブルを別のケーブルに変える場合は、ケーブルを本製品から取り外し、電話機に応じたケーブルを本製品に接続し直します。(【本製品と電話機を接続する】(12ページ)参照)

5 電話機にケーブルを接続します。
(【電話機にケーブルを接続する】(11ページ)参照)

6 パソコンの電源を入れ、本製品をPCカードスロットに挿入します。挿入後、自動的にケーブルに応じたドライバソフトがインストールされます。

注意

電話機(およびケーブル)を切り替えても自動で Windows に認識されますので、インストール作業はありません。
ただし、ケーブルを変更した場合は、Windows 上で表示される名称が異なります。
表示については、73 ページにてご確認ください。

以上で、電話機の変更手順は終了です。

インターネット接続編

Windows 2000 で インターネットに接続するには

【準備編】（【ステップ１】（73 ページ）～【ステップ7】（94 ページ））が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· 96ページ

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- 本製品、電話機の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア ····· 98ページ

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- ダイヤルアップ接続

ステップ 3

通信方式を設定する ····· 112ページ

通信方式に応じた設定について説明します。

ステップ 4

インターネットを楽しもう ····· 116ページ

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 5

通信方式を変更する場合 ····· 123ページ

通信方式を変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合には、キャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（98 ページ【ステップ２】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ４】116 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。

注意

ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

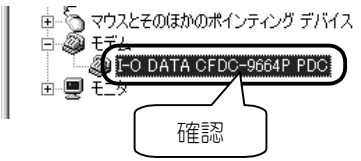
接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(73 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(82 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[デバイスマネージャ]画面の[モデム]の下に
「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されていることの確認



表示は[CFDC-9664P]に PDC 用のケーブルを接続した例です。お使いの製品とケーブルにより画面は異なります。

②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

100 ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、100 ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows 2000 には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

次ページ以降で[ダイヤルアップ接続]の設定について説明します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップ接続]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[ダイヤルアップ接続]を設定する必要があります。
本製品をPCカードスロットに挿入したまま(ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

はじめて［ダイヤルアップ接続］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、以下の【新しい設定を作るとき】を行います。

参考1

ダイヤルアップとは
→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続すること。

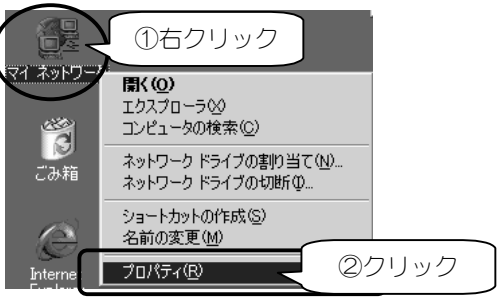
参考2

すでにダイヤルアップ接続（インターネット）の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 108 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

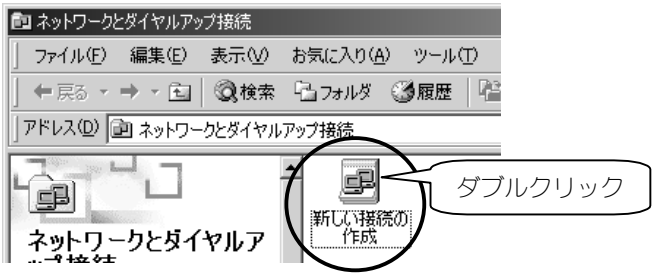
新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

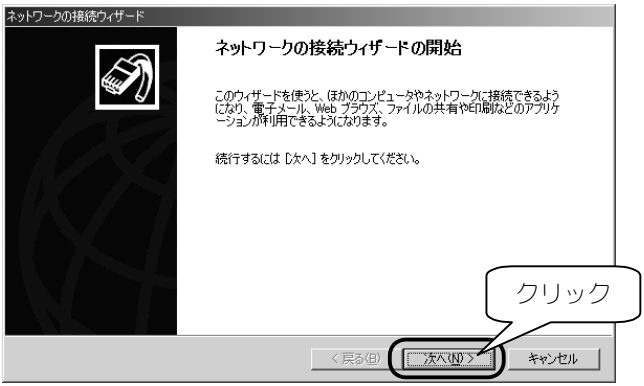
2 [マイネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。



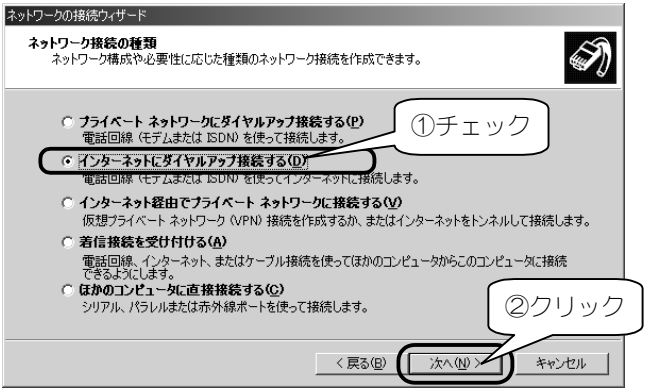
3　[新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックします。



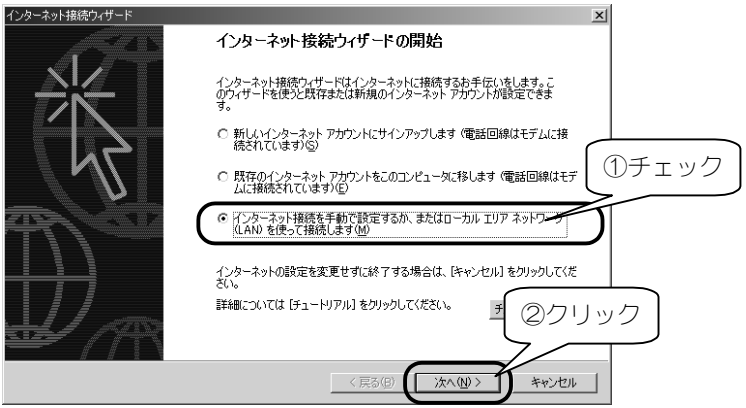
4　[次へ]ボタンをクリックします。



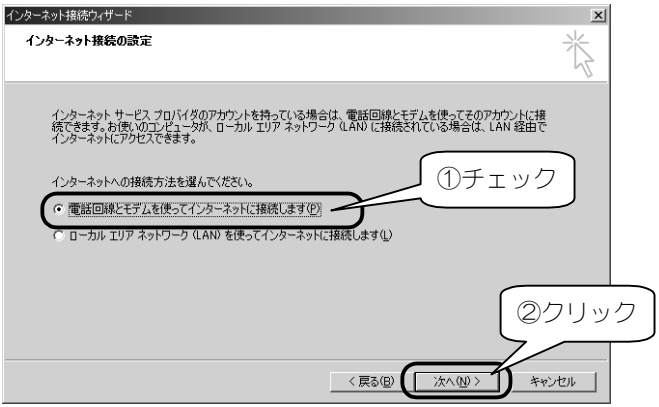
5　[インターネットにダイヤルアップ接続する]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



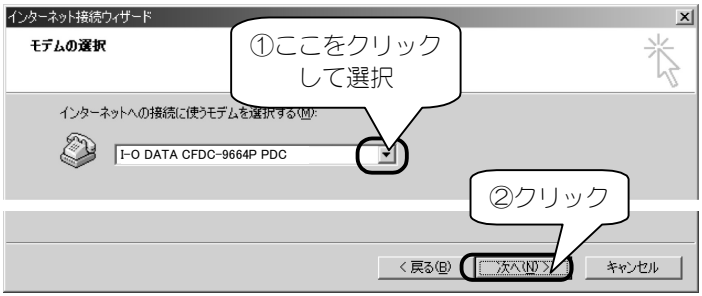
6 [インターネット接続を手動で設定するか、……]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



7 [電話回線とモデムを使ってインターネットに…]をチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



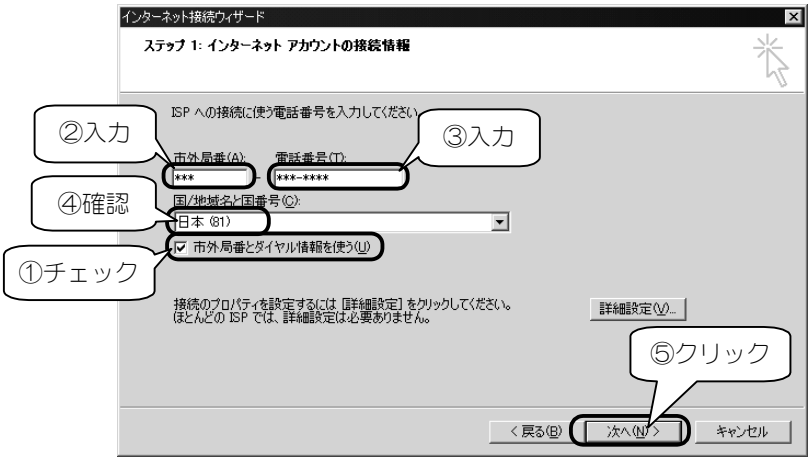
8 複数のモデムがインストールされている場合は以下の画面が表示されますので、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては73ページを参照してください）を選択して、
[次へ]ボタンをクリックします。



9 以下のようにプロバイダの電話番号などを設定します。

①[市外局番とダイヤル情報を使う]をチェックします。
②[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
※ダイヤル先が市内であっても、必ず市外局番から入力してください。
③[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
④[国/地域名と国番号]欄は、「日本」であることを確認します。

[電話番号]以外に、プロバイダからネームサーバーアドレス（プライマリDNS、セカンダリDNS）を案内されている場合は次ページを参照してください。
設定後、[次へ]ボタンをクリックします。



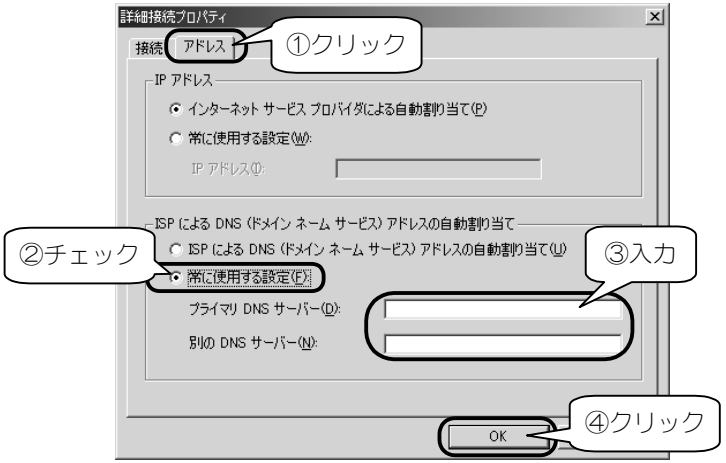
注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●プロバイダからネームサーバーアドレス（プライマリDNS、セカンダリDNS）を案内されている場合

1 前ページ***9*** の手順の画面で、[詳細設定]ボタンをクリックします。

2 [詳細接続プロパティ]画面で以下を設定します。
①[アドレス]タブをクリックします。
②[常に使用する設定]をチェックします。
③[プライマリ DNS サーバー]欄にプライマリ DNS を、[別の DNS サーバー]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。

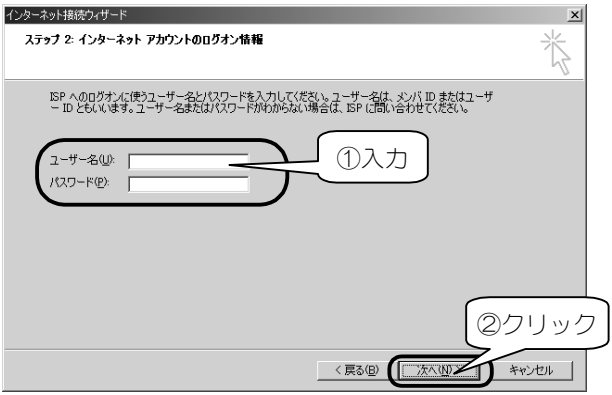


3 前ページ***9*** の手順の画面に戻りますので、[次へ]ボタンをクリックして、次ページ ***10*** への手順へお進みください。

注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

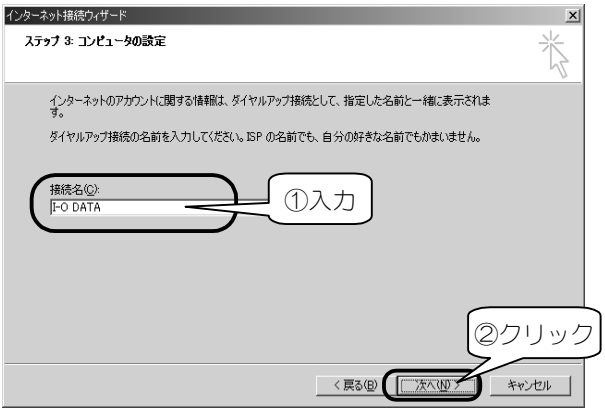
10 プロバイダから案内された[ユーザー名]や[パスワード]を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



注意

パスワードは[*****]と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。

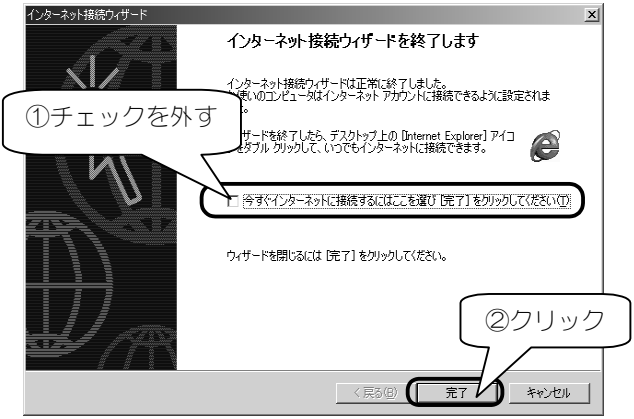
11 [接続名]欄に任意の接続名（プロバイダの名前など、お好きな名前）を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。



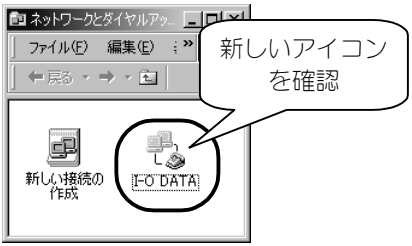
12 [いいえ]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。
メールアカウントの設定はメールソフト側で行えるので、本書では、ここで設定は行いません。



13 [今すぐインターネットに…]のチェックを外して、
[完了]ボタンをクリックします。



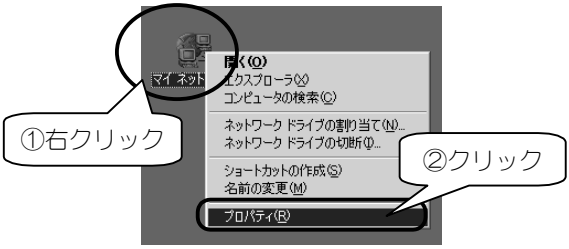
14 新しく作成された接続アイコンを確認します。



以上で、[ダイヤルアップ接続]の設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
112 ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

設定を変更するとき

1 [マイネットワーク]アイコンを右クリックして、
表示された[プロパティ]をクリックします。



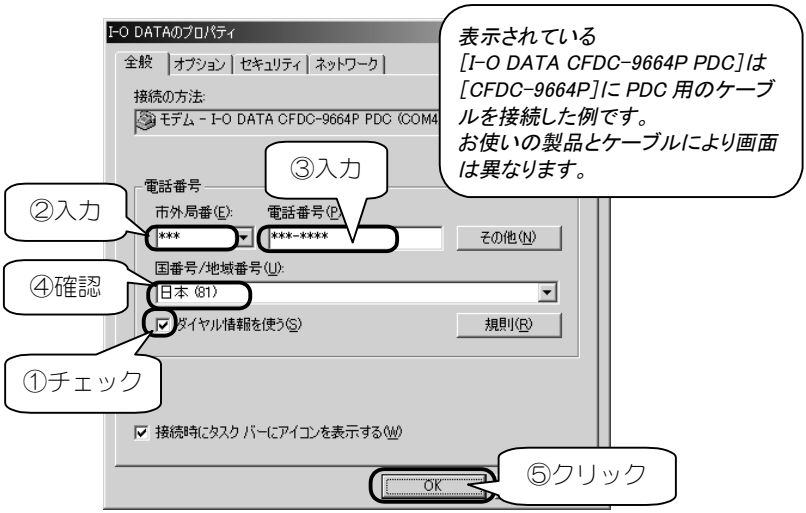
2 変更したい接続のアイコンを右クリックして、
表示された[プロパティ]をクリックします。



3 以下のようにプロバイダの電話番号などを設定します。

①[ダイヤル情報を使う]をチェックします。
②[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
③[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
④[国番号/地域番号]欄は、「日本」であることを確認します。

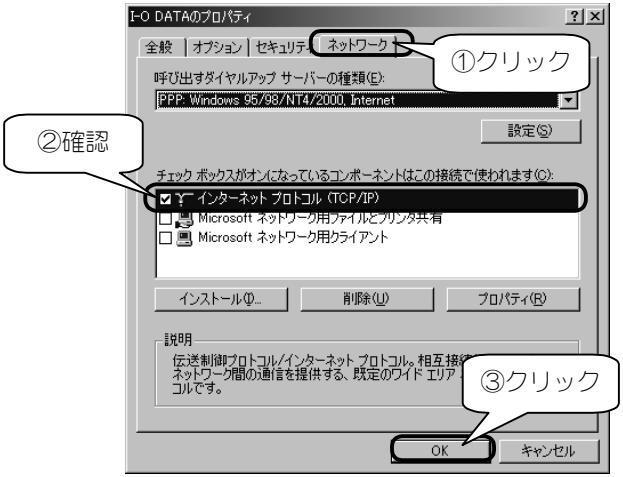
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）
・ご契約のプロバイダによっては、モバイル専用電話番号として、#** の番号で案内されている場合があります。その場合は、[市外局番]を空白にして電話番号に #**** を入力してください。（#**** はダイヤル番号になります。必ず、市外局番、電話番号は半角文字で入力してください。）**

4 [ネットワーク]タブをクリックして、
[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のみにチェックが付いていることを確認します。
プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照し、設定してください。
[OK]ボタンをクリックします。

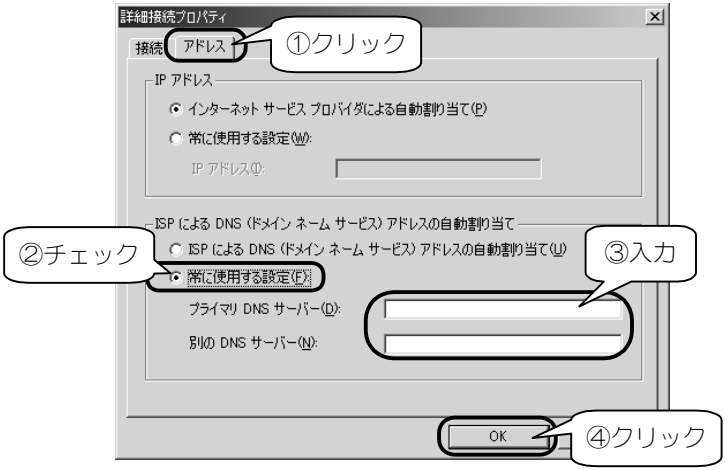


これでダイヤルアップ接続の設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
112 ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**4**の手順の画面で、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックした後、[プロパティ]ボタンをクリックします。

2 [インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面が表示されますので、以下を設定します。
①[次の DNS サーバーのアドレスを使う]をチェックする
②[優先 DNS サーバー]欄にプライマリ DNS を、[代替 DNS サーバー]欄にセカンダリ DNS の値を入力する
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



3 前ページ**4**の手順の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

ステップ 3

インターネット接続編

通信方式を設定する

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
次ページ以降を参照して追加設定してください。
以下に該当しない場合は、本ステップを読み飛ばし、【ステップ４】(116 ページ)へお進みください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。(次ページの手順と 91 ページの手順の両方の手順が必要です。)*	次ページの手順で変更します。
64K 対応 H"で PIAFS 32K 通信を行う場合	
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合	

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント(電話番号)も異なる(別になっている)場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

注意

・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

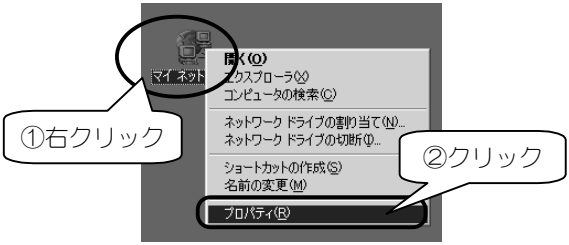
参考

ここでの設定は、1つのプロバイダのみに接続する場合(1つの通信方式しか使用しない場合)の設定です。
複数のプロバイダに接続する場合など、プロバイダ毎に通信方式を変更したい場合は、接続する際に設定し直すこともできます。手順については、【ステップ5 通信方式を変更する場合】(123 ページ)を参照してください。

通信方式に応じて設定する

通信方式に応じた設定をします。
設定は、【ステップ2】で作成した［ダイヤルアップ接続］アイコンで行います。本製品をPCカードスロットに接続したままで設定してください。

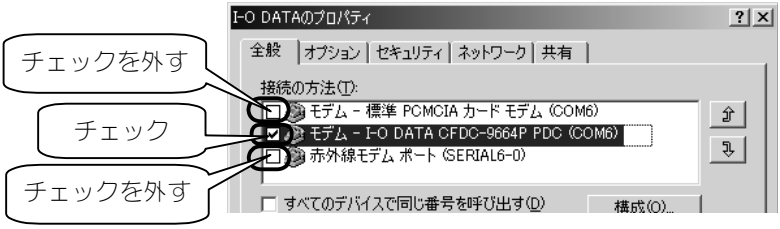
1 ［マイネットワーク］アイコンを右クリックして、
表示された［プロパティ］をクリックします。



2 作成した接続のアイコンを右クリックして、
表示された［プロパティ］をクリックします。

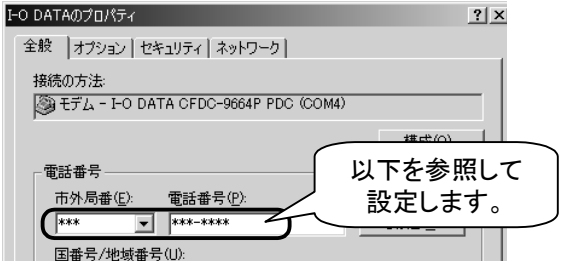


3 ［接続の方法］欄に複数のモデムが表示された場合、
［I-O DATA xxDC-9664P xxx］（※ここの表示に関しては 73 ページを参照してください）のみをチェックします。
他のモデムのチェックを外します。



4

［市外局番］［電話番号］欄に以下の【通信方式に応じた設定】を行います。
設定後、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。



注意

・［市外局番］［電話番号］欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、上記画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】（すべて半角）**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例）上記［64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合］の例



①32K 通信に対応した電話番号に変更します。

②電話番号の後に #32（すべて半角）を入力します。

これで通信方式に応じた設定は終了です。
次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

ステップ 4

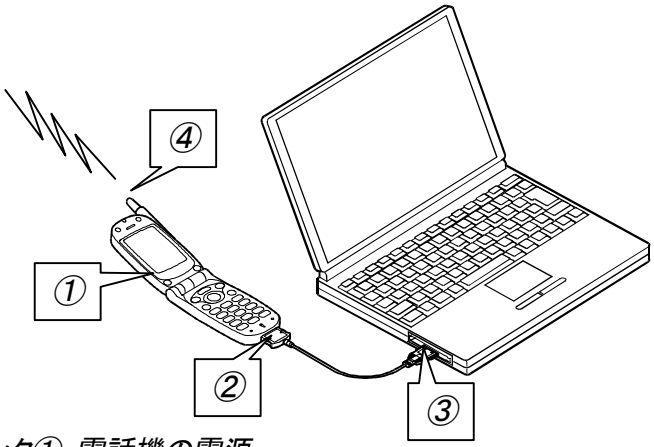
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品をパソコンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

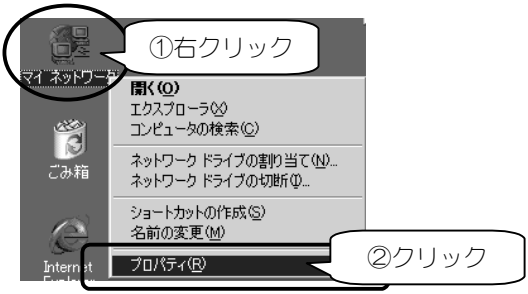
注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップ接続] を設定する】(100 ページ) で作成した[ダイヤルアップ接続]で行います。

1 [マイネットワーク]を右クリックし、
メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

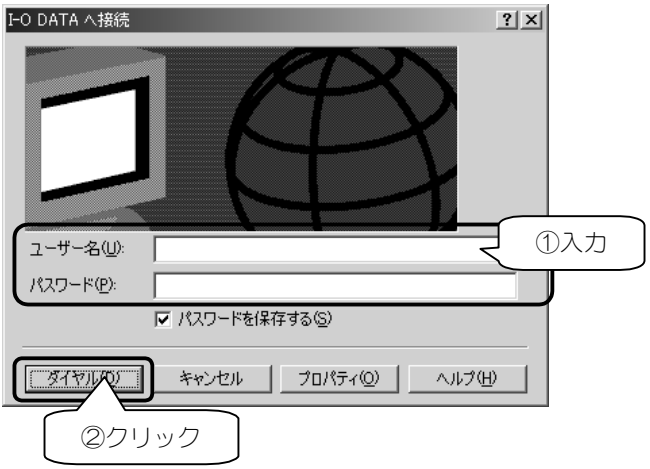


2 新しく作成した接続のアイコンをダブルクリックします。



3 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力し、[ダイヤル]ボタンをクリックします。

[ダイヤル]ボタンをクリックすると、指定した電話番号（次ページの手順で確認できます）にかかりプロバイダと通信を開始します。



注意

・パスワードは[*****]と表示されます。
入力した文字数に関係無く、16 桁ですが、Windows 2000 のセキュリティ上の仕様です。
・[パスワードを保存する]をチェックすると、次回からパスワードが[*]印で表示されますので、パスワードを入力する必要がありません。
セキュリティの必要に応じてお使いください。

参考

接続先の電話番号を確認したい、または変更したい場合は
→[プロパティ]ボタンをクリックし、次ページを参照してください。

●接続先の電話番号を確認したい、または変更したい場合

1 前ページ**3**の手順の画面で、[プロパティ]ボタンをクリックします。

2 以下の各設定を行い、[OK]ボタンをクリックします。

①[接続の方法]欄は、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されていること（複数のモデムがある場合は[I-O DATA xxDC-9664P xxx]のみがチェックされていること）を確認します。
②[ダイヤル情報を使う]をチェックします。
③[市外局番]欄には、接続先の市外局番を確認または入力します。
④[電話番号]欄には、接続先の電話番号を確認または入力します。
⑤[国番号/地域番号]欄は、「日本」であることを確認します。

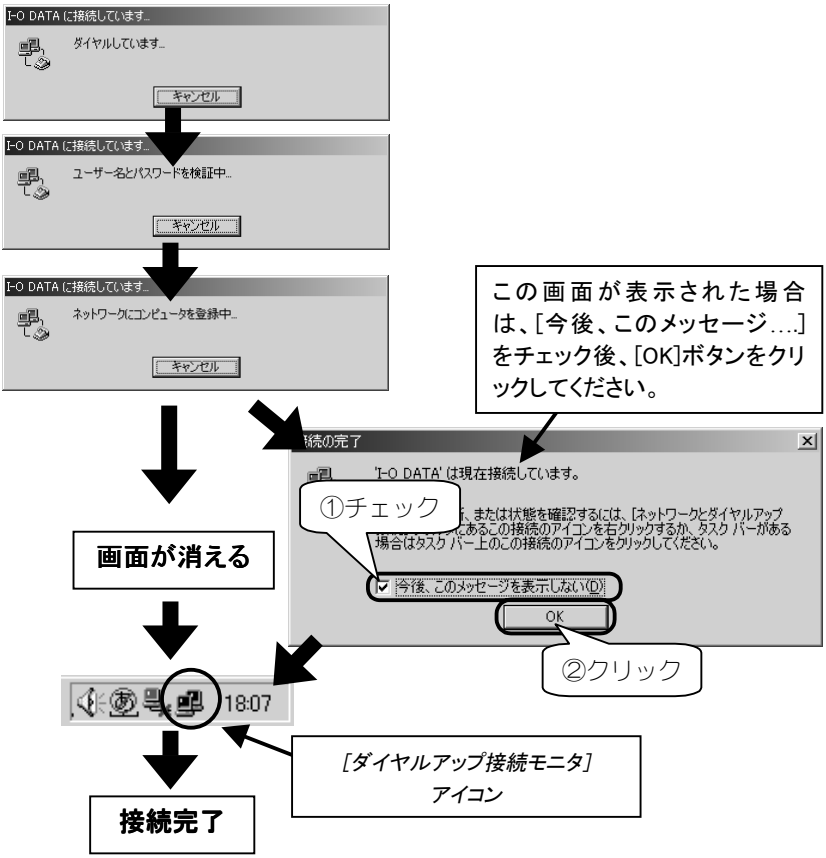


3 前ページ**3**の手順の画面に戻りますので、[ダイヤル]ボタンをクリックして、インターネットに接続しましょう。

注意

ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

4 しばらくしてパソコンの画面右下のタスクトレイに[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されたら、接続完了です。



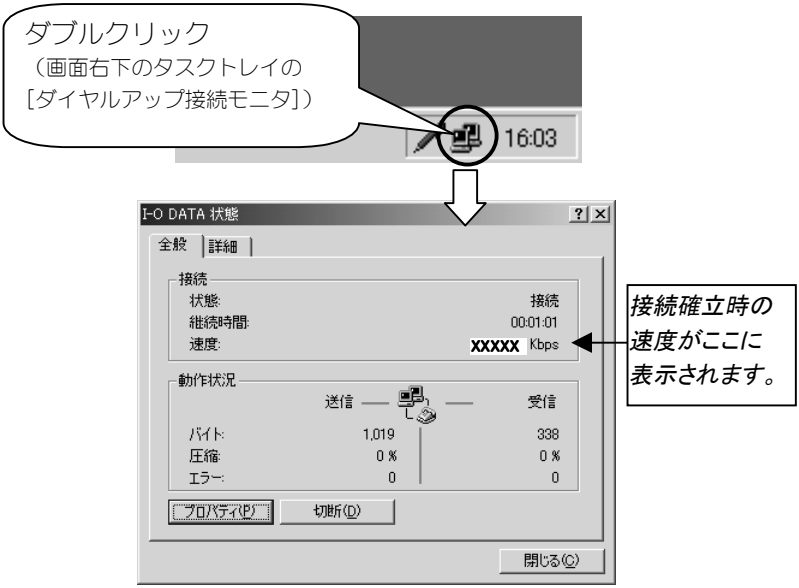
「回線が使用中です」などと表示された場合は…

【困ったときには】の328ページをご参照ください。

[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンが表示されない場合は…

【困ったときには】の330ページをご参照ください。

5 接続状況は、[ダイヤルアップ接続モニタ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



6 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、ずっと[ダイヤルアップ接続モニタ]が表示されています。

インターネットを終了する

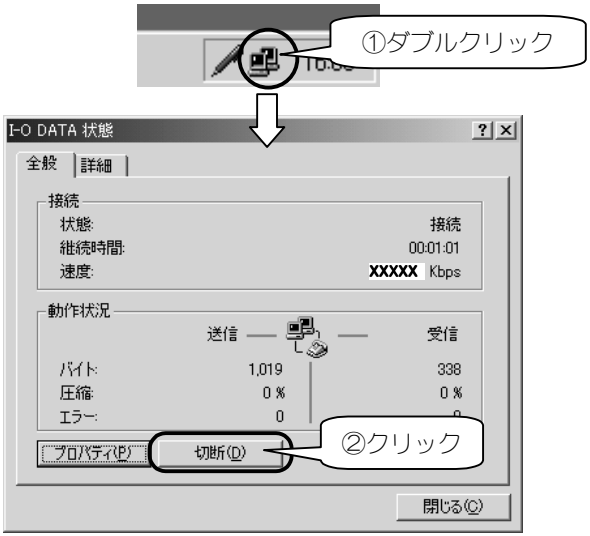
インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。クリック後、電話機の通話が終わっていること、また、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えることを必ず確認してください。
・電話機の通話だけを切ってもパソコン側の通信は終了しません。必ずパソコン側で切断してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップ接続モニタ]をダブルクリックし、[切断]をクリックします。

これで電話回線が切断され、[ダイヤルアップ接続モニタ]が消えます。
電話機の通話も自動的に切断されますので、液晶表示を見て通話が終わっていることを確認してください。



以上で、インターネットは終了できました。

ステップ 5

インターネット接続編

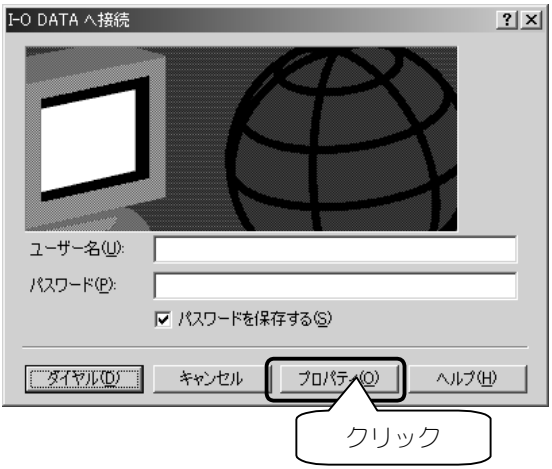
通信方式を変更する場合

通信方式は、【ステップ３】(112 ページ)で設定することができますが、複数の通信方式でご利用になる場合などに、接続する際に通信方式を設定することもできます。

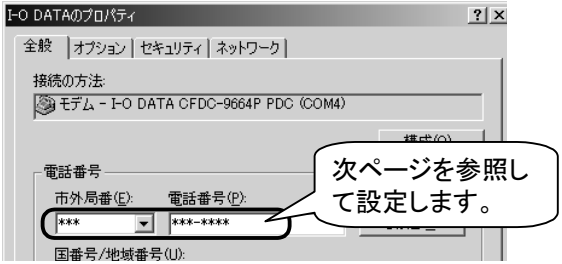
注意

この設定は、1 回限りなので、インターネットへの接続が終了すると元の設定に戻ります。

1 以下の接続画面(118ページの*3* の手順の画面)で[プロパティ]ボタンをクリックします。



2 ［市外局番］［電話番号］欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行います。
設定後、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。



注意

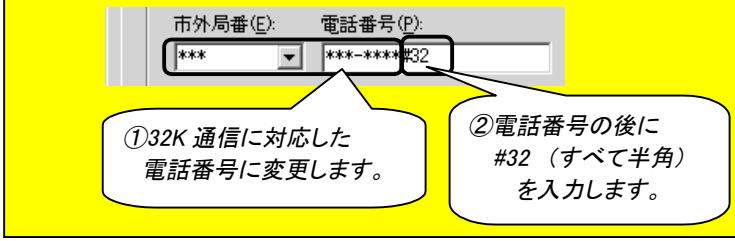
・［市外局番］［電話番号］欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→ *※ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



3　[ダイヤル]ボタンをクリックすれば、設定した通信方式でインターネットに接続します。

MEMO

5 Windows Me で使うには

～ 準備編 ～

本製品で通信できるまでの流れ ……128ページ
ステップ1 インストールする ……129ページ
ステップ2 インストールは正常ですか？135ページ
ステップ3 端末速度を設定する……137ページ
ステップ4 発信情報を設定する……140ページ
ステップ5 パソコンから取り出す場合 ・144ページ
ステップ6 再度取り付ける場合 ……145ページ
ステップ7 電話機を変更する場合 ……146ページ

～ インターネット接続編 ～

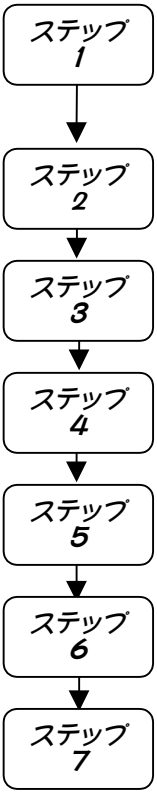
Windows Me でインターネットに
接続するには ‥147ページ
ステップ1 接続前の準備……148ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ‥150ページ
ステップ3 通信方式を設定する……161ページ
ステップ4 インターネットを楽しもう ‥‥165ページ
ステップ5 通信方式を変更する場合 ‥170ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。

ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。



インストールする …… 129ページ
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。ここではそのインストール手順について説明します。

インストールは正常ですか？ …… 135ページ
【ステップ1】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

端末速度を設定する …… 137ページ
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

発信情報を設定する …… 140ページ
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

パソコンから取り出す場合 …… 144ページ
本製品をパソコンのPCカードスロットから取り出す手順について説明します。

再度取りつける場合 …… 145ページ
一度取り出した本製品を再度取りつける手順について説明します。

電話機を変更する場合 …… 146ページ
使用していた電話機から別の電話機に変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

準備編

インストールする

本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」CD-ROM のインストールが必要です。

・はじめに...

本書で使用しているイラストおよび表示される画面について

次ページ以降のインストール作業を含め、本書では、CFDC-9664P（CFDC-9664P に弊社製 PC カードアダプタ[CFMD-ADP]を取り付けたもの）とPDC 用のケーブルを接続しているイラストおよび画面を例にしています。

他のケーブルおよび PCDC-9664P をご使用の場合には、画面やイラストが異なります。画面に関しては、以下の表の該当する[表示]の個所に読み替えてください。

・CFDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PHS]
H″&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P H]

・PCDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PHS]
H″&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P H]

カードスロットについて

本書では本製品を挿入する（取り付ける）パソコンのカードスロットを「PC カードスロット」を例にしています。

CFDC-9664P を CF カードスロットでお使いの場合は、「PC カードスロット」の個所を「CF カードスロット」に読み替えてください。

「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、添付の「サポートソフト」CD-ROM 内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

1 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ Windows Meを起動します。

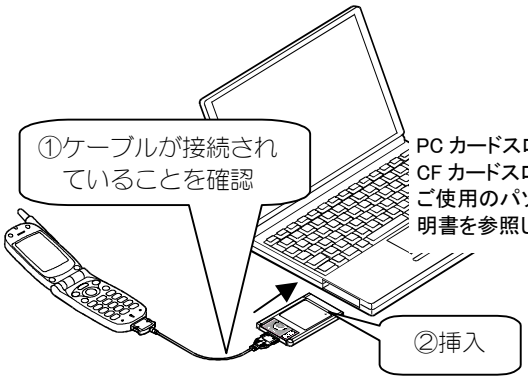
2 電話機の電源を入れます。



参考

以下の3 で手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。（接続後に電話機の電源を入れることもできます。）

3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。



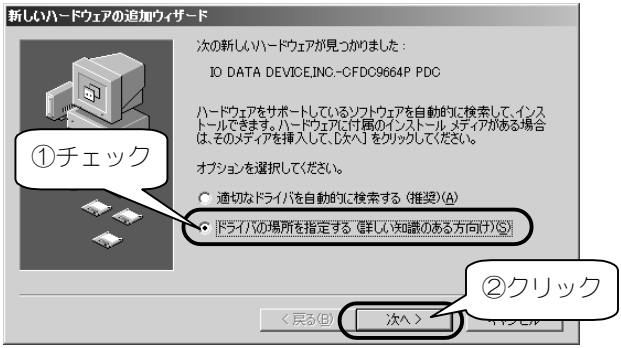
PC カードスロット（もしくは CF カードスロット）の位置はご使用のパソコンの取扱説明書を参照してください。

注意

ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

4

しばらくすると以下の画面が表示されます。
※ケーブルが接続されていないと表示されません。
[ドライバの場所を指定する]をチェックし、
[次へ]ボタンをクリックします。



注意

カードにケーブルが接続されていないと上記画面は表示されません。必ずケーブルを接続してから挿入し直してください。

ケーブルを接続しているのに、このインストール画面が表示されない場合は…

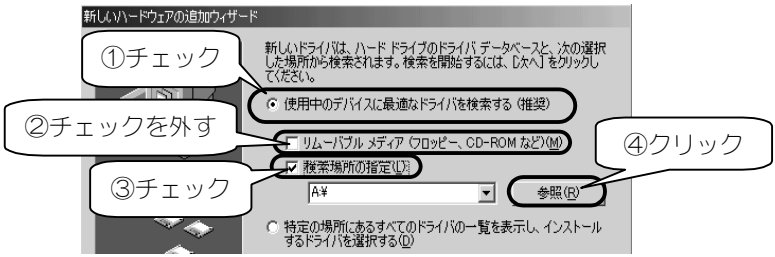
【困ったときには】の
321 ページ
をご参照ください。

5

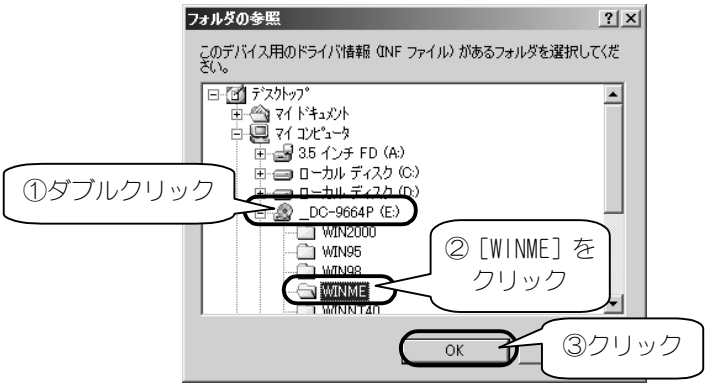
「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



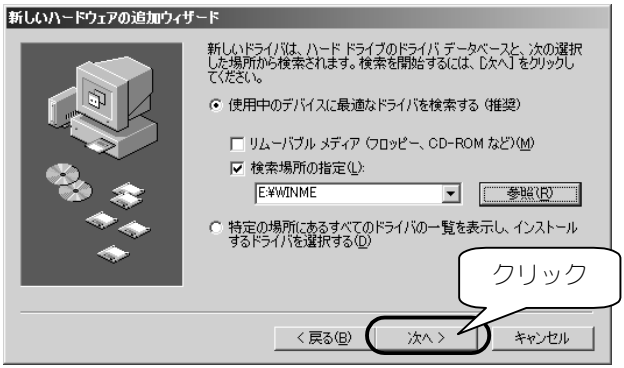
6 [使用中のデバイスに…]にチェック後、[検索場所の指定]のみをチェックし([リムーバブルメディア…]のチェックは外してください)、[参照]ボタンをクリックします。



7 CD-ROMドライブ(_DC-9664P)の[WINME]フォルダを指定して、[OK]ボタンをクリックします。



8 [次へ]ボタンをクリックします。



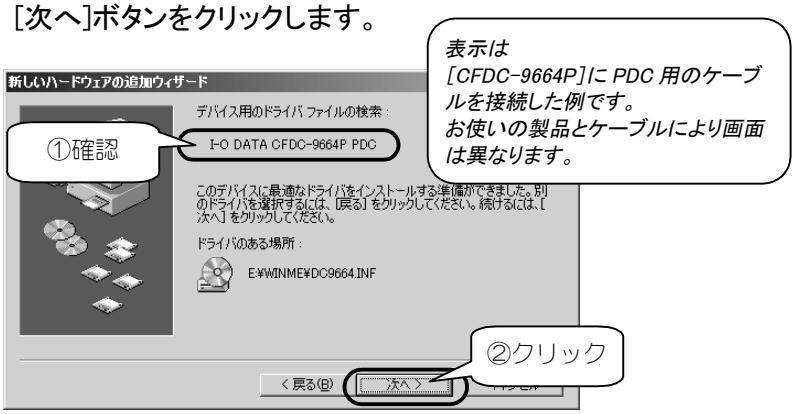
「このデバイス用のドライバが見つかりませんでした」と表示された場合は…

【困ったときには】の 323 ページをご参照ください。

「指定の場所にはお使いのハードウェアに関する情報がありません」と表示された場合

【困ったときには】の 323 ページをご参照ください。

9 [I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては 129 ページを参照してください）と表示されていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックします。



10 [完了]ボタンをクリックします。

しばらく自動的に組み込みの動作が始まります。
その表示が消えるまでしばらくお待ちください。



11 しばらくして表示画面が消えたら、インストールは終了です。
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

12 本製品を挿入したまま、
パソコンを再起動してください。

以上でインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。



Windows Me 使用中に本製品の動作を終了しないで PC カードスロットから取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。
取り出す際には【パソコンから取り出す場合】(144 ページ)を参照してください。

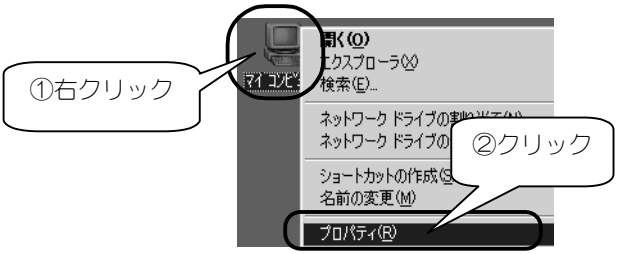
ステップ
2

準備編

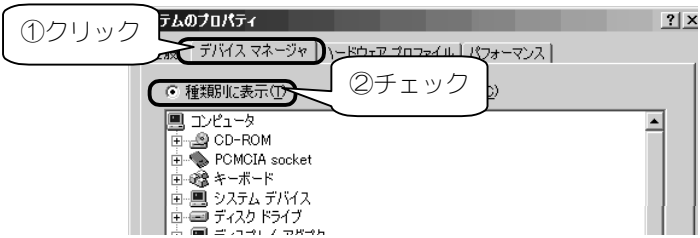
インストールは正常ですか？

【ステップ1】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で確認してください。

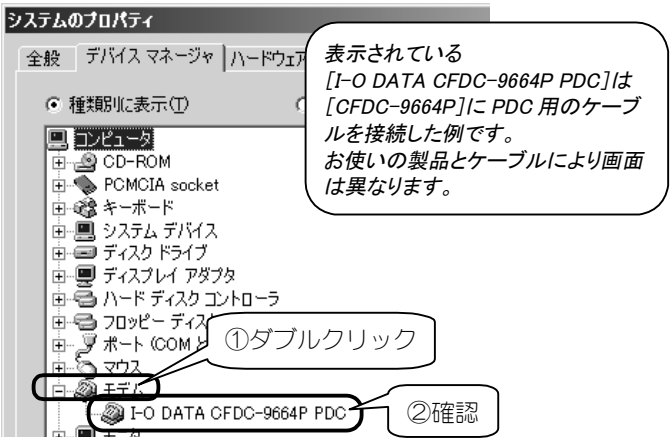
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、
[種類別に表示]をチェックします。



3 [モデム]をダブルクリックして、
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては129ページを参照してください）と表示されていることを確認します。



「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が
表示されない場合は…
【困ったときには】の
324 ページ
をご参照ください。

「I-O DATA xxDC-9664P xxx」の頭に
[！]マークが表示されている場合は…
【困ったときには】の
324 ページ
をご参照ください。

4 [OK]ボタンをクリックして、
「システムのプロパティ」画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

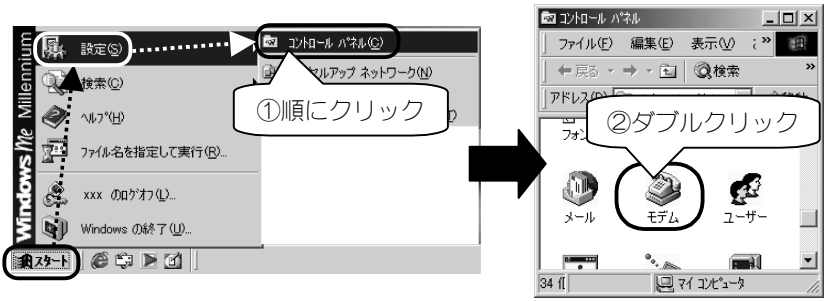
ステップ 3

準備編

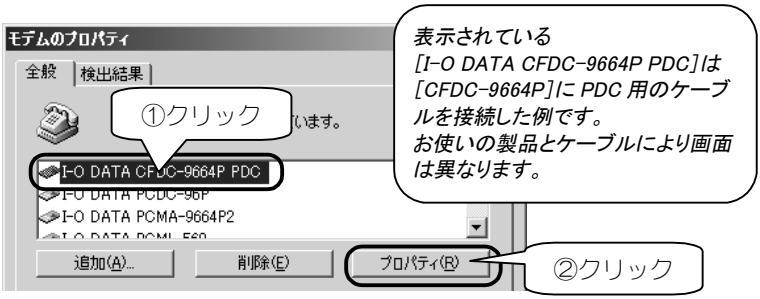
端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかを確認します。
設定と確認は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定および確認してください。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開き、［モデム］アイコンをダブルクリックします。



2 ［I-O DATA xxDC-9664P xxx］（※ここの表示に関しては129ページを参照してください）をクリック後、［プロパティ］ボタンをクリックします。



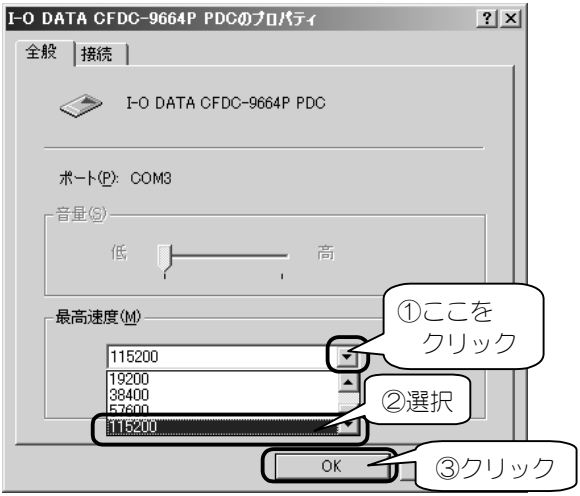
［I-O DATA xxDC-9664P xxx］が表示されない場合は…

【困ったときには】の 325 ページをご参照ください。

3 端末速度を設定します。

[最高速度]を選択肢中で一番速い速度に設定し、
[OK]ボタンをクリックします。

最高速度には選択できる速度のうち、最高の速度（115200bpsが望ましい）を設定しておくと、最大パフォーマンスが引き出せます。



4 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

[検出結果]タブをクリックし、
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されているポート（画面例では COM3 の部分）をクリック後、[詳細]ボタンをクリックします。

※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



5 [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。

※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT・・・・・]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 325 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話機を介して通信するテストではありません。
・ポートの情報には最高速度として「115Kボー」と表示されますが、実際の端末速度（パソコンと本製品間の速度）は、前ページ3の手順で指定した速度です。
・[応答]に[ERROR]と表示されていますが、動作上問題ありません。

6 [OK]ボタンをクリックし、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

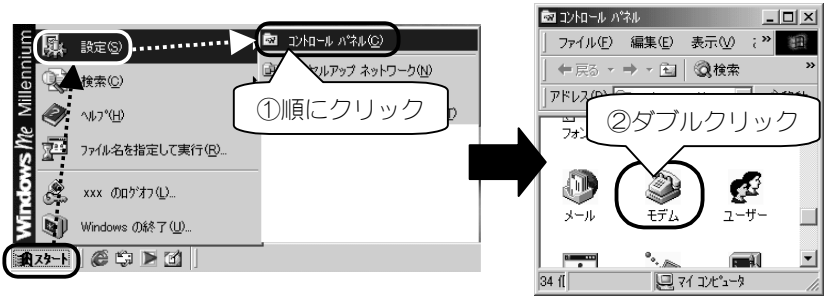
ステップ 4

準備編

発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、
[モデム]アイコンをダブルクリックします。

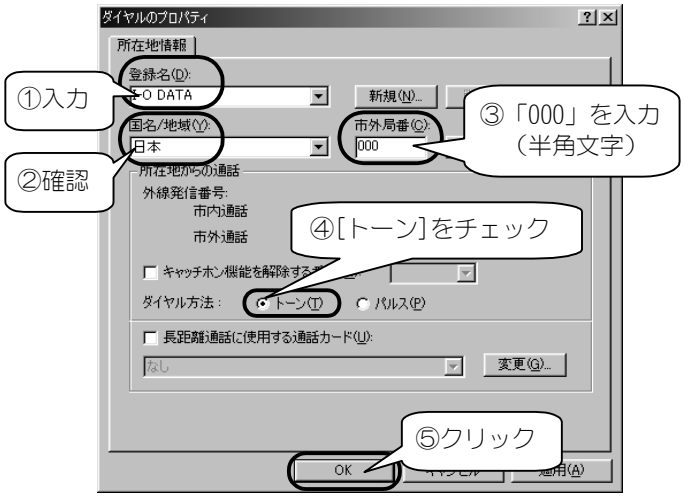


2 [I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては129ページを参照してください）をクリック後、
[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



3 必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の登録名を入力
②	国名／地域	[日本]であることを確認
③	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※電話機は市外局番から入力するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
④	ダイヤル方法	[トーン]を選択



4 [OK]ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

5 *ドッチーモでPHS通信を行う場合のみ*

143ページを参照して追加設定を行ってください。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ5】(144 ページ)および【ステップ6】(145 ページ)を参照して、本製品の正しい取り出し方・取り付け方をマスターしてください。

電話機を変更する場合は、【ステップ7】(146 ページ)を参照してください。

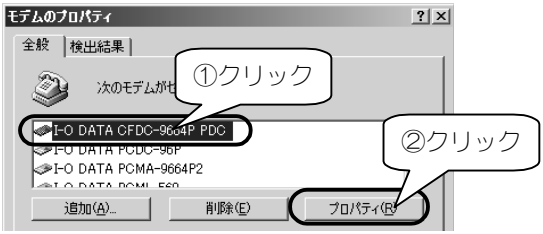
本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→【Windows Me でインターネットに接続するには】(147 ページ)へ
Lotus Notes でモバイル通信したい	→【Lotus Notes でモバイル通信したい】(346 ページ)へ

●ドッチーモで PHS 通信を行う場合の追加設定

電話機の[カード選択]モードを[自動]にしてご使用ください。

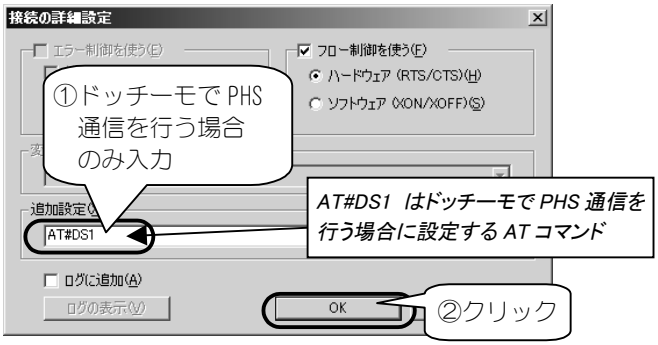
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[モデム]を開き、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



2 [接続]タブをクリックし、[詳細]ボタンをクリックします。



3 [追加設定]に半角で「AT#DS1」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。後は[OK]ボタンや[閉じる]ボタンをクリックして画面を閉じてください。



ステップ 5

準備編

パソコンから取り出す場合

本製品を使用しなくなった場合などに、パソコンの PC カードスロットから取り出すには、以下の方法があります。

・パソコンの電源を切った後に取り出す

・Windows Me を使用中に本製品の動作を終了して取り出す

Windows Me を使用中に取り出す際に、以下の本製品の動作を終了する手順を行わずに取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

取り出す際には、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認した後、必ず以下の手順を行ってください。

注意

以下の動作の終了作業を行うと、実際に本製品を抜かなくても、本製品は使えなくなります。再度使いたいときは、いったん本製品を PC カードスロットから取り出してから再び差し込んでください。

本製品の動作を終了する

1 ディスプレイ画面右下のタスクトレイにあるPCカードのアイコンをクリックし、[I-O DATA xxDC-9664P xxxの停止]をクリックします。



2 [OK]ボタンをクリック後、
本製品をPCカードスロットから取り出してください。



ステップ 6

準備編

再度取り付ける場合

本製品は、パソコンの電源を入れる前でも、また、パソコンの電源を入れた後（Windows を起動した後）のどちらでもパソコンに取り付けることができます。

ただし、***必ず以下のことを確認してから、本製品を PC カードスロットに差し込んでください。***

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 7

準備編

電話機を変更する場合

使用していた電話機から別の電話機に変更する場合は、以下の手順で変更してください。

1 パソコンの電源を切り、本製品をケーブルを接続したままPCカードスロットから取り出します。

2 電話機からケーブルを取り外します。
(【電話機からケーブルを取り外す場合】(14ページ)参照)

3 変更する電話機に応じたケーブルを確認します。
(【接続ケーブルを確認する】(8ページ)参照)

4 ケーブルを別のケーブルに変える場合は、ケーブルを本製品から取り外し、電話機に応じたケーブルを本製品に接続し直します。(【本製品と電話機を接続する】(12ページ)参照)

5 電話機にケーブルを接続します。
(【電話機にケーブルを接続する】(11ページ)参照)

6 パソコンの電源を入れ、本製品をPCカードスロットに挿入します。挿入後、自動的にケーブルに応じたドライバソフトがインストールされます。

注意

電話機(およびケーブル)を切り替えても自動で Windows に認識されますので、インストール作業はありません。
ただし、ケーブルを変更した場合は、Windows 上で表示される名称が異なります。
表示については、129 ページにてご確認ください。

以上で、電話機の変更手順は終了です。

インターネット接続編

Windows Me で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ1】(129 ページ)～【ステップ7】(146 ページ)) が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· *148ページ*

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- 本製品、電話機の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア····· *150ページ*

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- ダイヤルアップアダプタ
- TCP/IP
- ダイヤルアップネットワーク

ステップ 3

通信方式を設定する ····· *161ページ*

通信方式に応じた設定について説明します。

ステップ 4

インターネットを楽しもう ····· *165ページ*

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 5

通信方式を変更する場合····· *170ページ*

通信方式を変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1:プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合にはキャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（150 ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ4】165 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。



ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

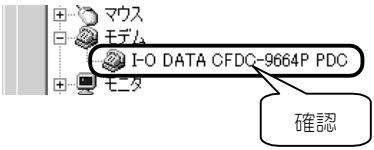
接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(129 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(135 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[システムのプロパティ]画面の[デバイスマネージャ]タブで[モデム]の下に「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されていることの確認



表示は[CFDC-9664P]に PDC 用のケーブルを接続した例です。お使いの製品とケーブルにより画面は異なります。

②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

152 ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、152 ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows Me には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

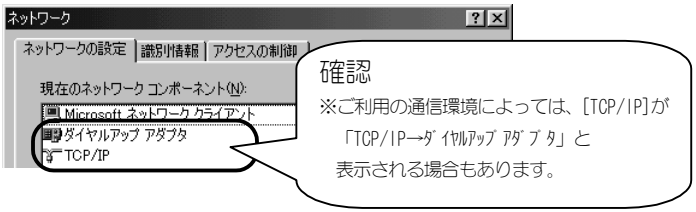
次ページ以降で[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]の確認、および、[ダイヤルアップアダプタ]の設定について説明します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]を確認する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



2 [ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]（または[TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ]）があることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない場合は…

【困ったときには】の334ページをご参照ください。

[ダイヤルアップネットワーク]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[ダイヤルアップネットワーク]を設定する必要があります。

はじめて［ダイヤルアップネットワーク］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、次ページ【新しい設定を作るとき】を行います。



参考1

ダイヤルアップとは

→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者（プロバイダ）に接続すること。



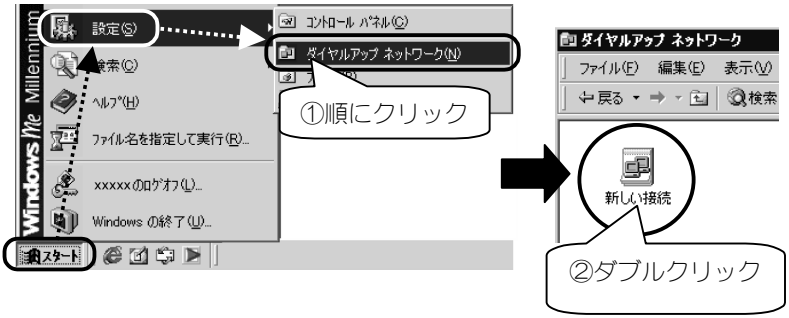
参考2

すでにダイヤルアップ接続（インターネット）の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 157 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

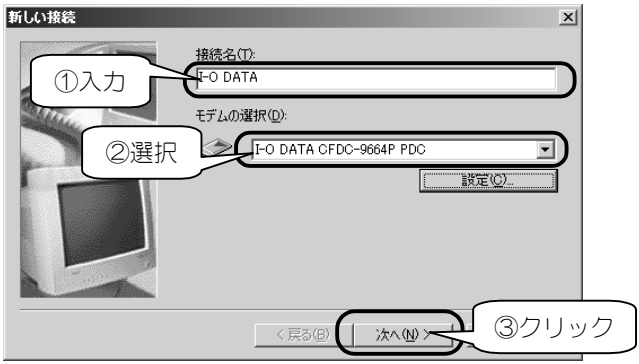
2 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックし、[新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 332 ページをご参照ください。

3 [接続名]欄に任意の接続名(プロバイダなどの、お好きな名前)を入力して、モデムの選択欄から[I-O DATA xxDC-9664P xxx](※この表示に関しては129ページを参照してください)を選び、[設定]ボタンをクリックします。



4　以下を設定後、[次へ]ボタンをクリックします。

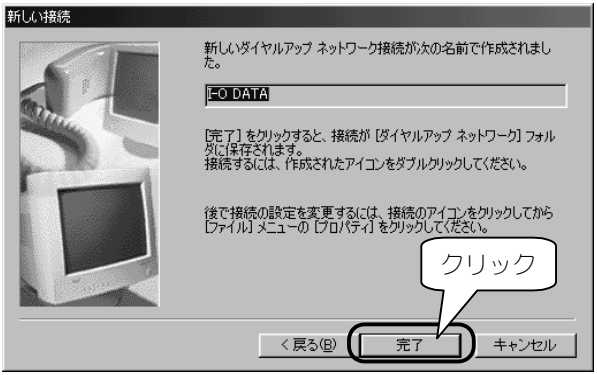
市外局番	接続先（プロバイダ）の市外局番 ※ダイヤル先が市内であっても、必ず市外局番から入力してください。
電話番号	接続先（プロバイダ）の電話番号
国番号	[日本]



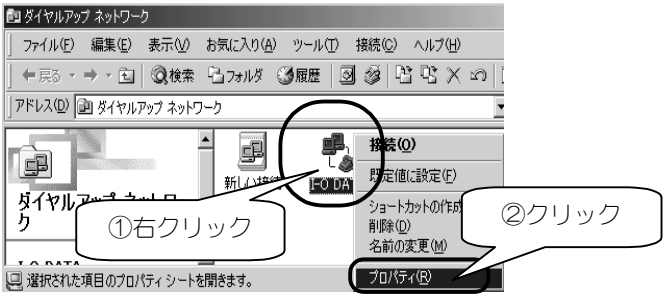
注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

5　[完了]ボタンをクリックします。



6 新しく作成したアイコンが[ダイヤルアップネットワーク]画面に**3**での手順で指定した接続名が表示されます。
新しく作成したアイコンを右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

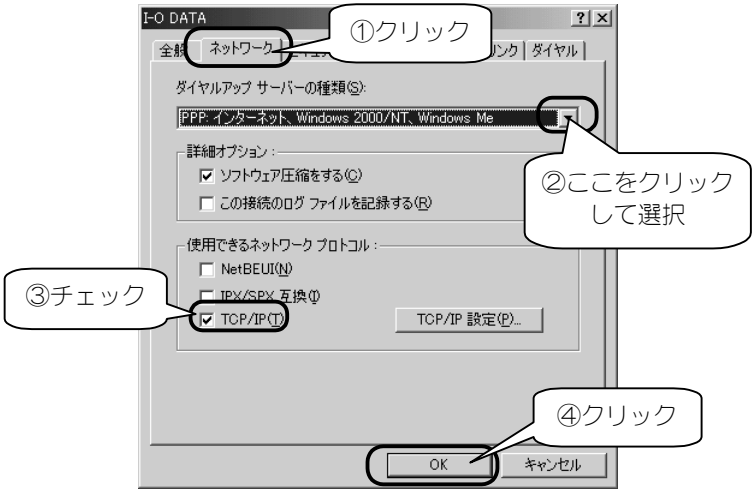


7 [ネットワーク]タブをクリックし、
以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では
　[PPP:インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me]を選択

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみをチェック

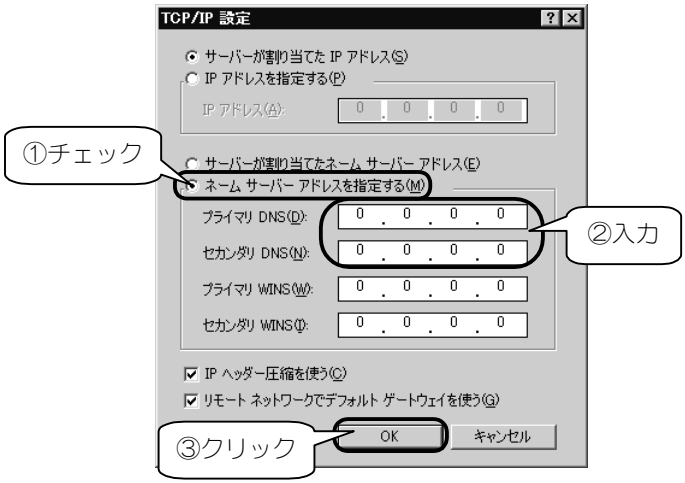
プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**7**の手順の画面で、[TCP/IP 設定]ボタンをクリックします。

2 以下を設定します。
①[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェックします。
②[プライマリ DNS]欄にプライマリ DNS を、[セカンダリ DNS]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



注意

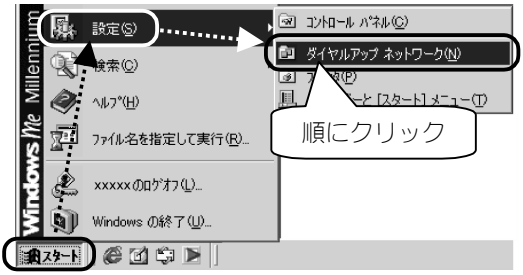
・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

以上で[ダイヤルアップネットワーク]の設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
161 ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

設定を変更するとき

本製品を使用する前に、すでに他のモデムなどを使用していて、［ダイヤルアップネットワーク］の設定を終了している場合には、以下の手順のように、［接続方法］を本製品に切り替えるだけでも設定できます。

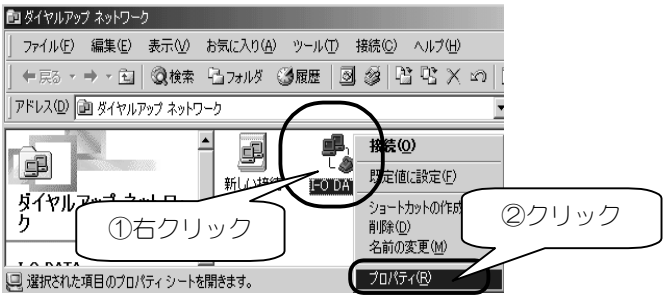
1 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックします。



［ダイヤルアップネットワーク］が表示されない場合は…

【困ったときには】の 332 ページをご参照ください。

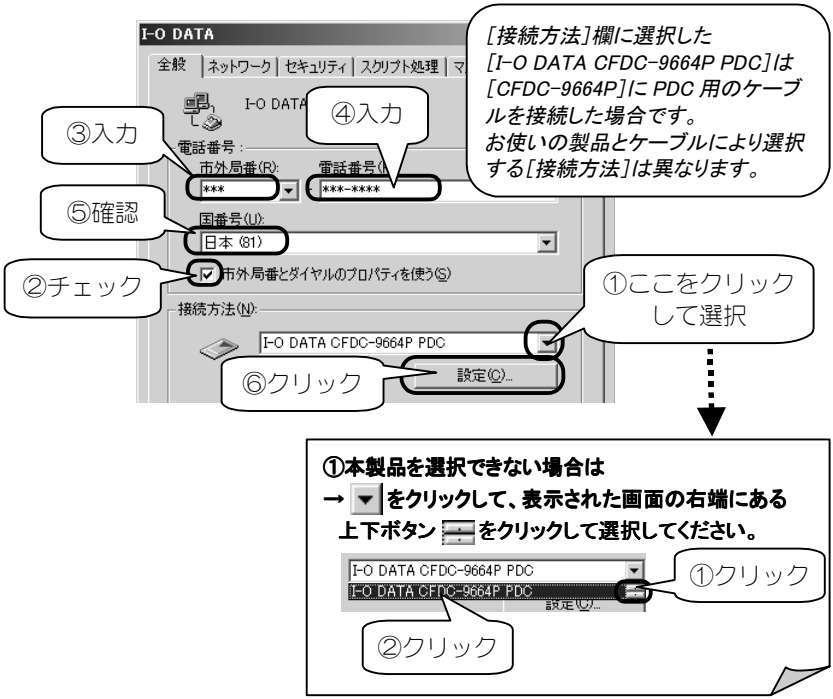
2 変更したい接続のアイコンを右クリックして[プロパティ]をクリックします。



3 以下を設定します。

①[接続方法]に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]を選びます。
②[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]をチェックします。
③[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
④[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
⑤[国番号]欄は、「日本」であることを確認します。

設定後、[設定]ボタンをクリックします。



注意

- **[市外局番][電話番号]欄の「***」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
- **ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。**
  （全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）
- **ご契約のプロバイダによっては、モバイル専用電話番号として、#**** の番号で案内されている場合があります。その場合は、[市外局番]を空白にして電話番号に #**** を入力してください。（#**** はダイヤル番号になります。必ず、市外局番、電話番号は半角文字で入力してください。）**

4 [全般]タブで[最高速度]が[115200bps]となっていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



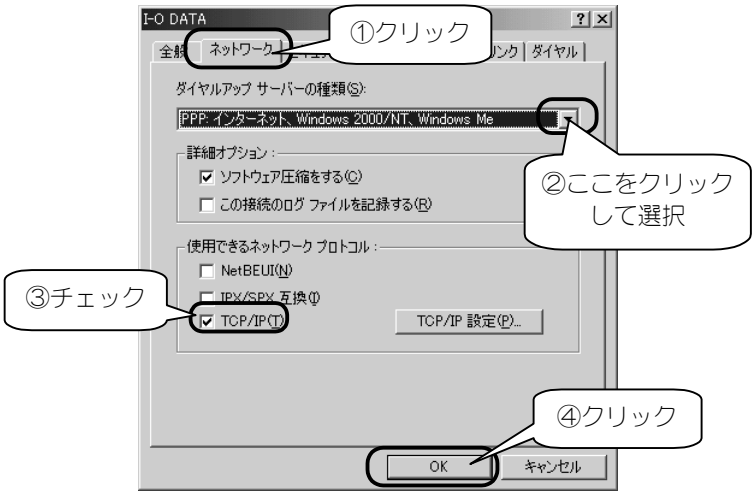
5 [ネットワーク]タブをクリックし、以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では

[PPP:インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me]を選択

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみにチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス（プライマリDNS、セカンダリDNS）を案内されている場合は156ページを参照し、設定してください。設定後、[OK]ボタンをクリックします。



6 [OK]ボタンをクリックして、画面を閉じます。

以上で、[ダイヤルアップネットワーク]の設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
次ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

ステップ 3

インターネット接続編

通信方式を設定する

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
次ページ以降を参照して追加設定してください。
以下に該当しない場合は、本ステップを読み飛ばし、【ステップ４】(165 ページ)へお進みください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。(次ページの手順と 143 ページの手順の両方の手順が必要です。)*	次ページの手順で変更します。
64K 対応 H"で PIAFS 32K 通信を行う場合	
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合	

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント(電話番号)も異なる(別になっている)場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

注意

・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

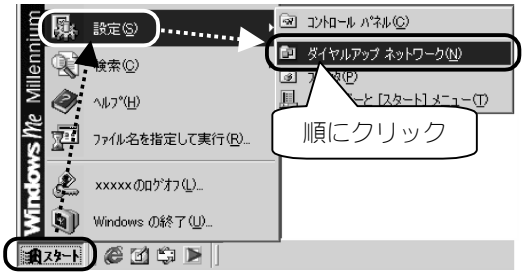
参考

ここでの設定は、1つのプロバイダのみに接続する場合(1つの通信方式しか使用しない場合)の設定です。
複数のプロバイダに接続する場合など、プロバイダ毎に通信方式を変更したい場合は、接続する際に設定し直すこともできます。手順については、【ステップ5 通信方式を変更する場合】(170 ページ)を参照してください。

通信方式に応じて設定する

通信方式に応じた設定をします。
設定は、【ステップ2】で作成した［ダイヤルアップネットワーク］アイコンで行います。本製品を PC カードスロットに挿入したままで設定してください。

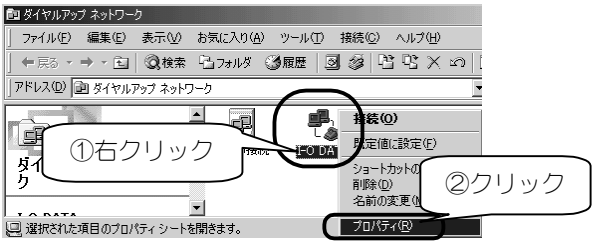
1 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックします。



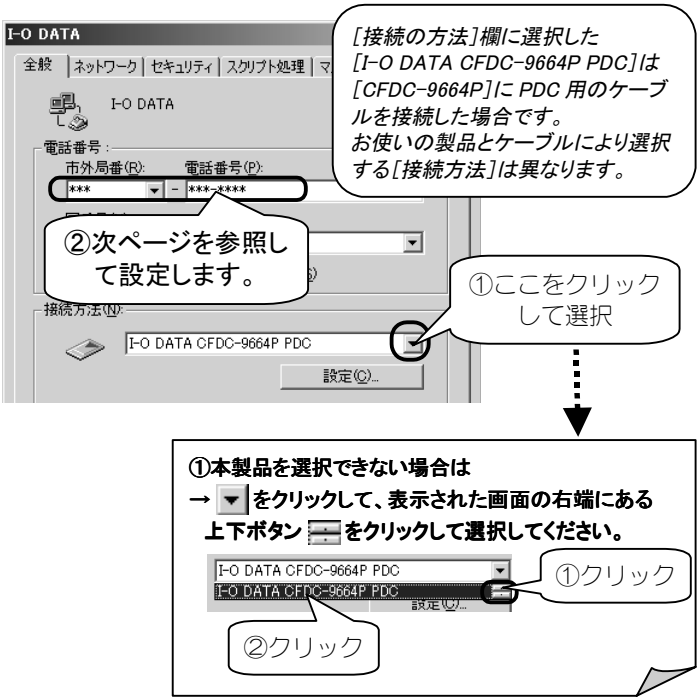
［ダイヤルアップネットワーク］が表示されない場合は…

【困ったときには】の 332 ページをご参照ください。

2 作成した接続のアイコンを右クリックして[プロパティ]をクリックします。



3 [接続方法]に本製品を選択し、[市外局番][電話番号]欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行います。
設定後、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じてください。



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が表示されていることを確認してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、上記画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



①32K 通信に対応した電話番号に変更します。

②電話番号の後に #32 （すべて半角）を入力します。

これで通信方式に応じた設定は終了です。
次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

ステップ 4

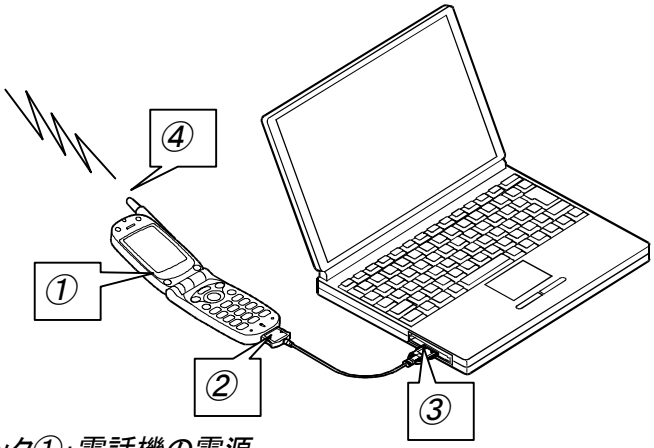
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品をパソコンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

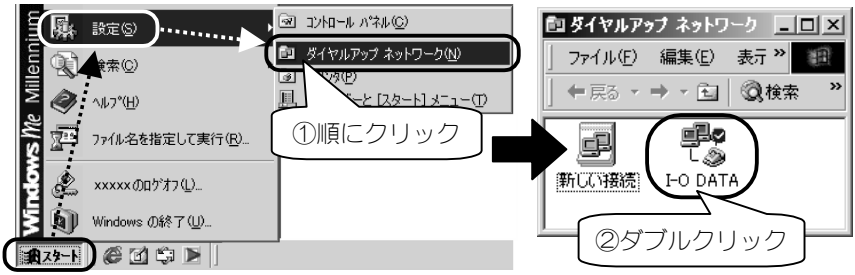
注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

インターネットに接続する

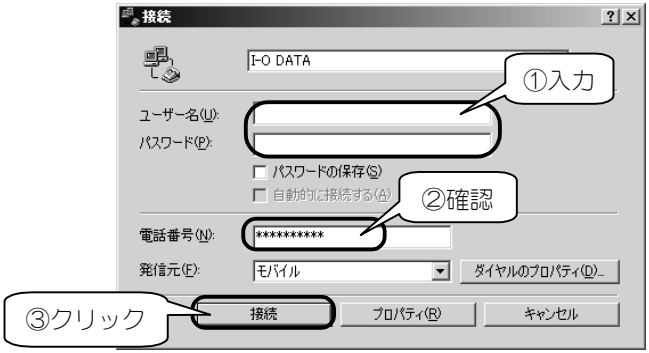
インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(152 ページ) で作成した[ダイヤルアップネットワーク]で行います。

1 [スタート]→[設定]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にクリックして、作成した接続のアイコンをダブルクリックします。



2 プロバイダから案内されたユーザー名とパスワードを入力して、[電話番号]欄に発信する番号が表示されていることを確認後、[接続]ボタンをクリックします。

[接続]ボタンをクリックすると、プロバイダと通信を開始します。



注意

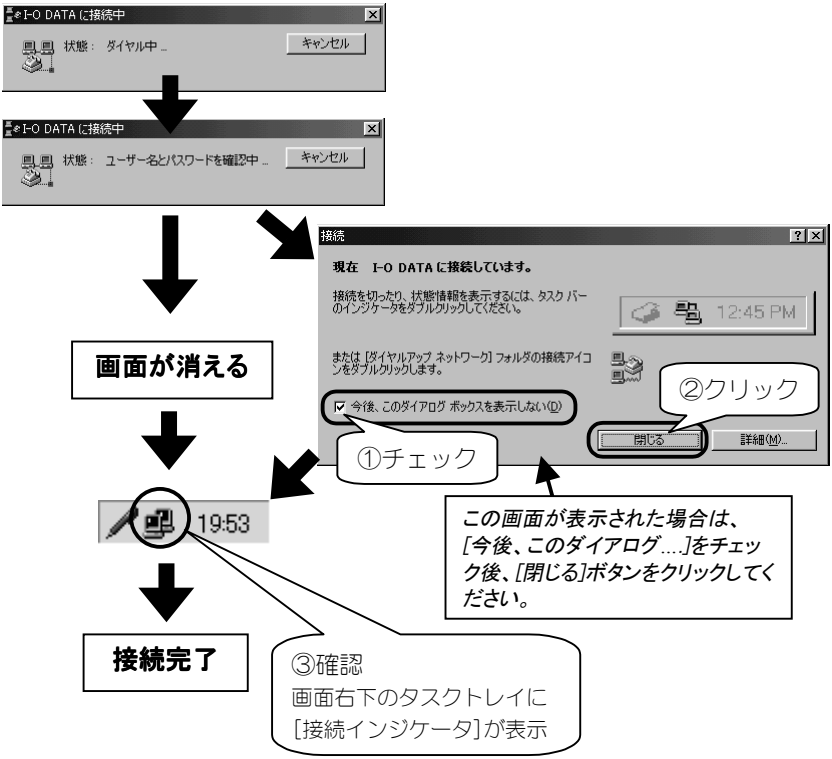
・[電話番号]欄の「********」は、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。表示されていない場合は、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックし、141 ページ *3* の手順の設定になっているかご確認ください。**

・パスワードは「***」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。**

注意

・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが「*」印で表示されますので、パスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。
・他のモデムも併用している場合、[発信元]欄に本製品用の登録名（141 ページ3 の手順の①で入力した[登録名]）を選択してください。

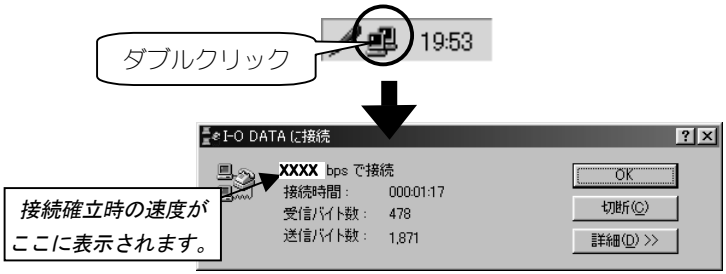
3 しばらくして「. . . に接続中」という画面が消えたら、完了です。
パソコン画面右下のタスクトレイに[接続インジケータ]アイコンが表示されます。



「回線が使用中です」などと表示された場合は…
【困ったときには】の 328 ページをご参照ください。

[接続インジケータ]アイコンが表示されない場合は…
【困ったときには】の 330 ページをご参照ください。

4 接続状況は、[接続インジケータ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



5 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[接続インジケータ]が表示されています。

インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。クリック後、電話機の通話が終わっていること、また、[接続インジケータ]が消えることを必ず確認してください。
・電話機の通話だけを切ってもパソコン側の通信は終了しません。必ずパソコン側で切断してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[接続インジケータ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。

これで電話回線が切断され、画面右下の[接続インジケータ]が消えます。
電話機の通話も自動的に切断されますので、液晶表示を見て通話が終わっていることを確認してください。



以上で、インターネットは終了できました。

ステップ 5

インターネット接続編

通信方式を変更する場合

通信方式は、【ステップ３】(161 ページ)で設定することができますが、複数の通信方式でご利用になる場合などに、接続する際に通信方式を設定することもできます。

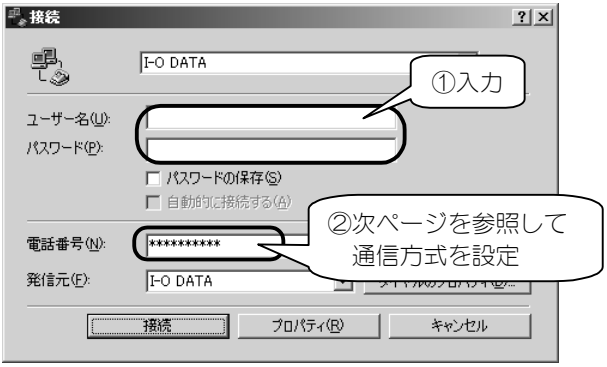
注意

以下の設定は、1 回限りなので、インターネットへの接続が終了すると元の設定に戻ります。
設定を保存しておきたい場合は、【ステップ3】(161 ページ)の手順で設定してください。

今回だけ通信方式を変えて接続する方法

1 ダイヤルアップ接続画面(166ページ*2* の手順の画面)を表示させます。

2 [ユーザー名][パスワード]入力後、
[電話番号]欄に次ページを参照して、通信方式を設定します。



注意

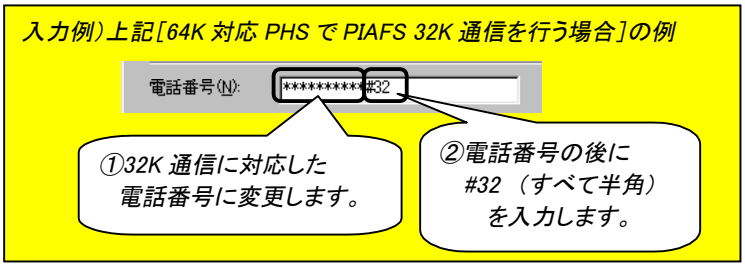
・[電話番号]欄の「********」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
(全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。)

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→ *※ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



3　[接続]ボタンをクリックすれば、設定した通信方式でインターネット接続します。

MEMO

6 Windows 98/95 で使うには

～ 準備編 ～

本製品で通信できるまでの流れ ……174ページ
ステップ1 事前の準備……175ページ
ステップ2 インストールする ……176ページ
ステップ3 インストールは正常ですか？193ページ
ステップ4 端末速度を設定する……195ページ
ステップ5 発信情報を設定する……199ページ
ステップ6 パソコンから取り出す場合 ·203ページ
ステップ7 再度取り付ける場合……204ページ
ステップ8 電話機を変更する場合 ····205ページ

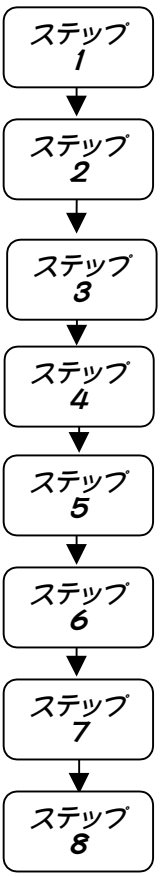
～ インターネット接続編 ～

Windows 98/95 でインターネットに
接続するには ··206ページ
ステップ1 接続前の準備……207ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ··209ページ
ステップ3 通信方式を設定する……221ページ
ステップ4 インターネットを楽しもう····225ページ
ステップ5 通信方式を変更する場合 ··230ページ

本製品の準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。以下の流れに沿ってお進みください。



ステップ1 *事前の準備* ····· 175ページ
本製品を使用する上で必要な事前の準備について説明します。

ステップ2 *インストールする* ····· 176ページ
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。ここではそのインストール手順について説明します。

ステップ3 *インストールは正常ですか？* ····· 193ページ
【ステップ1】でのインストールが正常にできたかの確認方法について説明します。

ステップ4 *端末速度を設定する* ····· 195ページ
本製品とパソコン間の速度の設定手順について説明します。

ステップ5 *発信情報を設定する* ····· 199ページ
パソコンから発信するための情報の設定手順について説明します。

ステップ6 *パソコンから取り出す場合* ····· 203ページ
本製品をパソコンのPCカードスロットから取り出す手順について説明します。

ステップ7 *再度取りつける場合* ····· 204ページ
一度取り出した本製品を再度取りつける手順について説明します。

ステップ8 *電話機を変更する場合* ····· 205ページ
別の電話機に変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

準備編

事前の準備

本製品を使用する前に、以下の確認および次ページでパソコンの PC カードのドライバの確認を行ってください。

パソコンの PC カードドライバを確認する

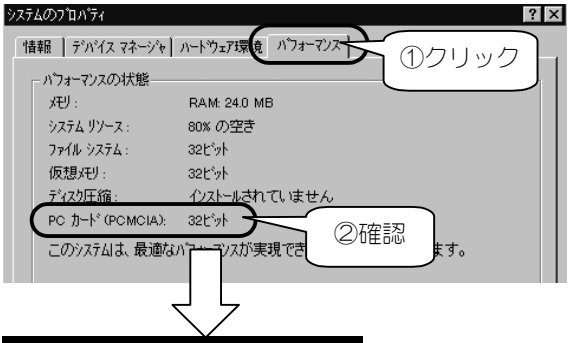
本製品は、PC カードです。
パソコンで本製品を使用するには、パソコンに PC カードのドライバがインストールされている必要があります。
以下の手順で PC カードのドライバを確認してください。

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[システム]アイコンをダブルクリックします。



3 [パフォーマンス]タブをクリックし、[PCカード(PCMCIA)]のドライバを確認します。
以下のように、[32ビット]となっていることを確認してください。



[32 ビット]になっていない場合

[キャンセル]ボタンをクリックして画面を閉じ、[コントロールパネル]の[PC カード(PCMCIA)]アイコンをダブルクリックします。PC カードウィザードが起動しますので、画面の指示に従って進めてください。

ステップ 2

準備編

インストールする

本製品を使用するには、添付の「サポートソフト」ディスク内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。

・はじめに...

本書で使用しているイラストおよび表示される画面について

次ページ以降のインストール作業を含め、本書では、CFDC-9664P（CFDC-9664Pに弊社製PCカードアダプタ[CFMD-ADP]を取り付けたもの）とPDC用のケーブルを接続しているイラストおよび画面を例にしています。
他のケーブルおよびPCDC-9664Pをご使用の場合には、画面やイラストが異なります。画面に関しては、以下の表の該当する[表示]の個所に読み替えてください。

・CFDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PDC]
PHS（NTTドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PHS]
H″&α-DATA32対応電話機（DDIポケット）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P H]

・PCDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PDC]
PHS（NTTドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PHS]
H″&α-DATA32対応電話機（DDIポケット）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P H]

カードスロットについて

本書では本製品を挿入する（取り付ける）パソコンのカードスロットを「PCカードスロット」を例にしています。
CFDC-9664PをCFカードスロットでお使いの場合は、「PCカードスロット」の個所を「CFカードスロット」に読み替えてください。

インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。
ただし、Windows 98 と Windows 95 ではインストール手順が異なります。
以下の該当個所を参照してください。

Windows 98 の場合　→【Windows 98 でインストールする】(次ページ)～
Windows 95 の場合　→【Windows 95 でインストールする】(183 ページ)～

Windows 98 でインストールする

ここでは、Windows 98 でのインストール手順について説明します。

注意

インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

1 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ Windows 98を起動します。

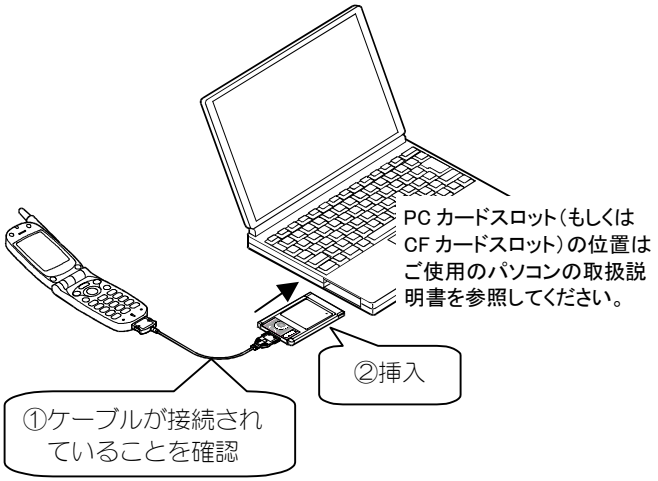
2 電話機の電源を入れます。



参考

以下の3 の手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。（接続後に電話機の電源を入れることもできます。）

3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。



注意

ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

4 しばらくすると以下の画面が表示されます。
※ケーブルが接続されていないと表示されません。
[次へ]ボタンをクリックします。



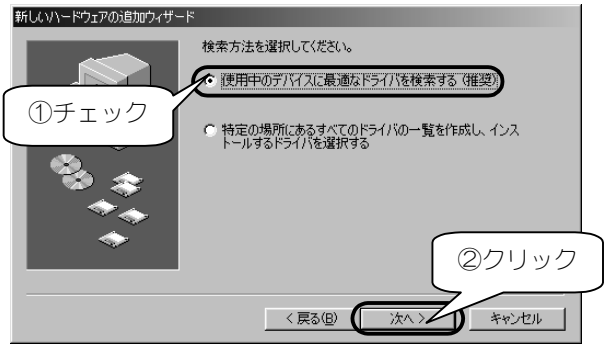
注意

カードにケーブルが接続されていないと上記画面は表示されません。必ずケーブルを接続してから挿入し直してください。

ケーブルを接続しているのに、このインストール画面が表示されない場合は…

【困ったときには】の 321 ページをご参照ください。

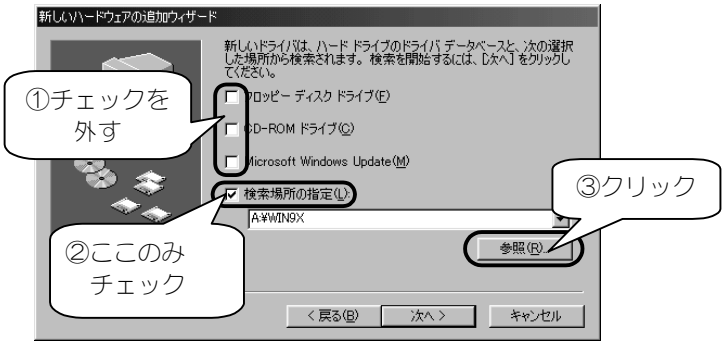
5 「使用中のデバイスに最適な…」をチェックして、
[次へ]ボタンをクリックします。



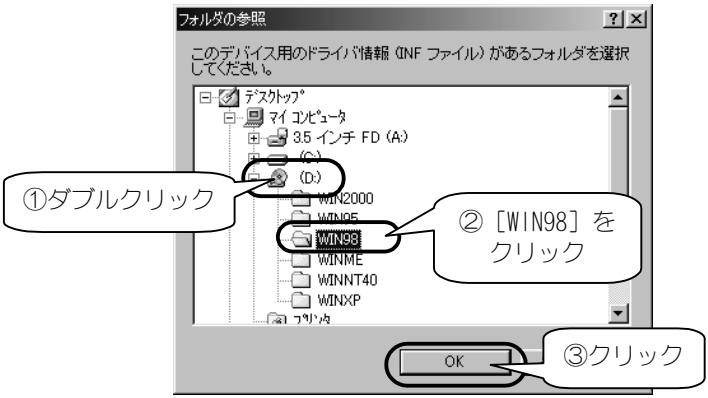
6 「サポートソフト」CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。



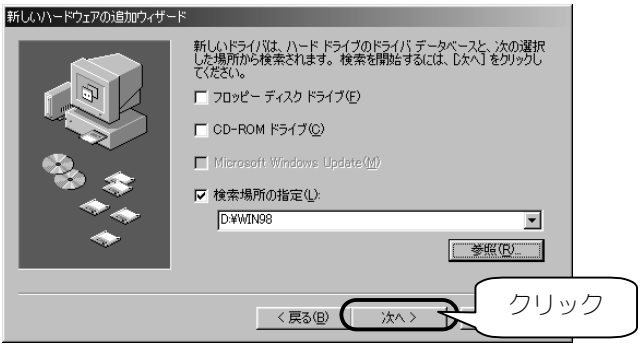
7 [検索場所の指定]のみをチェックし（他のチェックはすべて外してください）、[参照]ボタンをクリックします。



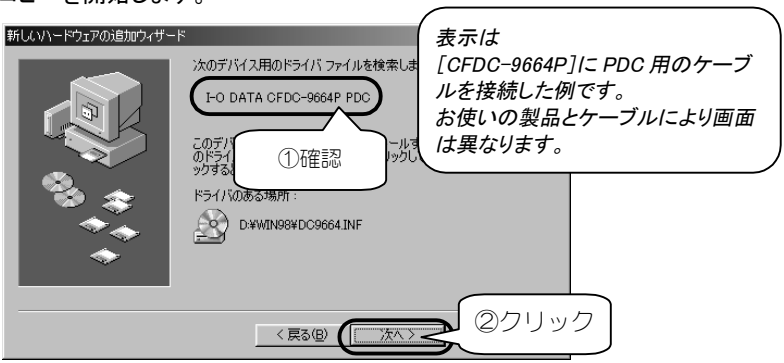
8 CD-ROMドライブの[WIN98]フォルダを指定して、[OK]ボタンをクリックします。



9 [次へ]ボタンをクリックします。



10 [I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては176ページを参照してください）と表示されていることを確認し、
[次へ]ボタンをクリックします。
コピーを開始します。



11 しばらくして、以下の画面が表示されたら、
[完了]ボタンをクリックします。



12 しばらくして表示画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

13 本製品を挿入したまま、
パソコンを再起動してください。

以上で Windows 98 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
193 ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

注意

Windows 98 使用中に本製品の動作を終了しないで PC カードスロットから取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。
取り出す際には【パソコンから取り出す場合】(203 ページ)を参照してください。

Windows 95 でインストールする

ここでは、Windows 95 でのインストール手順について説明します。

注意

インストールする際は、パソコンの電源を入れ、Windows が起動してから本製品を取り付けます。

1 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ Windows 95を起動します。

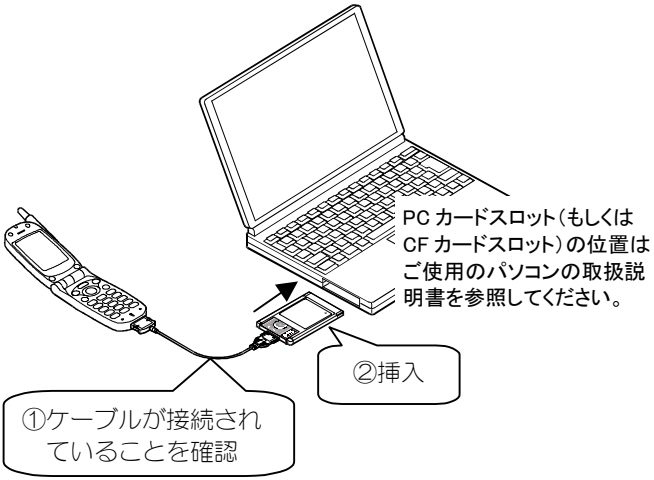
2 電話機の電源を入れます。



参考

以下の3 の手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。（接続後に電話機の電源を入れることもできます。）

3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。



注意

ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

4 しばらくすると以下のいずれかの画面が表示されます。

※ケーブルが接続されていないと表示されません。

ここで表示される画面によりインストール手順が異なります。
画面をご確認ください。



【*インストール方法-その1-*】
（次ページ）
へ進んでください。



【*インストール方法-その2-*】
（189 ページ）
へ進んでください。

注意

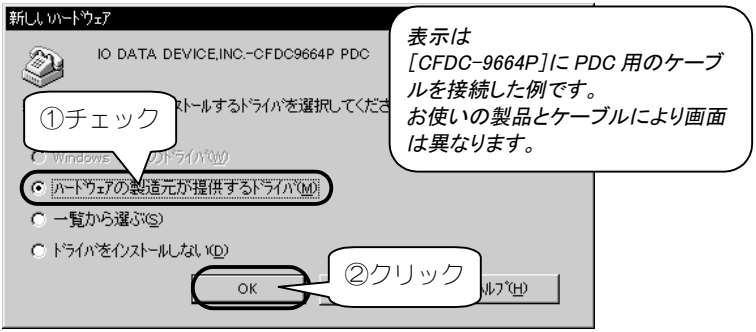
カードにケーブルが接続されていないとこれらの画面は表示されません。
必ずケーブルを接続してから挿入し直してください。

ケーブルを接続しているのに、これらのインストール画面が表示されない場合は…

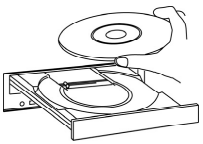
【困ったときには】の
321 ページ
をご参照ください。

インストール方法　ーその1ー

1 「ハードウェアの製造元が…」をチェックして、
[OK]ボタンをクリックします。

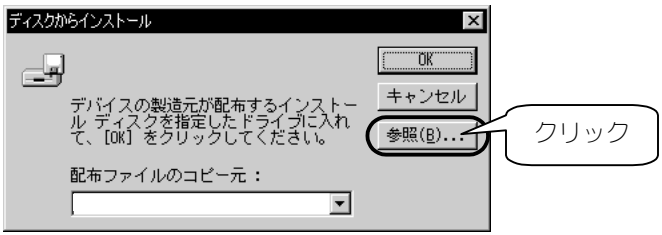


2 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

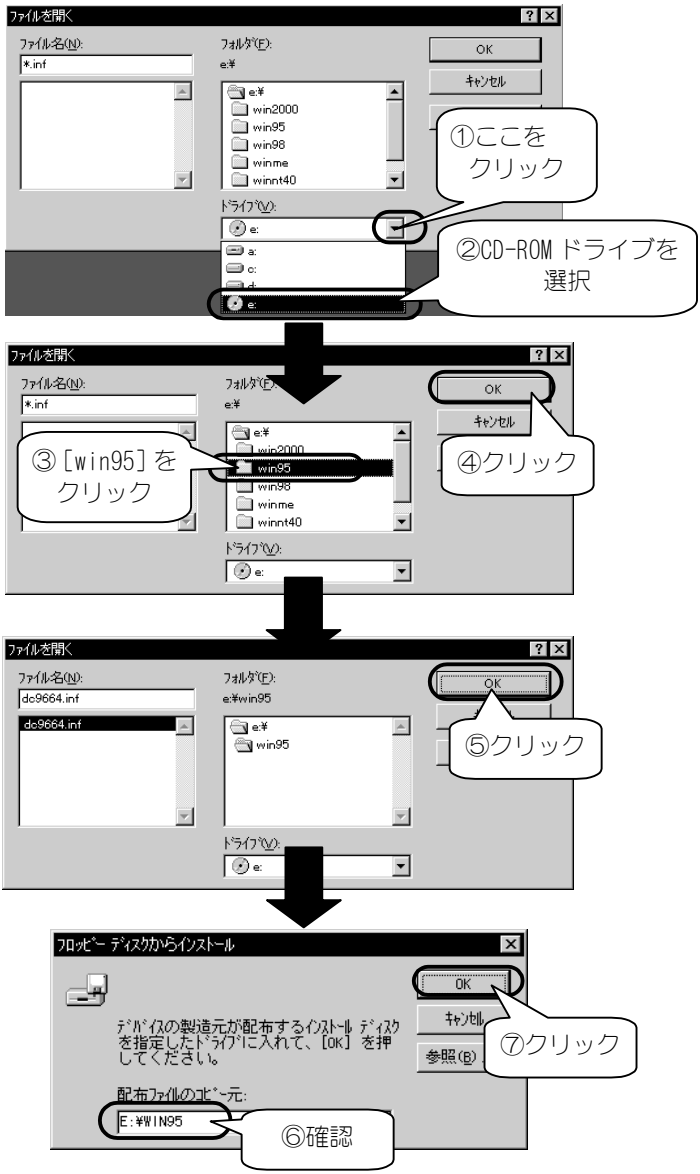


「サポートソフト」CD-ROM

3 [参照]ボタンをクリックします。

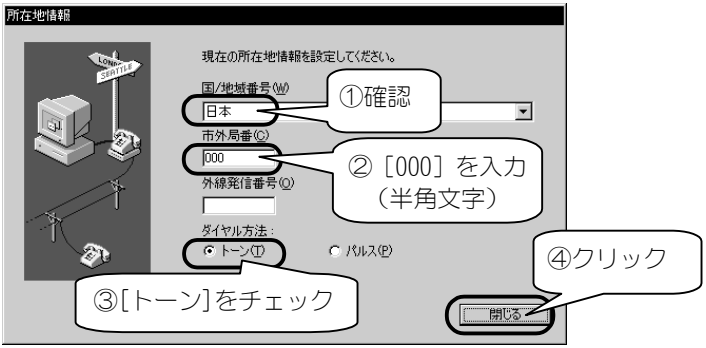


4 CD-ROMドライブ (ここではe:)内の[win95]を指定します。
指定後、[OK]ボタンをクリックします。
コピーを開始します。



5 以下の画面が表示される場合があります。
必要な情報を設定し、[閉じる]ボタンをクリックします。
表示されない場合は、**6** の手順へお進みください。

No.	項目	設定内容
①	国／地域番号	[日本]であることを確認
②	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※PHS や PDC は市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
③	ダイヤル方法	[トーン]を選択



6 以下の画面が表示されたら、
[完了]ボタンをクリックします。



7 しばらくして表示画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

8 本製品を挿入したまま、
パソコンを再起動してください。

以上で Windows 95 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
193 ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。



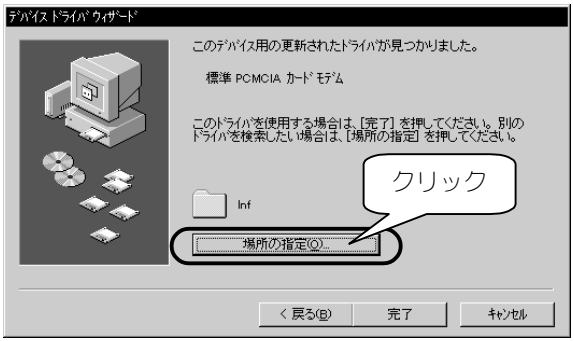
Windows 95 使用中に本製品の動作を終了しないで PC カードスロットから取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。
取り出す際には【パソコンから取り出す場合】(203 ページ)を参照してください。

インストール方法　－その2－

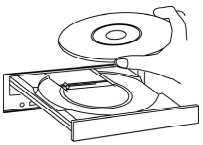
1 [次へ]ボタンをクリックします。



2 以下の画面が表示されます。
[場所の指定]ボタンをクリックします。



3 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

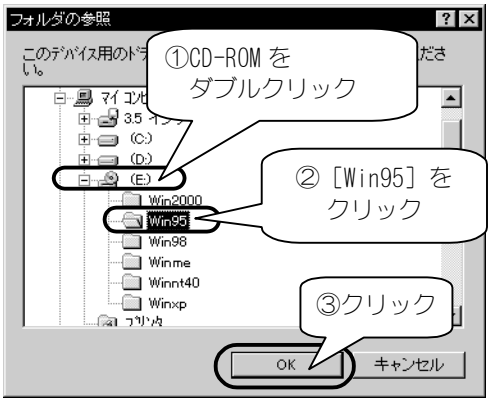


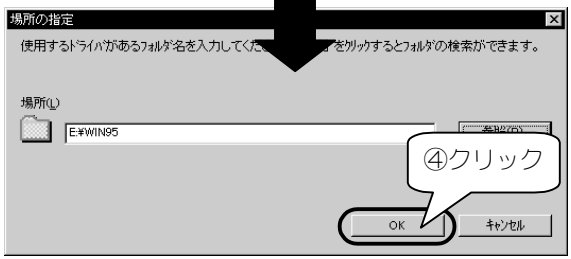
「サポートソフト」CD-ROM

4 [参照]ボタンをクリックします。

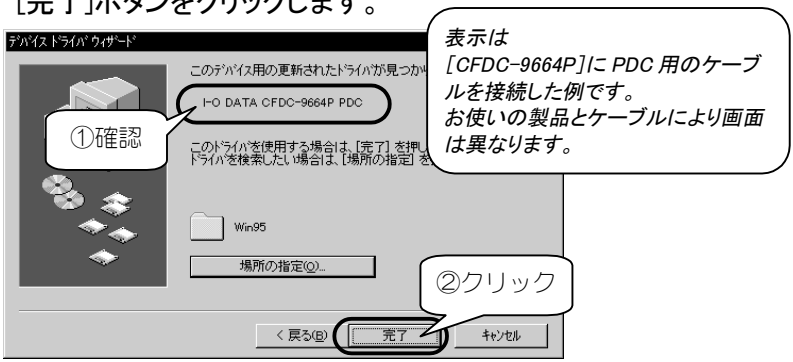


5 CD-ROMドライブ (ここではE:)内の[win95]を指定します。
指定後、[OK]ボタンをクリックします。
コピーを開始します。





6 [I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては176ページを参照してください）と表示されることを確認して、
[完了]ボタンをクリックします。

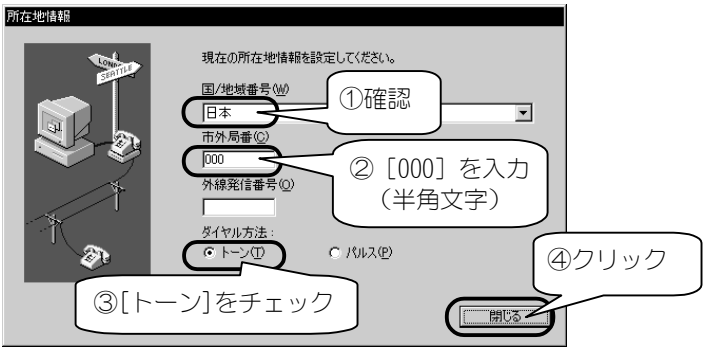


「標準 PCMCIA カードモデム」と表示された場合は…

[戻る]ボタンをクリック後 189 ページ**2**の手順からやり直してください。

7 以下の画面が表示される場合があります。
必要な情報を設定し、[閉じる]ボタンをクリックします。
表示されない場合は、***8*** の手順へお進みください。

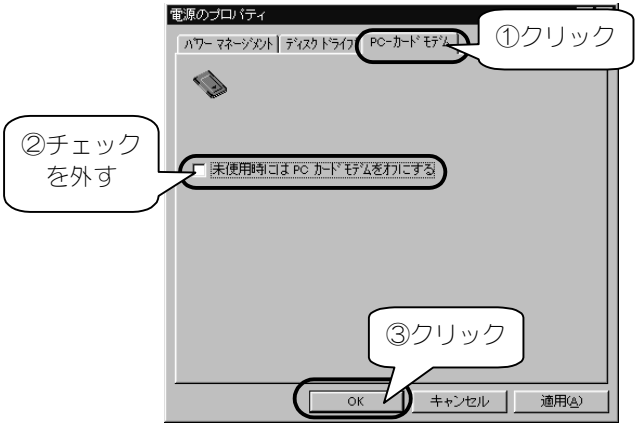
No.	項目	設定内容
①	国／地域番号	[日本]であることを確認
②	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※PHS や PDC は市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
③	ダイヤル方法	[トーン]を選択



8 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、
[パワーマネジメント]をダブルクリックします。



9 [PCカードモデム]タブをクリックし、
[未使用時には…]のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。



10 しばらくして表示画面が消えたら
「サポートソフト」CD-ROMを取り出します。

11 本製品を挿入したまま、
パソコンを再起動してください。

以上で Windows 95 でのインストールは終了です。
次は正しくインストールできたかを確認します。
次ページ【インストールは正常ですか？】へお進みください。

注意

Windows 95 使用中に本製品の動作を終了しないで PC カードスロットから取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。
取り出す際には【パソコンから取り出す場合】(203 ページ)を参照してください。

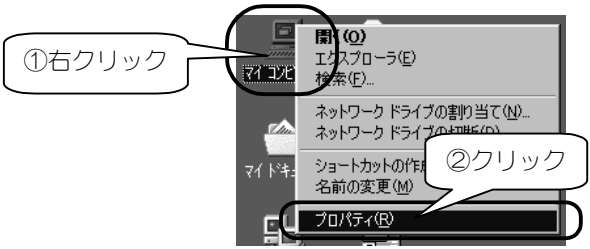
ステップ 3

準備編

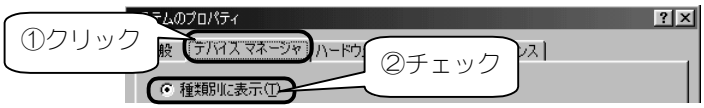
インストールは正常ですか？

【ステップ2】でのインストールが正常に終了すると、パソコンが本製品を正しく認識します。
ここでは、「***パソコンが本製品を正しく認識しているか***」を Windows 上で確認します。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で確認してください。

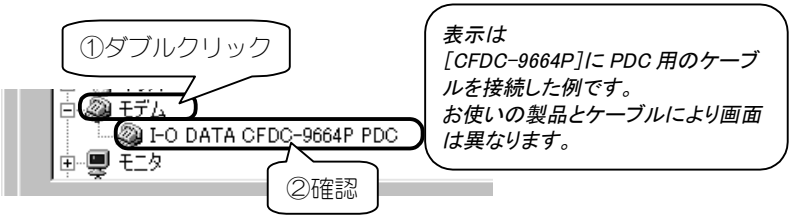
1 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、
[種類別に表示]をチェックします。



3 [モデム]をダブルクリックして、
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては176ページを参照してください）と表示されていることを確認します。



「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
324 ページ
をご参照ください。

「I-O DATA xxDC-9664P xxx」の頭に
[！]マークが表示されている場合は…

【困ったときには】の
324 ページ
をご参照ください。

4 [OK]ボタンをクリックして、
「システムのプロパティ」画面を閉じます。

これでサポートソフトが正しくインストールされていることが確認できました。
次に端末速度の設定を行います。次ページへお進みください。

ステップ 4

準備編

端末速度を設定する

インストールが正常なことを確認したら、次に本製品とパソコン間の速度（**端末速度**）を設定します。
設定後、正常に本製品とパソコンが通信できるかも確認します。
設定と確認は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定および確認してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。

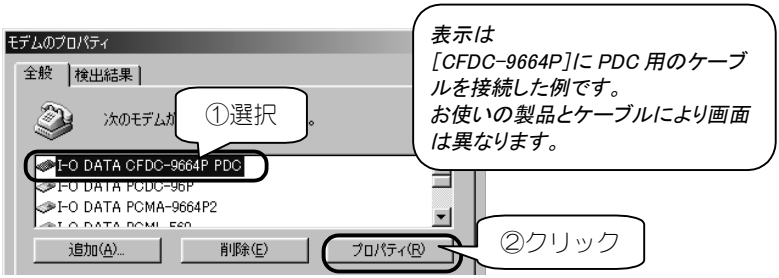


2 以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の登録名を入力
②	国名／地域	[日本]であることを確認
③	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※電話機やドッチーモは市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
④	ダイヤル方法	[トーン]を選択



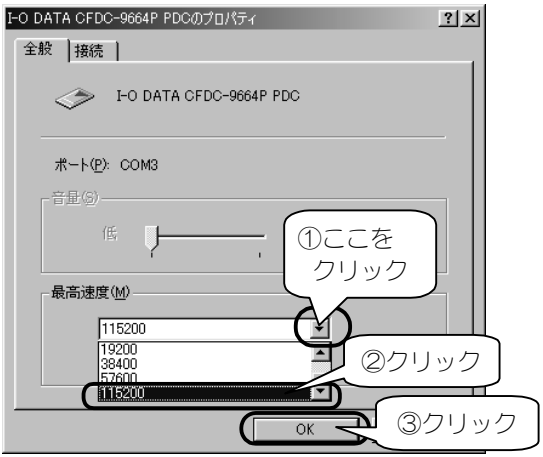
3 [I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては176ページを参照してください）をクリック後、
[プロパティ]ボタンをクリックします。



[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
325 ページ
をご参照ください。

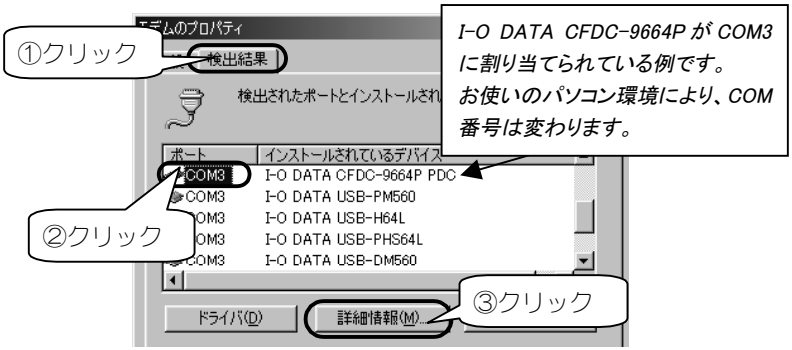
4 端末速度を設定します。
[最高速度]を選択肢中で一番速い速度に設定し、[OK]ボタンをクリックします。
最高速度には選択できる速度のうち、最高の速度（115200bpsが望ましい）を設定しておくと、最大パフォーマンスが引き出せます。



注意 **ご使用になるパソコンの種類によっては、設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。**

5 端末速度を設定したら、次に本製品とパソコンが正常に通信できるかを確認します。

[検出結果]タブをクリックします。
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されているポート(下記例では COM3 の部分)をクリックし、[詳細情報]ボタンをクリックします。
※COMの後の数字はお使いの環境によって異なります。



6 [モデムと通信しています]と表示され、しばらくして以下のように表示されたら[OK]ボタンをクリックします。
※[コマンド][応答]の部分が真っ白でなく、[AT·····]と英数字が表示されたら、本製品は正常に認識されています。



「ポートが開けません」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 325 ページをご参照ください。

注意

・この通信テストはパソコンと本製品間のテストであり、電話機を介して通信するテストではありません。
・ポートの情報には最高速度として「115Kボー」と表示されますが、実際の端末速度（パソコンと本製品間の速度）は、196 ページ4の手順で指定した速度です。
・[応答]に[ERROR]と表示されていますが、動作上問題ありません。

7 [OK]（または[閉じる]）ボタンをクリックし、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

ここまでで、本製品とパソコンが正しく通信できることが確認できました。
次に次ページで発信情報を設定してください。

ステップ 5

準備編

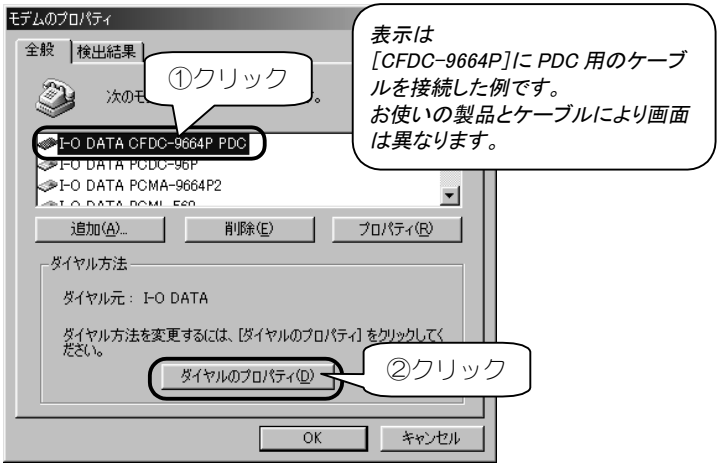
発信情報を設定する

インターネットをはじめ通信ソフトなどを利用するには、パソコンから発信するための情報（発信情報）を設定しておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[モデム]アイコンをダブルクリックします。

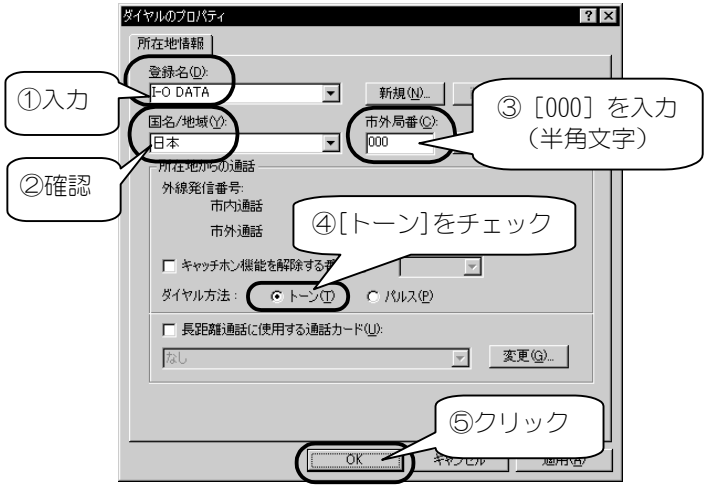


2 [I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては176ページを参照してください）をクリック後、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



3 以下の画面で必要な情報を設定し、
[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	登録名	任意の登録名（お好きな名前）を入力
②	国名／地域	[日本]であることを確認
③	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※PHS や PDC は市外局番から発信するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
④	ダイヤル方法	[トーン]を選択



4 [OK]（または[閉じる]）ボタンをクリックし、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

5 *ドッチーモでPHS通信を行う場合のみ*
202ページを参照して追加設定を行ってください。

ここまでで、本製品がパソコンに正しく認識され、使用できることが確認できました。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

実際に本製品を使う前に、【ステップ6】(203 ページ)および【ステップ7】(204 ページ)を参照して、本製品の正しい取り出し方・取り付け方をマスターしてください。
電話機を変更する場合は、【ステップ8】(205 ページ)を参照してください。

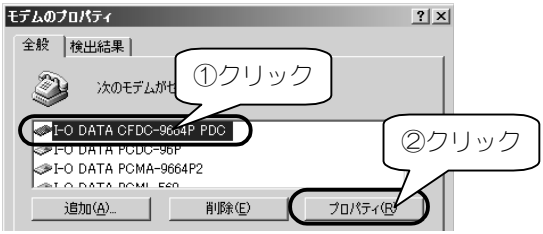
本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→【Windows 98/95 でインターネットに接続するには】(206 ページ)へ
Lotus Notes でモバイル通信したい	→【Lotus Notes でモバイル通信したい】(346 ページ)へ

●ドッチーモで PHS 通信を行う場合の追加設定

電話機の[カード選択]モードを[自動]にしてご使用ください。

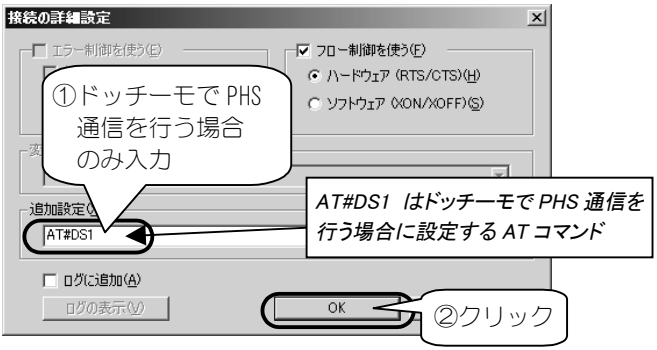
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[モデムを開き、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



2 [接続]タブをクリックし、[詳細設定]ボタンをクリックします。



3 [追加設定]に半角で「AT#DS1」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。後は[OK]ボタンや[閉じる]ボタンをクリックして画面を閉じてください。



ステップ 6

準備編

パソコンから取り出す場合

本製品を使用しなくなった場合などに、パソコンの PC カードスロットから取り出すには、以下の方法があります。

・パソコンの電源を切った後に取り出す

・Windows 98/95 を使用中に本製品の動作を終了して取り出す

Windows 98/95 を使用中に取り出す際に、以下の本製品の動作を終了する手順を行わずに取り出すと、予期しない障害が発生する可能性があります。

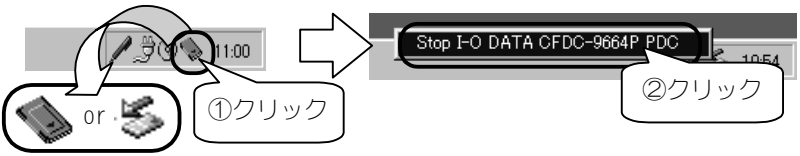
取り出す際には、本製品を使用していない（回線切断中である）事を確認した後、必ず以下の手順を行ってください。

注意

以下の動作の終了作業を行うと、実際に本製品を抜かなくても、本製品は使えなくなります。再度使いたいときは、いったん本製品を PC カードスロットから取り出してから再び差し込んでください。

本製品の動作を終了する

1 ディスプレイ画面右下のタスクトレイにあるPCカードのアイコンをクリックし、[Stop I-O DATA xxDC-9664P xxx]（または[I-O DATA xxDC-9664P xxxを取り外す]）をクリックします。



2 [OK]ボタンをクリック後、
本製品をPCカードスロットから取り出してください。



ステップ 7

準備編

再度取り付ける場合

本製品は、パソコンの電源を入れる前でも、また、パソコンの電源を入れた後（Windows を起動した後）のどちらでもパソコンに取り付けることができます。

ただし、***必ず以下のことを確認してから、本製品を PC カードスロットに差し込んでください。***

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 8

準備編

電話機を変更する場合

使用していた電話機から別の電話機に変更する場合は、以下の手順で変更してください。

1 パソコンの電源を切り、本製品をケーブルを接続したままPCカードスロットから取り出します。

2 電話機からケーブルを取り外します。
（【電話機からケーブルを取り外す場合】(14ページ)参照）

3 変更する電話機に応じたケーブルを確認します。
（【接続ケーブルを確認する】(8ページ)参照）

4 ケーブルを別のケーブルに変える場合は、ケーブルを本製品から取り外し、電話機に応じたケーブルを本製品に接続し直します。（【本製品と電話機を接続する】(12ページ)参照）

5 電話機にケーブルを接続します。
（【電話機にケーブルを接続する】(11ページ)参照）

6 パソコンの電源を入れ、本製品をPCカードスロットに挿入します。挿入後、自動的にケーブルに応じたドライバソフトがインストールされます。

注意

電話機（およびケーブル）を切り替えても自動で Windows に認識されますので、インストール作業はありません。
ただし、ケーブルを変更した場合は、Windows 上で表示される名称が異なります。
表示については、176 ページにてご確認ください。

以上で、電話機の変更手順は終了です。

インターネット接続編

Windows 98/95 で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ１】(175 ページ)～【ステップ８】(205 ページ)) が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· 207ページ

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- 本製品、電話機の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア····· 209ページ

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- ダイヤルアップアダプタ
- TCP/IP
- ダイヤルアップネットワーク

ステップ 3

通信方式を設定する ····· 221ページ

通信方式に応じた設定について説明します。

ステップ 4

インターネットを楽しもう ····· 225ページ

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 5

通信方式を変更する場合····· 230ページ

通信方式を変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合には、キャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（209 ページ【ステップ２】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ４】225 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。



ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続に必要なソフトウェア

インターネットに接続するには、以下のソフトウェアがインストールおよび設定されている必要があります。

①本製品のドライバソフトウェア

【インストールする】(176 ページ)でインストールした本製品を使用するためのソフトウェアです。
【インストールは正常ですか？】(193 ページ)で正常にインストールされているか確認しておきましょう。

[システムのプロパティ]画面の[デバイスマネージャ]タブで[モデム]の下に「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されていることの確認



表示は[CFDC-9664P]に PDC 用のケーブルを接続した例です。お使いの製品とケーブルにより画面は異なります。

②ダイヤルアップを行うためのソフトウェア

211 ページ以降で説明します。

ダイヤルアップを行ってプロバイダに接続するためのソフトウェアです。
詳細な設定は、211 ページ以降を参照してください。

③Web ブラウザやメールソフトウェア

インターネットに接続する際に特に必要ではありませんが、接続後に、ホームページなどを見るためのソフトウェアです。
Windows 98 や Windows 95 OSR2には、Web ブラウザとして Internet Explorer が標準でインストールされています。

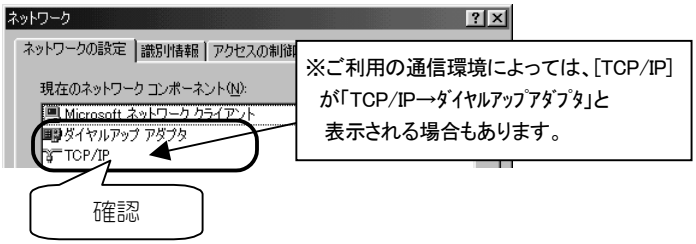
ここでは、次ページ以降で[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]の確認、および、[ダイヤルアップアダプタ]の設定について説明します。
はじめてインターネットに接続する場合、また、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合にも、次ページ以降を参照してください。

[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]を確認する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を開き、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



2 [ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP](または[TCP/IP->ダイヤルアップアダプタ])があることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 334 ページをご参照ください。

[ダイヤルアップネットワーク]を設定する

インターネットに接続するには、パソコンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[ダイヤルアップネットワーク]を設定する必要があります。

はじめて［ダイヤルアップネットワーク］の設定を行う場合、または、以前の設定はそのまま残して新しい設定を作る場合は、次ページ【新しい設定を作るとき】を行います。



参考 1

ダイヤルアップとは

→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者(プロバイダ)に接続すること。



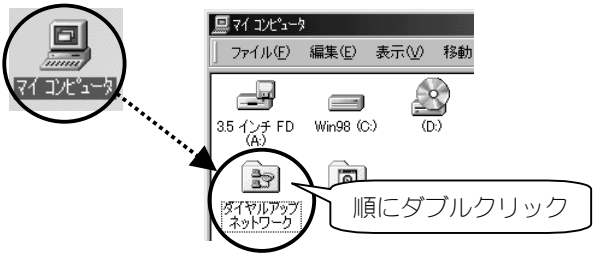
参考 2

すでにダイヤルアップ接続(インターネット)の設定を行っていて、設定内容を変更する場合は 217 ページ【設定を変更するとき】をご覧ください。

新しい設定を作るとき

1 インターネットプロバイダから入手した[ユーザー名]や[パスワード]などが記載されている資料をご用意ください。

2 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]を順にダブルクリックします。



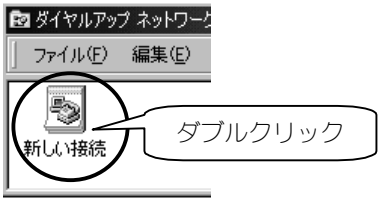
[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 332 ページをご参照ください。

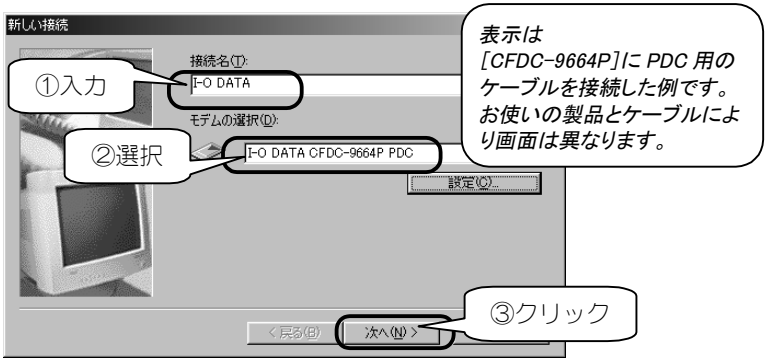
3 以下の画面が表示された場合は、[次へ]ボタンをクリックします。



4 以下の画面が表示された場合は、
[新しい接続]アイコンをダブルクリックします。

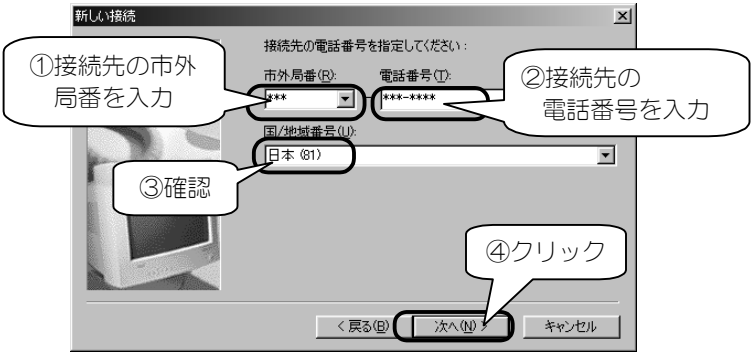


5 [接続名]欄に任意の接続名（プロバイダなどの、お好きな名前）を入力して、モデムの選択欄から[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※この表示に関しては176ページを参照してください）を選び、
[次へ]ボタンをクリックします。



6 以下を設定後、[次へ]ボタンをクリックします。

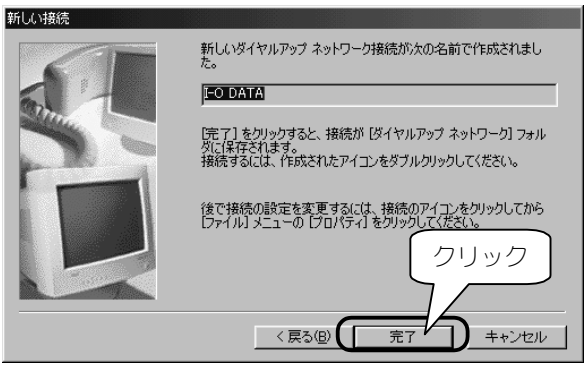
市外局番	接続先（プロバイダ）の市外局番 ※ダイヤル先が市内であっても、必ず市外局番から入力してください。
電話番号	接続先（プロバイダ）の電話番号
国/地域番号	[日本]



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

7 [完了]ボタンをクリックします。



8 新しく作成したアイコンが[ダイヤルアップネットワーク]画面に **5** の手順で指定した[接続名]で表示されます。
新しく作成したアイコンを右クリックし、メニュー内の[プロパティ]をクリックします。

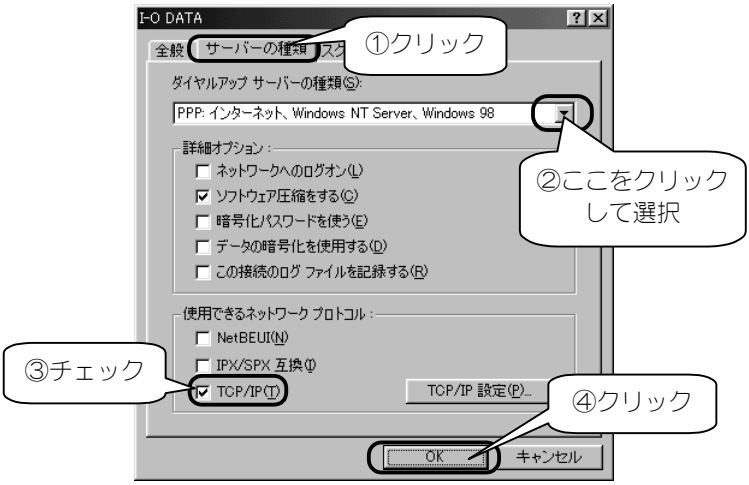


9 [サーバーの種類]タブをクリックし、以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では
　[PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows 98]を選択

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみにチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は次ページを参照し、設定してください。設定後、[OK]ボタンをクリックします。

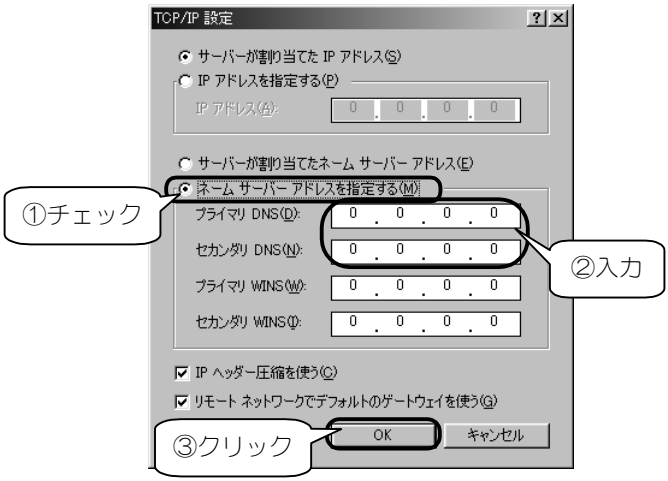


以上で[ダイヤルアップネットワーク]の設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
221 ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

●プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合

1 前ページ**9** の手順の画面で、[TCP/IP 設定]ボタンをクリックします。

2 以下を設定します。
①[ネームサーバーアドレスを指定する]をチェックします。
②[プライマリ DNS]欄にプライマリ DNS を、[セカンダリ DNS]欄にセカンダリ DNS の値を入力します。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。

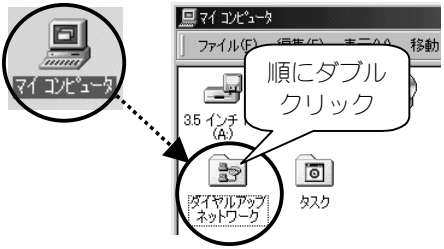


注意

・ネームサーバーアドレスの入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・プロバイダによっては、IP アドレスの設定が必要な場合もあります。必要な設定内容については、ご契約のプロバイダに確認してください。

設定を変更するとき

1 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]アイコンを順にダブルクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]が
表示されない場合は…

【困ったときには】の
332 ページ
をご参照ください。

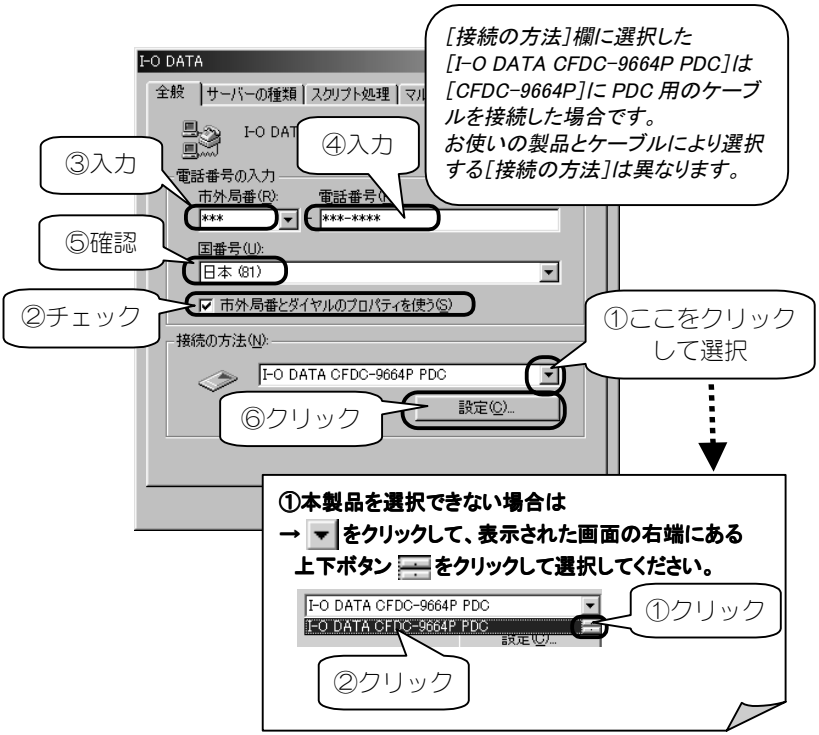
2 変更したい接続のアイコンを右クリックして、表示された[プロパティ]をクリックします。



3 以下を設定します。

①[接続の方法]に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]を選びます。
②[市外局番とダイヤルのプロパティを使う]をチェックします。
③[市外局番]欄には、接続先の市外局番を入力します。
④[電話番号]欄には、接続先の電話番号を入力します。
⑤[国番号]欄は、「日本」であることを確認します。

設定後、[設定]ボタンをクリックします。



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）
・ご契約のプロバイダによっては、モバイル専用電話番号として、#** の番号で案内されている場合があります。その場合は、[市外局番]を空白にして電話番号に #**** を入力してください。（#**** はダイヤル番号になります。必ず、市外局番、電話番号は半角文字で入力してください。）**

4 [全般]タブで[最高速度]が[115200bps]となっていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



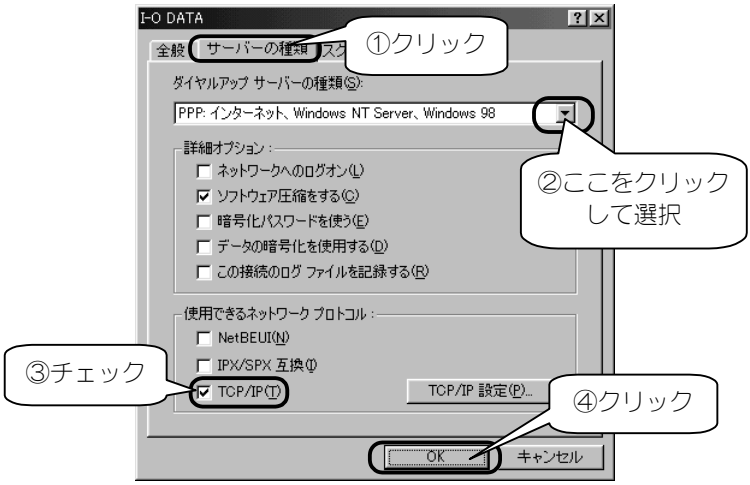
5 [サーバーの種類]タブをクリックし、以下のように設定します。

・[ダイヤルアップサーバーの種類]では

[PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows 98]を選択

・[使用できるネットワークプロトコル]で[TCP/IP]のみにチェック

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は216ページを参照し、設定してください。設定後、[OK]ボタンをクリックします。



6 [OK]ボタンをクリックし、画面を閉じます。

これでダイヤルアップネットワークの設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
次ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

ステップ 3

インターネット接続編

通信方式を設定する

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
次ページ以降を参照して追加設定してください。
以下に該当しない場合は、本ステップを読み飛ばし、【ステップ４】(225 ページ)へお進みください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。(次ページの手順と 202 ページの手順の両方の手順が必要です。)*	次ページの手順で変更します。
64K 対応 H"で PIAFS 32K 通信を行う場合	
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合	

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント(電話番号)も異なる(別になっている)場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

注意

・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

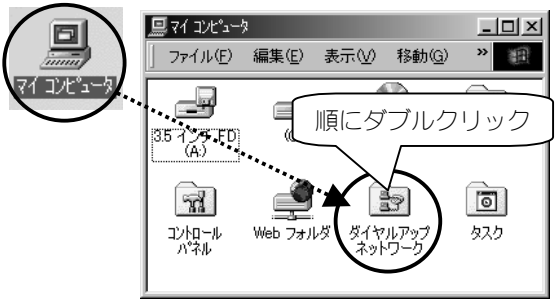
参考

ここでの設定は、1つのプロバイダのみに接続する場合(1つの通信方式しか使用しない場合)の設定です。
複数のプロバイダに接続する場合など、プロバイダ毎に通信方式を変更したい場合は、接続する際に設定し直すこともできます。手順については、【ステップ5 通信方式を変更する場合】(230 ページ)を参照してください。

通信方式に応じて設定する

通信方式に応じた設定をします。
設定は、【ステップ2】で作成した［ダイヤルアップネットワーク］アイコンで行います。本製品を PC カードスロットに挿入したままで設定してください。

1 ［マイコンピュータ］→［ダイヤルアップネットワーク］アイコンを順にダブルクリックします。



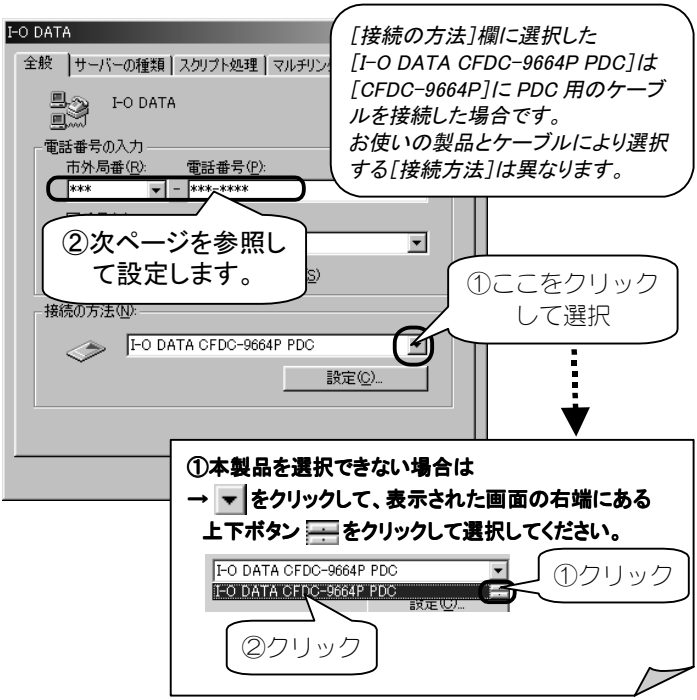
［ダイヤルアップネットワーク］が表示されない場合は…

【困ったときには】の 332 ページをご参照ください。

2 変更したい接続のアイコンを右クリックして、表示された［プロパティ］をクリックします。



3 [接続の方法]に本製品を選択し、[市外局番][電話番号]欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行います。
設定後、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じてください。



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が表示されていることを確認してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



①32K 通信に対応した電話番号に変更します。

②電話番号の後に #32 （すべて半角）を入力します。

これで通信方式に応じた設定は終了です。
次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

ステップ 4

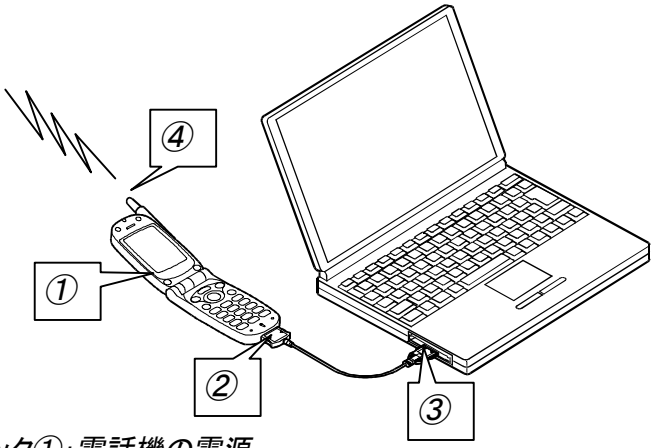
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品をパソコンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

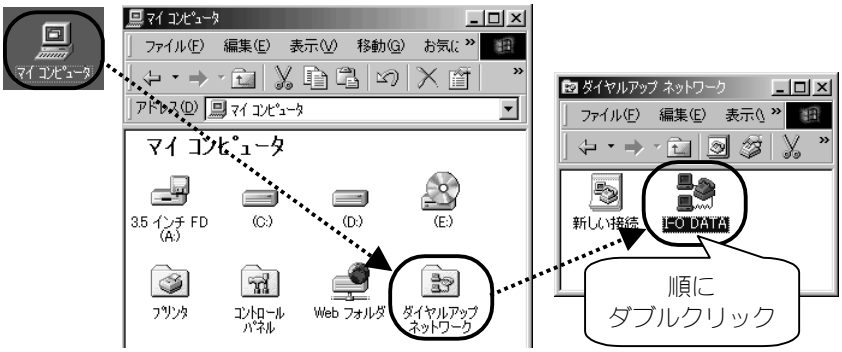
注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

インターネットに接続する

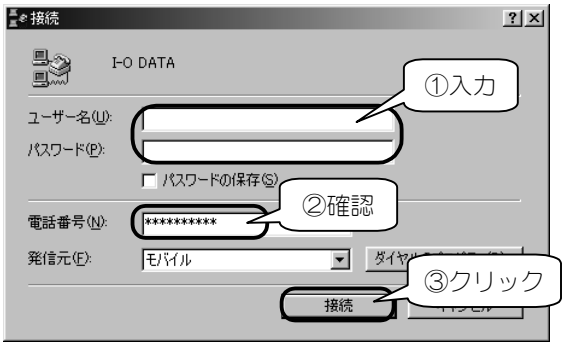
インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(211 ページ) で作成した[ダイヤルアップネットワーク]で行います。

1 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]→作成した接続のアイコンを順にダブルクリックします。



2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力して、[電話番号]欄に発信する番号が表示されていることを確認後、[接続]ボタンをクリックします。

[接続]ボタンをクリックすると、プロバイダと通信を開始します。



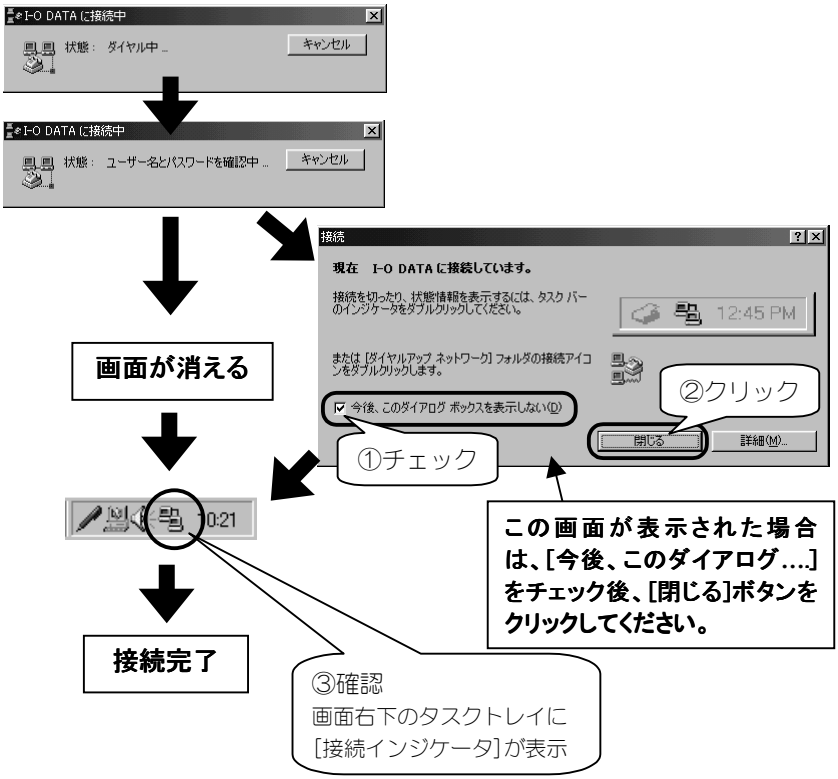
注意

・[電話番号]欄の「********」は、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。**
表示されていない場合は、[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックし、200 ページ *3* の手順の設定になっているかご確認ください。
・パスワードは「***」と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。**

注意

・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが「*」印で表示されるので、パスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。
・他のモデムも併用している場合、[発信元]欄に本製品用の登録名（200 ページ3の手順の①で入力した[登録名]）を選択してください。

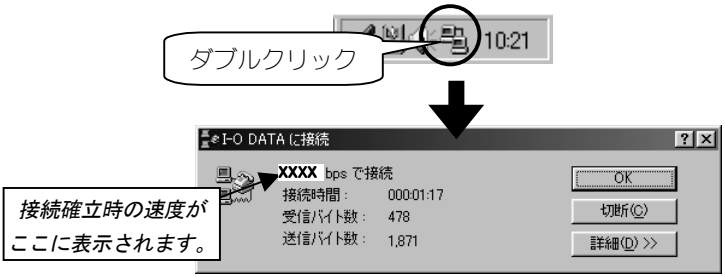
3 しばらくして「. . . に接続中」という画面が消えたら、完了です。
パソコン画面右下のタスクトレイに[接続インジケータ]アイコンが表示されます。



「回線が使用中です」などと表示された場合は…
【困ったときには】の 328 ページをご参照ください。

[接続インジケータ]アイコンが表示されない場合は…
【困ったときには】の 330 ページをご参照ください。

4 接続状況は、[接続インジケータ]アイコンを
ダブルクリックすれば確認できます。



5 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[接続インジケータ]が表示されています。

インターネットを終了する

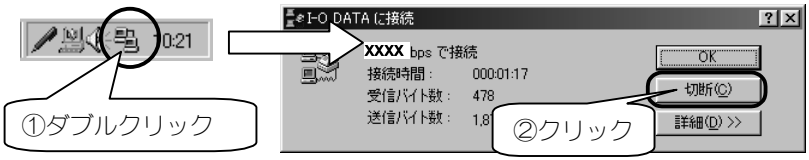
インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。クリック後、電話機の通話が終わっていること、また、[接続インジケータ]が消えることを必ず確認してください。
・電話機の通話だけを切ってもパソコン側の通信は終了しません。必ずパソコン側で切断してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[接続インジケータ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。

これで電話回線が切断され、画面右下の[接続インジケータ]が消えます。
電話機の通話も自動的に切断されますので、液晶表示を見て通話が終わっていることを確認してください。



以上で、インターネットは終了できました。

ステップ 5

インターネット接続編

通信方式を変更する場合

通信方式は、【ステップ３】(221 ページ)で設定することができますが、複数の通信方式でご利用になる場合などに、接続する際に通信方式を設定することもできます。

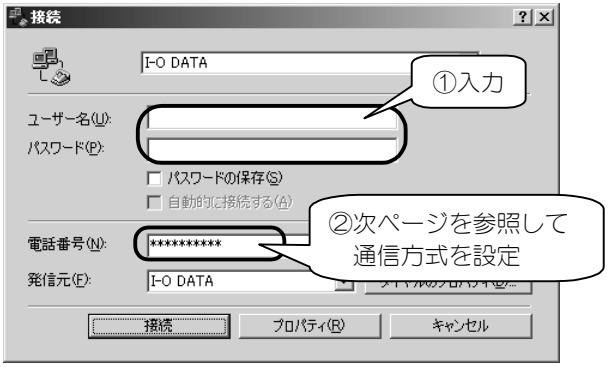
注意

以下の設定は、1 回限りなので、インターネットへの接続が終了すると元の設定に戻ります。
設定を保存しておきたい場合は、【ステップ3】(221 ページ)の手順で設定してください。

今回だけ通信方式を変えて接続する方法

1 ダイヤルアップ接続画面(226ページ**2** の手順の画面)を表示させます。

2 [ユーザー名][パスワード]入力後、
[電話番号]欄に次ページを参照して、通信方式を設定します。



注意

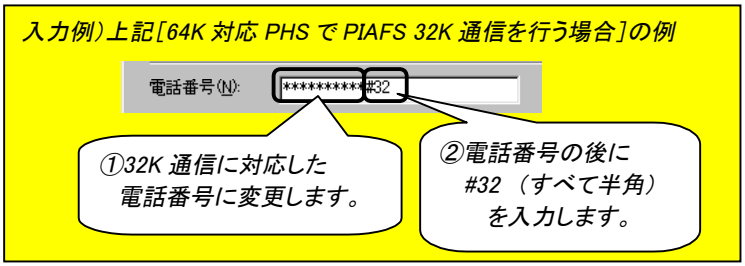
・[電話番号]欄の「********」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
(全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。)

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→ *※ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



3　[接続]ボタンをクリックすれば、設定した通信方式でインターネット接続します。

MEMO

7 Windows NT 4.0 で使うには

～ 準備編 ～

本製品で通信できるまでの流れ ……234ページ
ステップ1 インストールする ……235ページ
ステップ2 通信するための設定 ……244ページ
ステップ3 電話機を変更する場合 ……248ページ

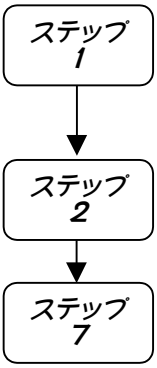
～ インターネット接続編 ～

Windows NT 4.0 でインターネットに
接続するには ‥249ページ
ステップ1 接続前の準備……250ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ‥252ページ
ステップ3 通信方式を設定する……261ページ
ステップ4 インターネットを楽しもう ‥‥264ページ
ステップ5 通信方式を変更する場合 ‥267ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、最初に本製品を使用できるようにする設定、またパソコン側での設定が必要です。
ここでは、本製品を使用して通信できるようにするまでの手順について説明します。
以下の流れに沿ってお進みください。



インストールする ····· *235ページ*
本製品を使用するにはサポートソフトのインストールが必要です。ここではそのインストール手順について説明します。

通信するための設定 ····· *244ページ*
パソコンで通信するために必要な設定について説明します。

電話機を変更する場合 ····· *248ページ*
使用していた電話機から別の電話機に変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

準備編

インストールする

本製品を使用するには、まず、「サポートソフト」ディスクのインストールが必要です。
次ページ以降の手順でインストールしてください。

・はじめに...

本書で使用しているイラストおよび表示される画面について

次ページ以降のインストール作業を含め、本書では、CFDC-9664P（CFDC-9664P に弊社製 PC カードアダプタ[CFMD-ADP]を取り付けたもの）と PDC 用のケーブルを接続しているイラストおよび画面を例にしています。
他のケーブルおよび PCDC-9664P をご使用の場合には、画面やイラストが異なります。画面に関しては、以下の表の該当する[表示]の個所に読み替えてください。

・CFDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P PHS]
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA CFDC-9664P H]

・PCDC-9664Pをお使いの場合

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PDC]
PHS（NTT ドコモ、アステル）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P PHS]
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）用ケーブル	[I-O DATA PCDC-9664P H]

カードスロットについて

本書では本製品を挿入する（取り付ける）パソコンのカードスロットを「PC カードスロット」を例にしています。
CFDC-9664P を CF カードスロットでお使いの場合は、「PC カードスロット」の個所を「CF カードスロット」に読み替えてください。

「サポートソフト」をインストールする

本製品を使用するには、添付の「サポートソフト」ディスク内のドライバソフトをパソコンにインストールする必要があります。
ここでは、そのインストール手順について説明します。
インストール作業は、はじめて本製品を接続したときだけ行います。
次回からは、パソコンを起動すれば本製品を使用できます。

注意

・弊社製 CardDock2-EX/DV、EX/98、IN/DV は Windows NT 4.0 には対応しておりませんので、ご利用いただくことはできません。
・以前に他のモデムを使用していて、本製品が同一の COM ポートで認識された場合は、以前のモデムのドライバは削除してから本製品のドライバをインストールしてください。（削除方法は[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックし、[モデムのプロパティ]画面の[情報]タブで“以前に使用していたモデム”を選択後、[削除]ボタンをクリックしてください。）
・PC-9821 シリーズの場合は、IRQ3 固定となります。本製品をセットアップする前に、IRQ3 がすでに他のデバイスで使用されていないかご確認ください。すでに使用されている場合は、IRQ3 を開放するように設定を変更してください。

1 パソコンの電源が切れていることを確認します。

2 電話機の電源を入れます。

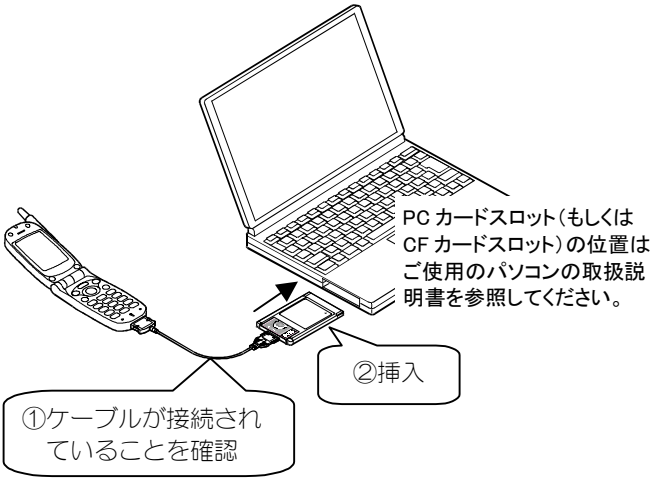


参考

次ページ3 の手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。（接続後に電話機の電源を入れることもできます。）

3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。

ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。



注意

ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

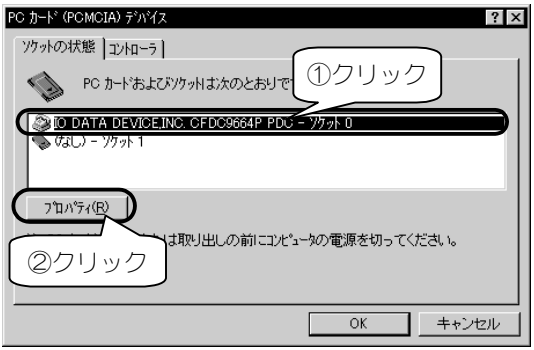
4 パソコンの電源を入れ、Windows NT 4.0 を起動します。

Windows NT 4.0使用中にPCカードの抜き差しはできません。

必ず、Windows NT 4.0を終了し、電源を切った状態で抜き差しを行ってください。

5 スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の
[PCカード]アイコンをダブルクリックします。

6 画面上の[IO DATA DEVICE,INC. xxDC-9664P xxx](※ここの表示に関しては以下の表を参照してください)をクリックします。
※ケーブルが接続されていないと表示されません。
[プロパティ]ボタンをクリックします。



・*CFDC-9664Pをお使いの場合*

接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	IO DATA DEVICE,INC. CFDC9664P PDC
PHS(NTT ドコモ、アステル)用ケーブル	IO DATA DEVICE,INC. CFDC9664P PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)用ケーブル	IO DATA DEVICE,INC. CFDC9664P H

・*PCDC-9664Pをお使いの場合*

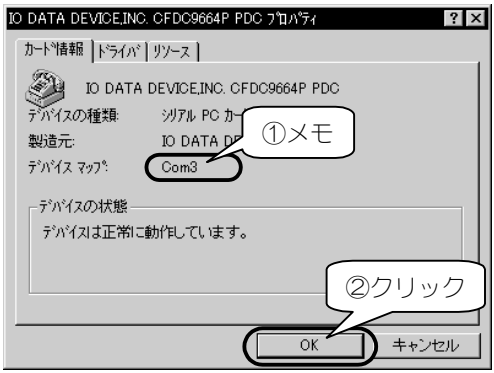
接続したケーブル	表示
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	IO DATA DEVICE,INC. PCDC9664P PDC
PHS(NTT ドコモ、アステル)用ケーブル	IO DATA DEVICE,INC. PCDC9664P PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)用ケーブル	IO DATA DEVICE,INC. PCDC9664P H

注意

表示されていない場合は、取り付けを確認してください。
また、カードの状態に×マークが付いている場合は、パソコンに、PC カード専用のユーティリティソフトがないかご確認ください。
ユーティリティがある場合は、そのユーティリティ上で本製品が正常に認識されているか、COM 番号が何番かをご確認ください。
また、ユーティリティで正常に認識されている場合は、上記画面で正常に表示されていないくても動作には問題ありません。

7 表示されたCom番号（以下の画面では[Com3]）をメモした後、[OK]ボタンをクリックします。

※このCom番号を手順 ***14*** で選択します。

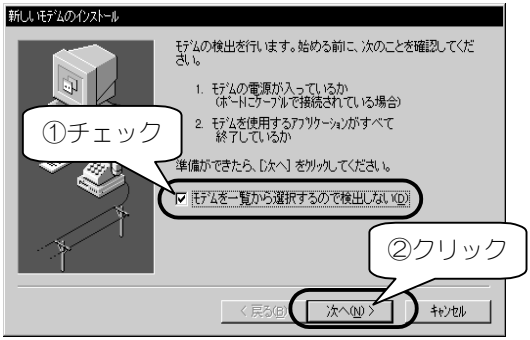


8 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックします。

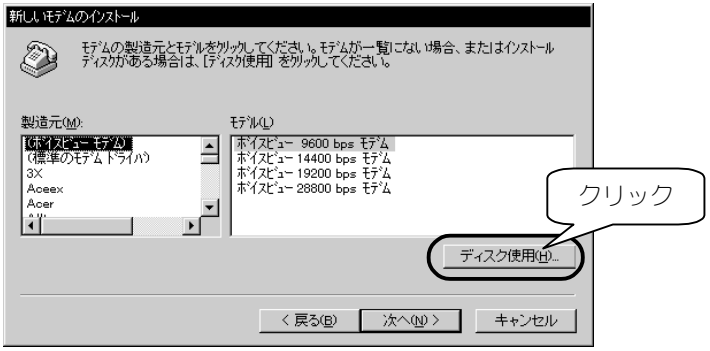


9 [モデムを一覧から…]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。

※すでに他のモデムがインストールされている場合は、[追加]ボタンをクリックすれば以下の画面が表示されます。



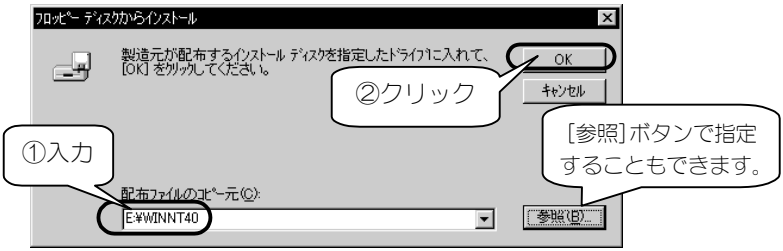
10　[ディスク使用]ボタンをクリックします。



11　「サポートソフト」CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。

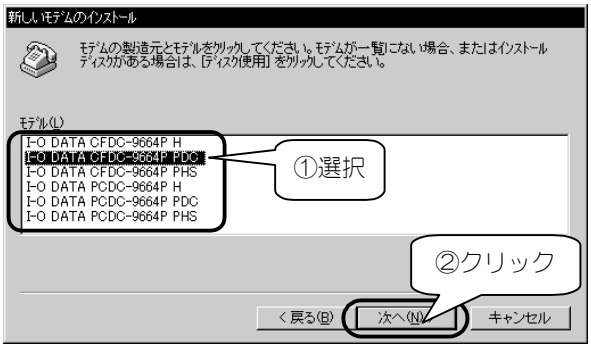


12　以下の画面で E:¥WINNT40　（CD-ROM ドライブが E ドライブの場合）と入力して[OK]ボタンをクリックします。

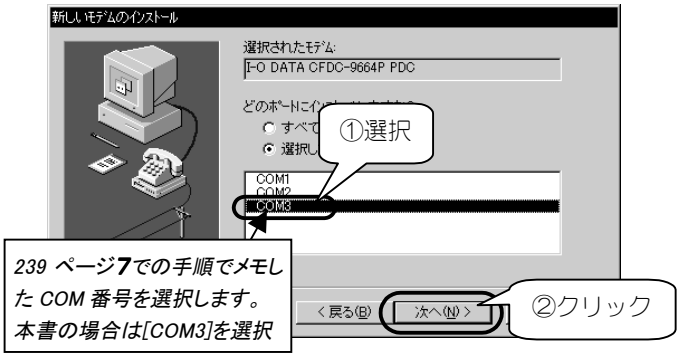


（CD-ROM ドライブが E ドライブの場合の例）

13 [モデル]欄からお使いの製品およびケーブルに応じた[モデル]([I-O DATA xxDC-9664P xxx]※)を選択して、
[次へ]ボタンをクリックします。
※ここの表示に関しては235ページを参照してください。

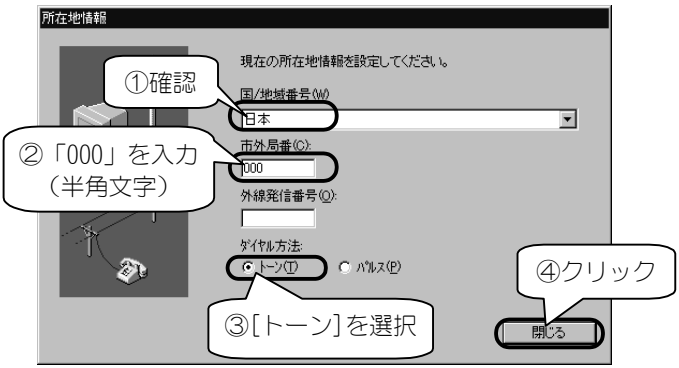


14 手順**7** でメモしたCOM番号を選択して、
[次へ]ボタンをクリックします。
ファイルのコピーを開始します。



15　以下の画面が表示された場合は、必要な情報を設定します。

No.	項目	設定内容
①	国／地域番号	[日本]であることを確認
②	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※PHS や PDC は市外局番から入力するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
③	ダイヤル方法	[トーン]を選択



16　[完了]ボタンをクリックします。



17 [閉じる]ボタンをクリックして、
[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

以上でインストールは終了です。
次は通信の設定を行います。
次ページ【通信するための設定】へお進みください。



Windows NT 4.0 使用中に本製品を PC カードスロットから取り出すことはできません。本製品を PC カードスロットから取り出す際は、必ず Windows NT 4.0 を終了してパソコンの電源を切った後で取り出してください。

ステップ 2

準備編

通信するための設定

インターネットをはじめ通信ソフトを利用するには、パソコンに通信の設定をしておく必要があります。
設定は、Windows の［モデム］アイコンで行います。
本製品を PC カードスロットに差し込んだまま（専用ケーブルを電話機に接続した状態）で設定してください。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を開き、［モデム］アイコンをダブルクリックします。



2 ［I-O DATA xxDC-9664P xxx］（※ここの表示に関しては235ページを参照してください）をクリック後、［プロパティ］ボタンをクリックします。



表示は［CFDC-9664P］に PDC 用のケーブルを接続した例です。お使いの製品とケーブルにより画面は異なります。

「I-O DATA xxDC-9664P xxx」が表示されない場合は…

【困ったときには】の 325 ページをご参照ください。

3 [最高速度]を選択肢中で一番速い速度に設定し、[OK]ボタンをクリックします。

最高速度には選択できる速度のうち、最高の速度（115200bpsが望ましい）を設定しておくと、最大パフォーマンスが引き出せます。



注意

・ご使用になるパソコンの種類によっては、設定した速度で通信できない場合があります。その場合は自動的に通信速度が落ちますので、あらかじめご了承ください。

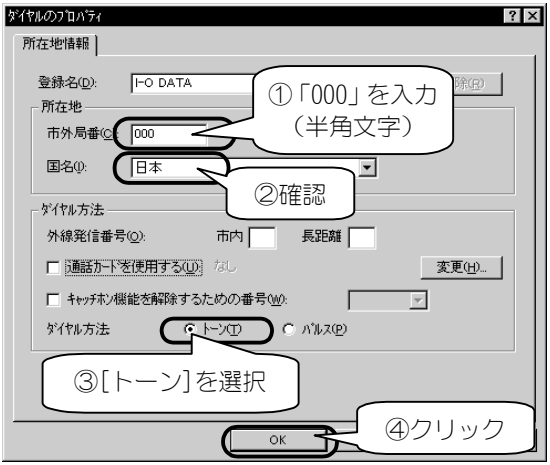
・ここで設定する速度は、端末速度（パソコンと本製品間の速度）です。

4 [モデムのプロパティ]画面の[ダイヤルのプロパティ]ボタンをクリックします。



5 必要な情報を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

No.	項目	設定内容
①	市外局番	[000]などの存在しない数値を入力（半角文字） ※電話機は市外局番から入力するので、このような仮の値を設定しておきます。 （設定しないと市外局番から発信できません。）
②	国名	[日本]であることを確認
③	ダイヤル方法	[トーン]を選択



6 [閉じる]ボタンをクリックし、[モデムのプロパティ]画面を閉じます。

7 *ドッチーモでPHS通信を行う場合のみ*

次ページを参照して追加設定を行ってください。

ここまでで、通信するための設定は終了です。
1度これらのインストールや設定を行えば、今後はパソコンを起動するだけで使えるようになります。

本製品を使って…

インターネットを楽しみたい	→【Windows NT 4.0 でインターネットに接続するには】（249 ページ）へ
Lotus Notes でモバイル通信したい	→【Lotus Notes でモバイル通信したい】（346 ページ）へ

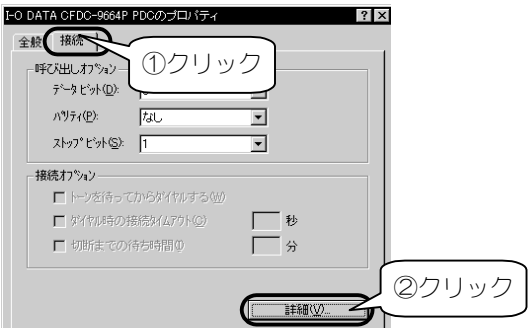
●ドッチーモで PHS 通信を行う場合の追加設定

電話機の[カード選択]モードを[自動]にしてご使用ください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[モデム]を開き、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]をクリックし、[プロパティ]ボタンをクリックします。



2 [接続]タブをクリックし、[詳細]ボタンをクリックします。



3 [追加設定]に半角で「AT#DS1」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。後は[OK]ボタンや[閉じる]ボタンをクリックして画面を閉じてください。



AT#DS1 はドッチーモで PHS 通信を行う場合に設定する AT コマンド

ステップ
3

準備編

電話機を変更する場合

使用していた電話機から別の電話機に変更する場合は、以下の手順で変更してください。

1 パソコンの電源を切り、本製品をケーブルを接続したままPCカードスロットから取り出します。

2 電話機からケーブルを取り外します。
(【電話機からケーブルを取り外す場合】(14ページ)参照)

3 変更する電話機に応じたケーブルを確認します。
(【接続ケーブルを確認する】(8ページ)参照)

4 ケーブルを別のケーブルに変える場合は、ケーブルを本製品から取り外し、電話機に応じたケーブルを本製品に接続し直します。(【本製品と電話機を接続する】(12ページ)参照)

5 電話機にケーブルを接続します。
(【電話機にケーブルを接続する】(11ページ)参照)

6 本製品をPCカードスロットに挿入後、パソコンの電源を入れます。

注意

電話機(およびケーブル)を切り替えても自動で Windows に認識されますので、インストール作業はありません。
ただし、ケーブルを変更した場合は、Windows 上で表示される名称が異なります。
表示については、235 ページにてご確認ください。

以上で、電話機の変更手順は終了です。

インターネット接続編

Windows NT 4.0 で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ１】(235 ページ)～【ステップ３】(248 ページ)) が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

接続前の準備 ····· 250ページ

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

・プロバイダとの契約
・本製品、電話機の準備

ステップ 2

接続に必要なソフトウェア····· 252ページ

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

・ダイヤルアップネットワーク

ステップ 3

通信方式を設定する ····· 261ページ

通信方式に応じた設定について説明します。

ステップ 4

インターネットを楽しもう ····· 264ページ

【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 5

通信方式を変更する場合····· 267ページ

通信方式を変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネット接続を行うには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合には、キャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（252 ページ【ステップ２】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ４】264 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。



ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続に必要なソフトウェア

本製品経由でインターネット接続を行うには、パソコンに以下のソフトウェアをインストールし、設定する必要があります。

・ダイヤルアップネットワーク

すでに、[ダイヤルアップネットワーク]をインストールしている場合は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(255 ページ)へお進みください。

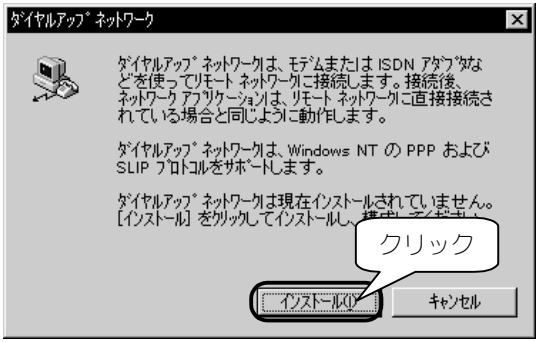
インストールしていない場合は、以下の手順でインストールしてください。

[ダイヤルアップネットワーク]をインストールする

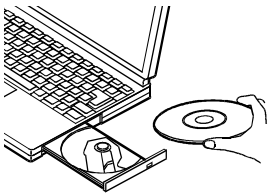
1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



2 [インストール]ボタンをクリックします。



3 Windows NT 4.0 の CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。



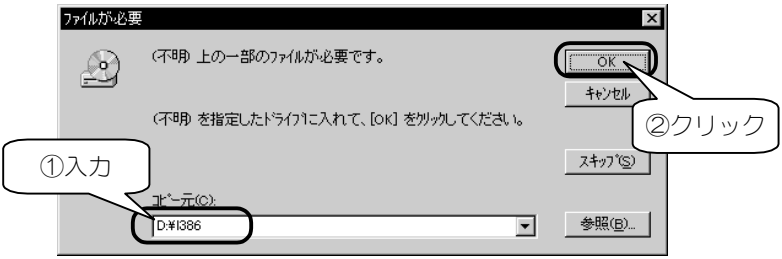
「Windows NT 4.0」CD-ROM

4 以下の画面が表示された場合は、
以下を入力して[OK]ボタンをクリックします。

「D:¥i386」　（DOS/V マシン、NEC PC98-NX シリーズ）

「D:¥Pc98」　（NEC PC-9821 シリーズ）

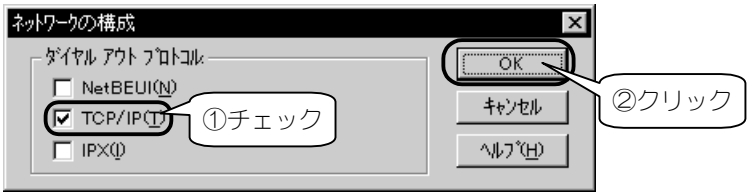
（ともにCD-ROMドライブがDドライブの場合の入力例です。）



5 [RASデバイスの追加]画面で、
[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※ここの表示に関しては235ページを参照してください）を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

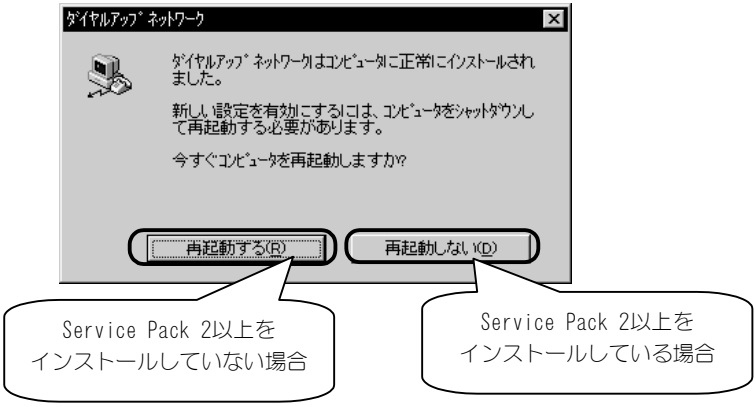
6 [リモートアクセスセットアップ]画面が表示されますので、
[ネットワーク]ボタンをクリックします。

7 [ネットワークの構成]画面が表示されますので、
[TCP/IP]のみをチェックして、[OK]ボタンをクリックします。



8 [リモートアクセスセットアップ]画面に戻りますので、
[続行]をクリックします。

9 [ダイヤルアップネットワーク]画面に戻ります。



- ***Service Pack 2以上をインストールしている場合***
  [再起動しない]をクリックしてService Packをもう一度インストールしてから再起動してください。
- ***Service Pack 2以上をインストールしていない場合***
  ［再起動する］をクリックしてパソコンを再起動してください。

以上で、インストールは終了です。
次に【[ダイヤルアップネットワーク]を設定する】(次ページ)へお進みください。

[ダイヤルアップネットワーク]を設定する

インターネットに接続するには、さらに以下の［ダイヤルアップネットワーク]を設定する必要があります。

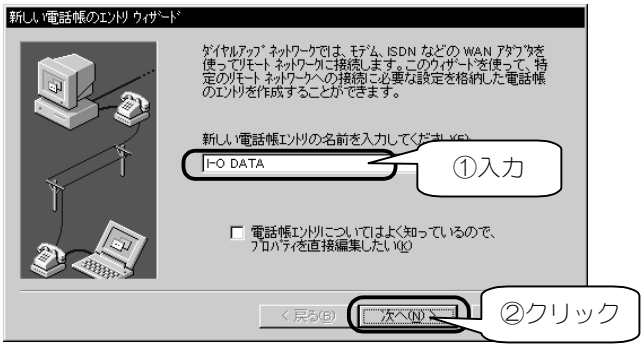
1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックし、以下の画面で[OK]ボタンをクリックします。



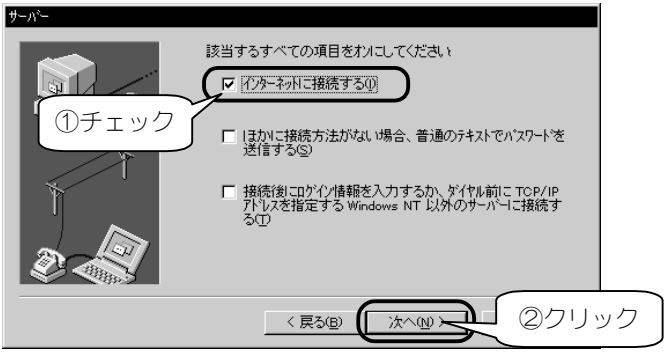
（既に「ダイヤルアップネットワーク」がインストールならびに設定されている場合は、下記の画面が表示されますので、[新規]ボタンをクリックしてください。）



2 電話帳に登録する名前（任意）を入力し、[次へ]をクリックします。

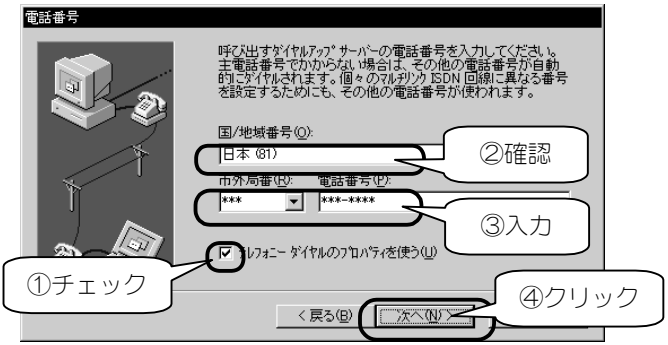


3 [インターネットに接続する]をチェックして、
[次へ]をクリックします。



4 [テレフォニーダイヤルのプロパティを使う]をチェックし、
以下を設定後、[次へ]ボタンをクリックします。

国番号	[日本(81)]
市外局番	接続先(プロバイダ)の市外局番 ※ダイヤル先が市内であっても、必ず市外局番から入力してください。
電話番号	接続先(プロバイダ)の電話番号



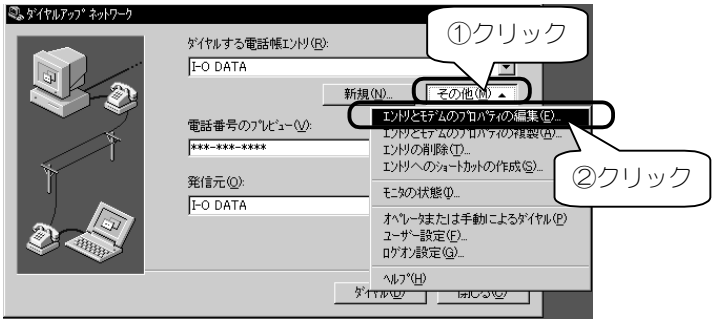
注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

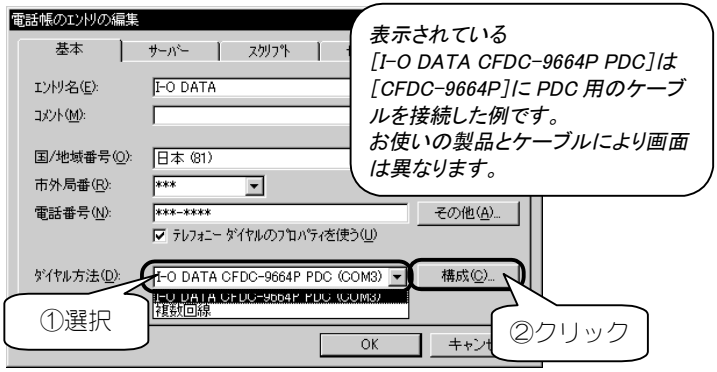
5 [完了]ボタンをクリックします。



6 [ダイヤルアップネットワーク]画面に戻りますので、[その他]をクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]をクリックします。



7 [基本]タブで、[ダイヤル方法]に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※この表示に関しては235ページを参照してください）を選択し、[構成]ボタンをクリックします。



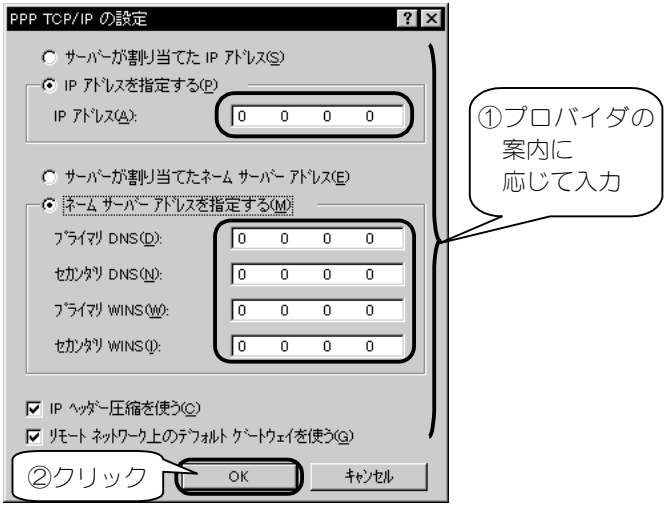
8 [初期速度]が[115200]となっていることを確認後、
[ハードウェアの機能]の項目をすべてチェックし、
[OK]ボタンをクリックします。



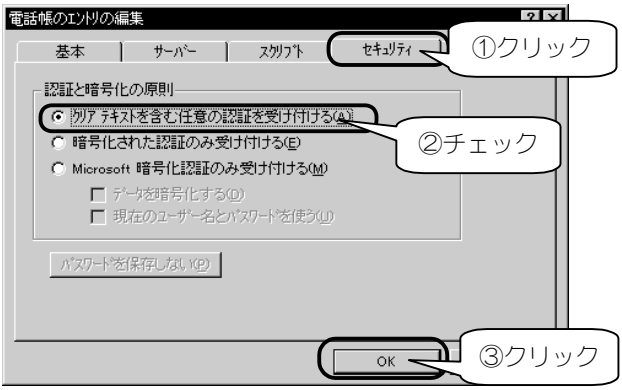
9 [サーバー]タブをクリックし、[ネットワークプロトコル]の
[TCP/IP]をチェックし、[TCP/IPの設定]ボタンをクリックします。



10 [IPアドレス][プライマリ(セカンダリ)DNS][プライマリ(セカンダリ)WINS]については、各プロバイダの案内に応じて入力してください。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



11 [電話帳のエントリの編集]画面に戻ったら、今度は[セキュリティ]タブをクリックし、[クリア テキストを含む任意の認証を受け付ける]をチェックします。
チェック後、[OK]ボタンをクリックします。



12 [閉じる]ボタンをクリックします。



これで[ダイヤルアップネットワーク]の設定は終了です。
次に通信方式の設定を行います。
次ページ【通信方式を設定する】にお進みください。

ステップ 3

インターネット接続編

通信方式を設定する

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
次ページ以降を参照して追加設定してください。
以下に該当しない場合は、本ステップを読み飛ばし、【ステップ４】(264 ページ)へお進みください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。(次ページの手順と 247 ページの手順の両方の手順が必要です。)*	次ページの手順で変更します。
64K 対応 H"で PIAFS 32K 通信を行う場合	
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合	

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント(電話番号)も異なる(別になっている)場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

注意

・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

参考

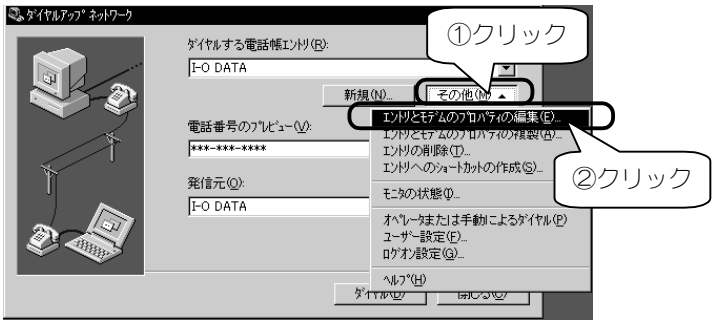
ここでの設定は、1つのプロバイダのみに接続する場合(1つの通信方式しか使用しない場合)の設定です。
複数のプロバイダに接続する場合など、プロバイダ毎に通信方式を変更したい場合は、接続する際に設定し直すこともできます。手順については、【ステップ5 通信方式を変更する場合】(267 ページ)を参照してください。

通信方式に応じて設定する

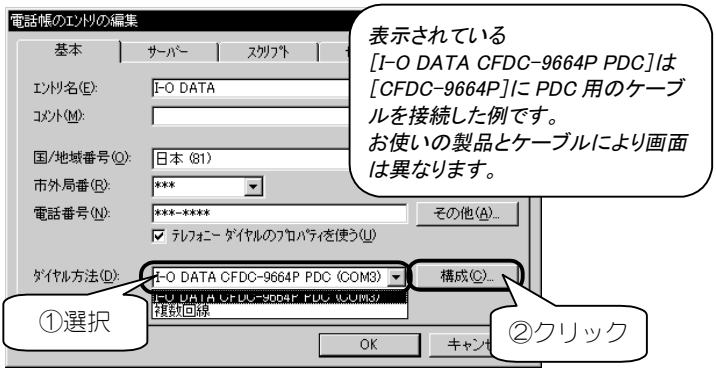
通信方式に応じた設定をします。
設定は、【ステップ2】で作成した［ダイヤルアップネットワーク］で行います。

1 ［マイコンピュータ］の［ダイヤルアップネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

2 ［ダイヤルアップネットワーク］画面で［その他］をクリックし、［エントリとモデムのプロパティの編集］をクリックします。



3 ［基本］タブで、［ダイヤル方法］に［I-O DATA xxDC-9664P xxx］（※この表示に関しては235ページを参照してください）を選択し、［市外局番］［電話番号］欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行います。
設定後、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じます。



注意

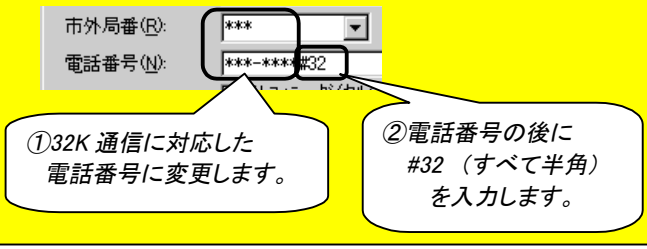
・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、上記画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の【追加する文字】(すべて半角)を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例）上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



これで通信方式に応じた設定は終了です。
次ページ【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続してみましょう。

ステップ
4

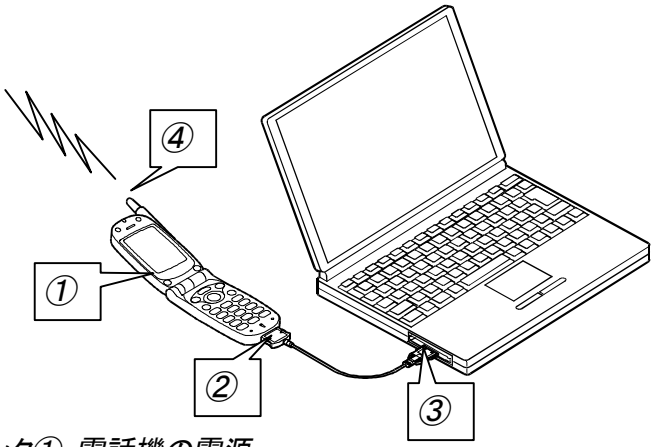
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品をパソコンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

注意

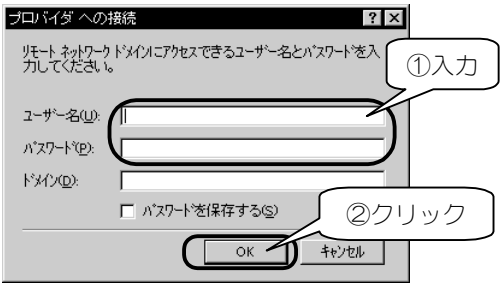
電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【[ダイヤルアップネットワーク] を設定する】(255 ページ) で作成した[ダイヤルアップネットワーク]で行います。

1 [マイコンピュータ]→[ダイヤルアップネットワーク]を開き、[ダイヤル]ボタンをクリックします。

2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力して、[OK]ボタンをクリックします。



注意

・パスワードは[*****]と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。
・[パスワードを保存する]をチェックすると、次回からパスワードが[*]印で表示されるのでパスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。

3 インターネットに接続されます。
ディスプレイ画面右下のタスクトレイに[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンが追加され、ダブルクリックすると接続状況を確認できます。



「回線が使用中です」などと表示された場合は…

【困ったときには】の 328 ページをご参照ください。

4 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。
接続中は、常時[ダイヤルアップネットワークモニタ]が表示されています。

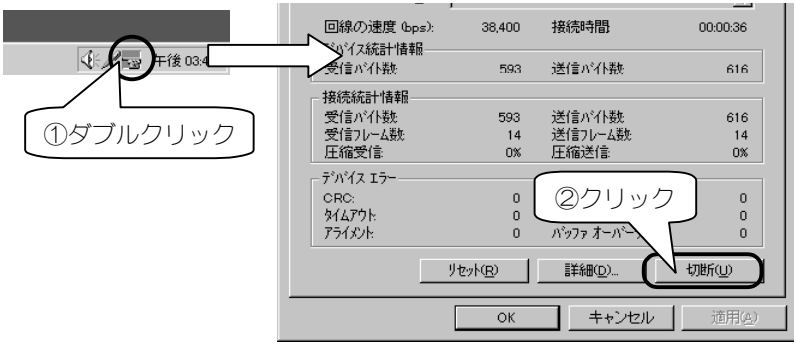
インターネットを終了する

インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。クリック後、電話機の通話が終わっていること、また、[接続インジケータ]が消えることを必ず確認してください。
・電話機の通話だけを切ってもパソコン側の通信は終了しません。必ずパソコン側で切断してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[ダイヤルアップネットワークモニタ]をダブルクリックし、[切断]ボタンをクリックします。
これで電話回線が切断され、画面右下の[ダイヤルアップネットワークモニタ]が消えます。電話機の通話も自動的に切断されるので、液晶表示を見て通話が終わっていることを確認してください。



以上で、インターネットは終了できました。

ステップ 5

インターネット接続編

通信方式を変更する場合

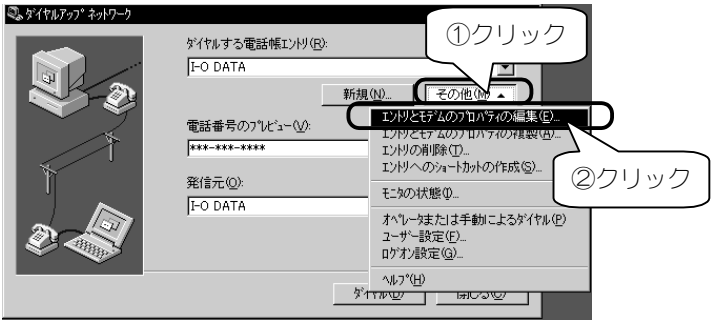
通信方式は、【ステップ３】(261 ページ)で設定することができますが、複数の通信方式でご利用になる場合などに、接続する際に通信方式を設定することもできます。

注意

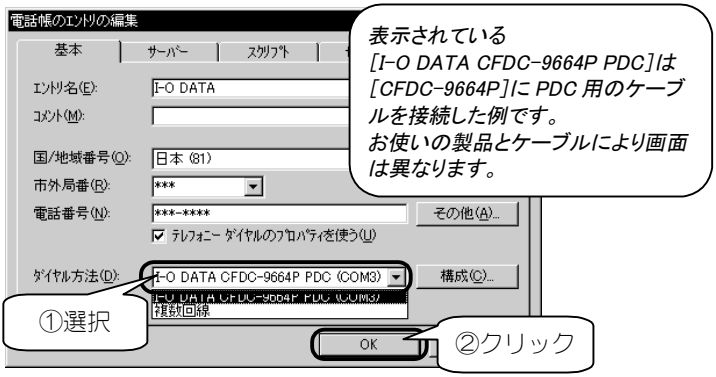
この設定は、1 回限りなので、インターネットへの接続が終了すると元の設定に戻ります。

1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

2 [ダイヤルアップネットワーク]画面で[その他]をクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]をクリックします。



3 [基本]タブで、[ダイヤル方法]に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]（※この表示に関しては235ページを参照してください）を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



注意

・[市外局番][電話番号]欄の「*」「***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号を入力してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

4 [電話番号のプレビュー]欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行います。

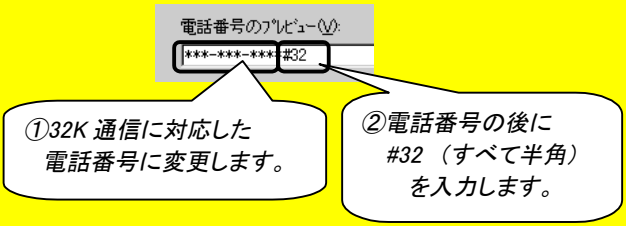


●通信方式に応じた設定

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→ *※ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



5　[ダイヤル]ボタンをクリックすれば、設定した通信方式でインターネットに接続します。

MEMO

8 Windows CE で使うには

～ 準備編 ～
Windows CE マシンに取り付ける ……272ページ

～ インターネット接続編 ～
Windows CE でインターネットに
接続するには ‥274ページ
ステップ1 接続前の準備……275ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ‥277ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう ‥‥283ページ

準備編

Windows CE マシンに取り付ける

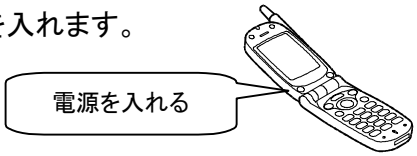
本製品を Windows CE マシンに取り付けます。

注意

・Windows CE マシンを使用中に本製品の抜き差しはできません。
必ず Windows CE を終了し、電源を切った後で抜き差しを行ってください。
・AC アダプタを接続せずにバッテリでお使いの場合、本製品を差すと[このバッテリで使用しますか？]と表示されるので、[はい]ボタンをタップします。

1 Windows CEマシンの電源を切ります。

2 電話機の電源を入れます。

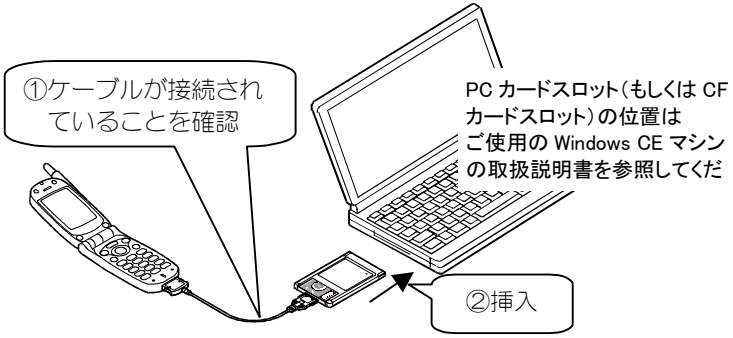


参考

以下の3 の手順で電話機と本製品を接続しますが、電話機の電源が入っている状態でも問題ありません。(接続後に電話機の電源を入れることもできます。)

3 本製品を PC カードスロット(もしくは CF カードスロット)に差し込みます。

ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロット(もしくはCFカードスロット)の奥までしっかりと差し込みます。





ケーブルを接続せずに、カードのみをパソコンに挿入した場合は、カードを一旦取り外し、ケーブルを接続してから挿入し直してください。

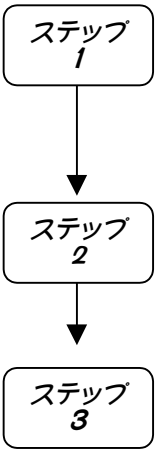
4 Windows CEマシンの電源を入れます。

以上で、本製品の取り付けは終了です。
インターネットを楽しみたい場合は、次ページ以降を参照してください。

インターネット接続編

Windows CE で インターネットに接続するには

本製品の Windows CE マシンへの取り付けが終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。



接続前の準備 ····· 275ページ
インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。
- プロバイダとの契約
- 本製品、電話機の準備

接続に必要なソフトウェア····· 277ページ
インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。
- リモートネットワーク

インターネットを楽しもう ····· 283ページ
【ステップ2】で設定した［ダイヤルアップ接続］で実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1：プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合にはキャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（277 ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】283 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。



ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続に必要なソフトウェア

インターネット接続を行うには、Windows CE マシンからプロバイダなどにダイヤルアップするためのソフトウェア[リモートネットワーク]を設定する必要があります。
以下の手順で設定してください。

注意

パケット通信を行うには、電話機のオプション契約(パケット使用料)が別途必要です。また、プロバイダがパケット通信に対応している必要があります。

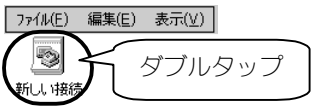
参考

ダイヤルアップとは

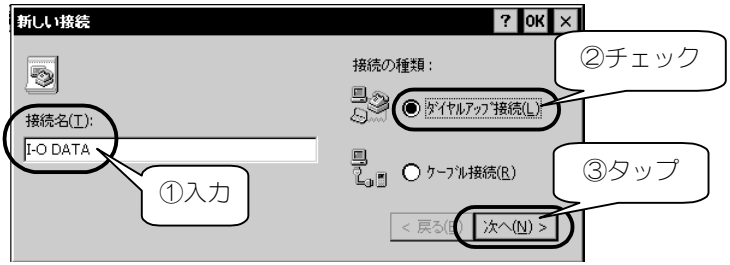
→電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者(プロバイダ)に接続すること。

1 [スタート]→[プログラム]→[通信]を開き、
[リモートネットワーク]アイコンをダブルタップします。

2 [新しい接続]アイコンを
ダブルタップします。



3 任意の接続名(お好きな名前)を入力し、
[ダイヤルアップ接続]にチェックし、[次へ]ボタンをタップします。



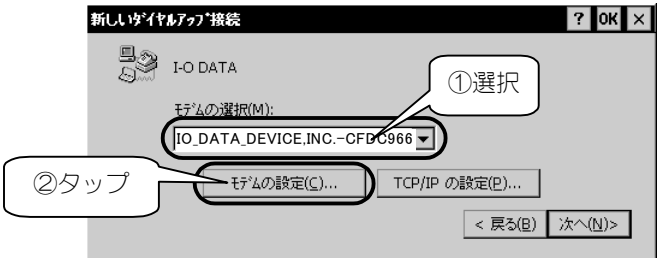
4 [モデムの選択]では、お使いの製品およびケーブルに該当する[選択する項目]を選択し、[モデムの設定]ボタンをタップします。

・*CFDC-9664Pをお使いの場合*

接続したケーブル	選択する項目
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	IO_DATA_DEVICE,INC.CFDC-9664P_PDC
PHS(NTT ドコモ、アステル)用ケーブル	IO_DATA_DEVICE,INC.CFDC-9664P_PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)用ケーブル	IO_DATA_DEVICE,INC.CFDC-9664P_H

・*PCDC-9664Pをお使いの場合*

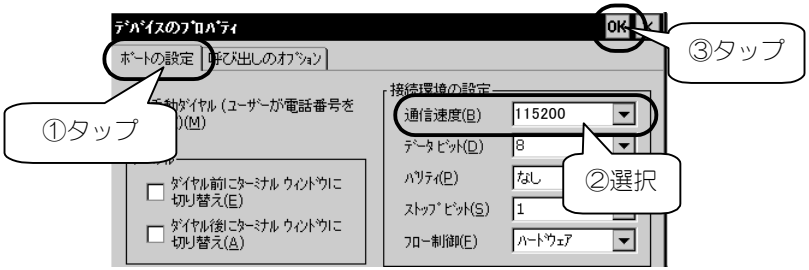
接続したケーブル	選択する項目
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス用ケーブル	IO_DATA_DEVICE,INC.PCDC-9664P_PDC
PHS(NTT ドコモ、アステル)用ケーブル	IO_DATA_DEVICE,INC.PCDC-9664P_PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)用ケーブル	IO_DATA_DEVICE,INC.PCDC-9664P_H



注意

[モデムの選択]に[IO_DATA_DEVICE,INC.xxDC9664P_xxx]が現れない場合は、Windows CE をいったん終了し、本製品とケーブルの接続を確認の上、Windows CE マシン本体のリセットスイッチを押してリセットしてください。

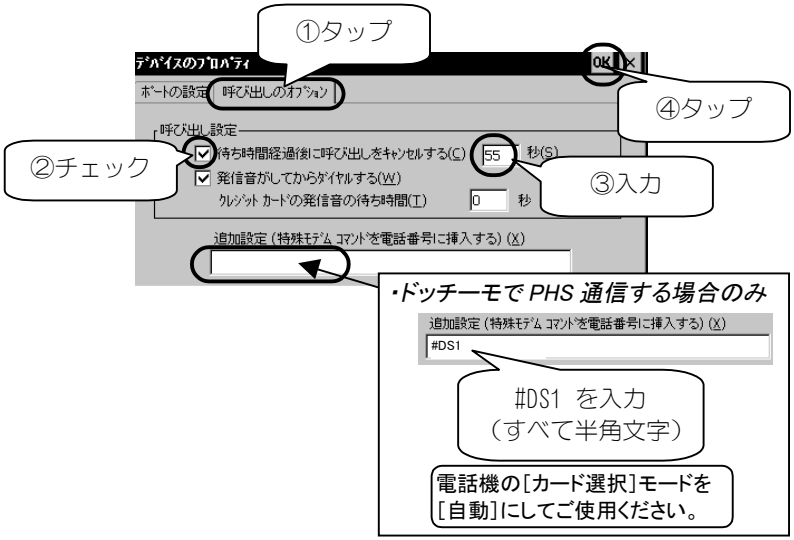
5 [ポートの設定]タブをタップし、[通信速度]欄で[115200]を選択して、ウィンドウ右上の[OK]ボタンをタップします。



6 [呼び出しのオプション]タブをタップし、
[待ち時間経過後に呼び出しをキャンセルする]をチェック後、
[55]秒を入力します。

ドッチーモで PHS 通信を行う場合はさらに
[追加設定]欄に　#DS1　（すべて半角文字）　を入力します。

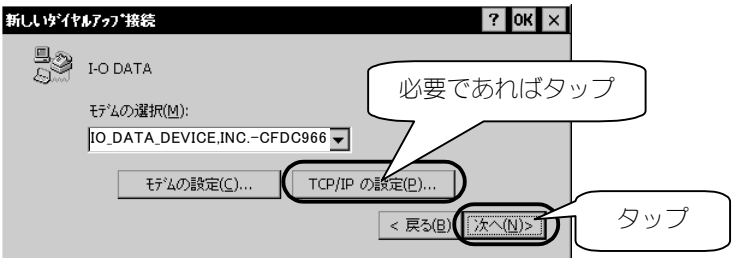
設定後、ウィンドウ右上の[OK]ボタンをタップします。



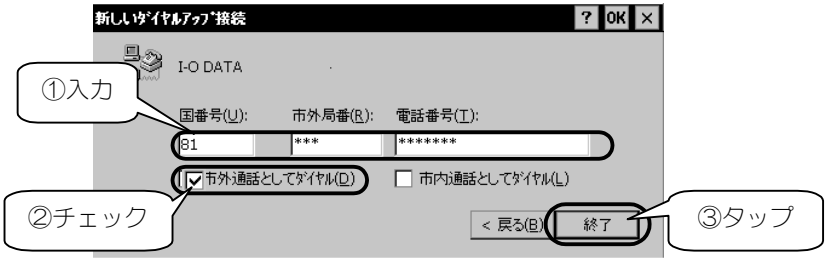
注意

・[追加設定]欄に入力する文字はすべて半角文字で入力してください。
・[追加設定]欄に入力する AT コマンドの意味や詳細は、「サポートソフト」CD-ROM 内の「Manual.htm」を参照してください。

7 プロバイダからの指定がある場合は、
[TCP/IP の設定]ボタンをタップして設定してください。
設定が不要または終了したら、[次へ]ボタンをタップします。



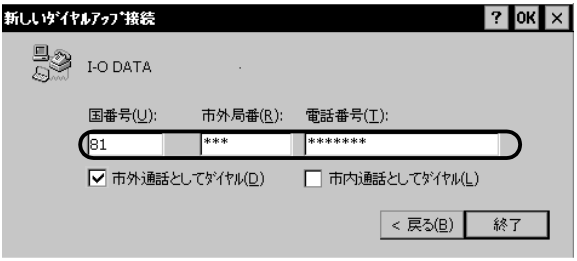
8 接続先のプロバイダの[市外局番][電話番号]
([国番号]は[81])を入力し、[市外通話としてダイヤル]をチェックします。



9 以下に該当する場合は、[市外局番][電話番号]欄に次ページの【通信方式に応じた設定】を行ってください。
以下に該当しない場合は、282ページ***10***の手順へお進みください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。(次ページの手順と前ページ6の手順の両方の手順が必要です。)*	次ページの手順で変更します。
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合	
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合	

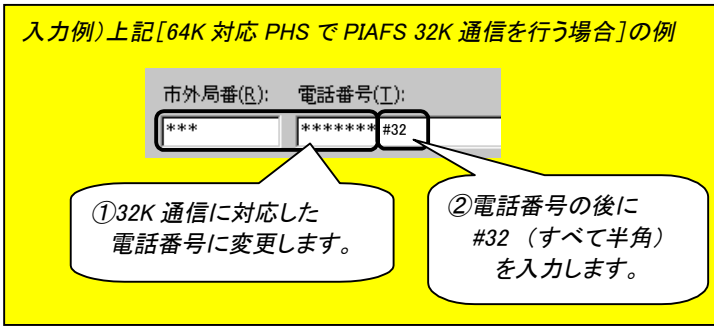
●通信方式に応じた設定



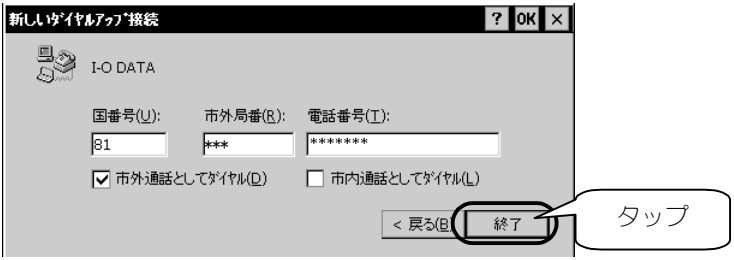
通信方式に応じた設定は、上記画面の［市外局番］［電話番号］欄を以下のお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例)上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



10　[終了]ボタンをタップします。



11　作成した接続のアイコンが表示されます。



これでリモートネットワークの設定は終了です。
次ページの【インターネットを楽しもう】を参照して、実際にインターネットに接続してみましょう。

ステップ 3

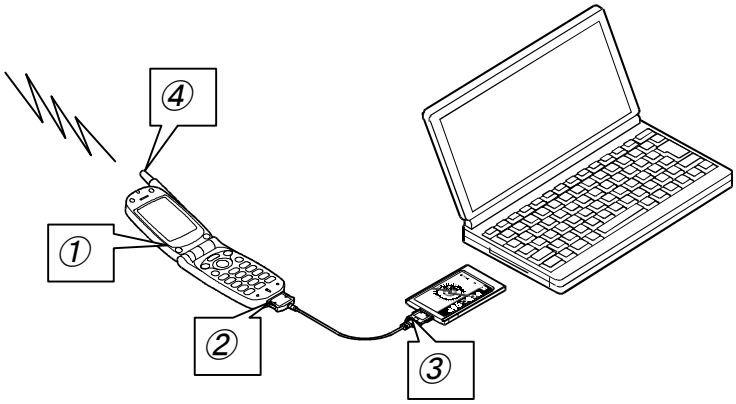
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品を Windows CE マシンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

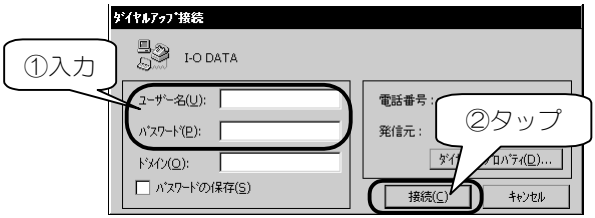
インターネットに接続する

インターネットへの接続は、【接続に必要なソフトウェア】（277 ページ）で作成した[リモートネットワーク]で行います。

1 作成した接続アイコンをダブルタップします。



2 プロバイダから通知された[ユーザー名]と[パスワード]を入力して、[接続]ボタンをタップします。

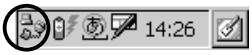


注意

・パスワードは[*****]と表示され、入力内容が確認できないので、アルファベットの大文字小文字などを間違えないように注意してください。
・[パスワードの保存]をチェックすると、次回からパスワードが[*]印で表示されるので、パスワードを入力する必要がありません。セキュリティの必要に応じてお使いください。

3 インターネットに接続されます。

画面右下のタスクトレイに[接続インジケータ]アイコンが追加され、ダブルタップすると接続状況を確認できます。



4 ブラウザや電子メールソフトを起動してお楽しみください。

接続中は、ずっと[接続インジケータ]が表示されています。

インターネットを終了する

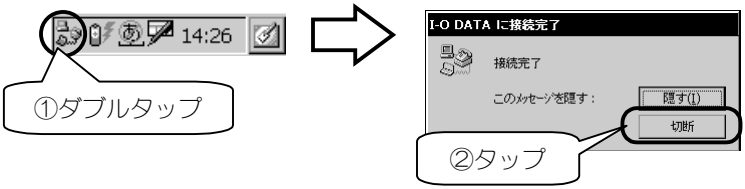
インターネットを終了する場合は、ブラウザや電子メールを終了するだけでなく、必ず以下の手順を行ってください。

注意

・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず以下の[切断]ボタンをクリックしてください。クリック後、電話機の通話が終わっていること、また、[接続インジケータ]が消えることを必ず確認してください。
・電話機の通話だけを切ってもパソコン側の通信は終了しません。必ずパソコン側で切断してください。

1 インターネット利用が終わったら、画面右下の[接続インジケータ]アイコンをダブルタップし、[切断]ボタンをタップします。

これで電話回線が切断され、画面右下の[接続インジケータ]が消えます。
電話機の通話も自動的に切断されますので、液晶表示を見て通話が終わっていることを確認してください。



以上で、インターネットは終了できました。

MEMO

9 Mac OSで使うには

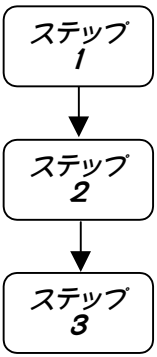
～ 準備編 ～
本製品で通信できるまでの流れ ……288ページ
ステップ1 Mac OS のバージョンを確認する ‥289ページ
ステップ2 パソコンに取り付ける ……290ページ
ステップ3 設定ファイルをコピーする ‥292ページ

～ インターネット接続編 ～
Mac OS でインターネットに接続するには ‥293ページ
ステップ1 接続前の準備……294ページ
ステップ2 接続に必要なソフトウェア ‥296ページ
ステップ3 インターネットを楽しもう ‥‥313ページ
ステップ4 通信方式を変更する場合 ‥316ページ

準備編

本製品で通信できるまでの流れ

本製品を利用して、インターネットをはじめ通信ソフトなどを使用するには、本製品をパソコンに取り付け、「サポートソフト」CD-ROM 内の「モデム設定ファイル」（CCL ファイル）をパソコンにコピーする必要があります。
以下の流れに沿ってお進みください。



Mac OS のバージョンを確認する ····· 289ページ
本製品を使用できる Mac OS のバージョンの確認手順について説明します。

設定ファイルをコピーする ····· 290ページ
本製品を使用するために必要なモデム設定ファイルをコピーする手順について説明します。

パソコンに取り付ける ····· 292ページ
本製品をパソコンに取り付ける手順について説明します。

ステップ 1

準備編

Mac OS のバージョンを確認する

ご使用の Macintosh が、Mac OS 8.6 未満では本製品は使用できません。
以下の手順で、Mac OS のバージョンを確認してください。
8.6 未満の場合には、バージョンアップしてください。

1 [Apple システム・プロフィール]を選択します。

[Apple]メニューをクリックして、表示された[Appleシステム・プロフィール]をクリックします。



2 Mac OSのバージョンを確認します。



参考

Mac OS のバージョンが 8.6 未満の場合は

→Mac OS を 8.6～9.2.1 にバージョンアップしてください。(8.6 未満では本製品は使用できません。)バージョンアップ後、次ページ【設定ファイルをコピーする】へ進んでください。

Mac OS のバージョンが 8.6～9.2.1 の場合は

→これ以上の作業は必要ありません。次ページ【設定ファイルをコピーする】へ進んでください。

ステップ 2

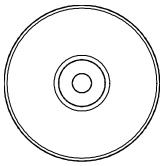
準備編

設定ファイルをコピーする

Mac OS のバージョンを確認したら、次に「サポートソフト」CD-ROM 内の「モデム設定ファイル」（CCL ファイル）をパソコンにコピーします。

用意するもの

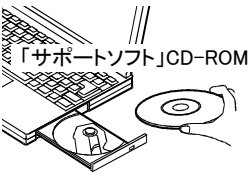
・添付の「サポートソフト」CD-ROM



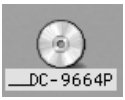
「モデム設定ファイル」をコピーする

以下の手順は、初めて本製品を使うときだけ行います。

1 「サポートソフト」CD-ROM を CD-ROMドライブにセットします。

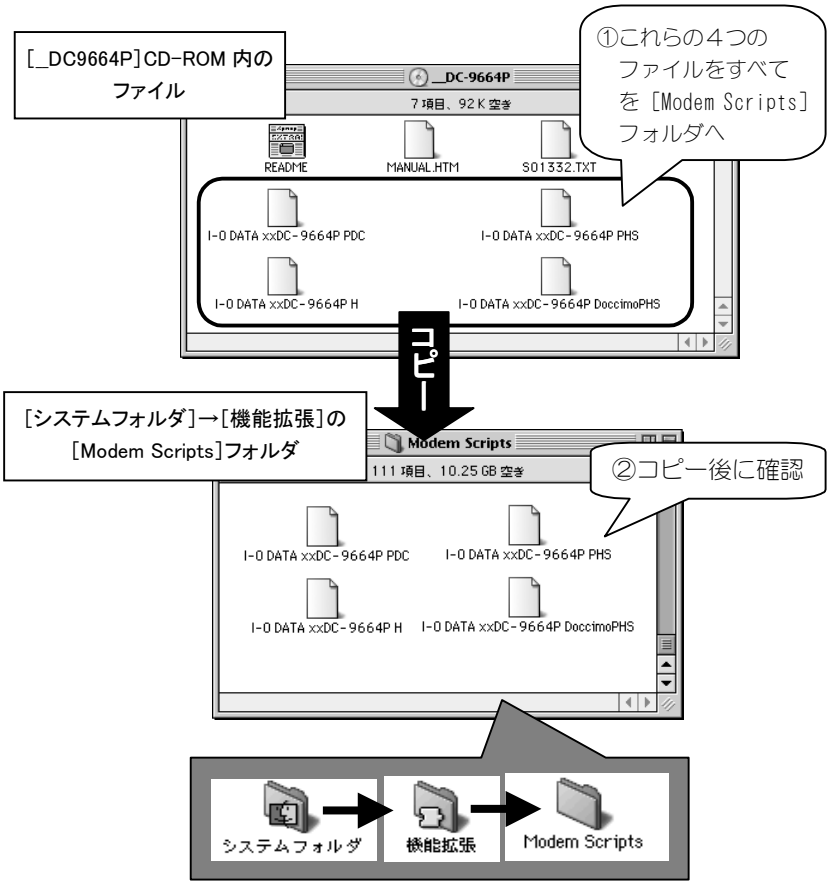


2 CD-ROMドライブアイコンをダブルクリックします。



3 CD-ROM 内の[I-O DATA xxDC-9664P xxx]の4つの CCL ファイル(このファイルが「モデム設定ファイル」です)を Macintosh の[システムフォルダ]※→[機能拡張]フォルダ→[Modem Scripts]フォルダへコピーします。

※[システムフォルダ]は、Mac OSをインストールしたドライブ（通常、Macintosh HD）の中にあります。



以上で「モデム設定ファイル」のコピーは終了です。
次にパソコンに本製品を接続します。次ページへお進みください。

ステップ
3

準備編

パソコンに取り付ける

パソコンに取り付ける手順について説明します。

パソコンに取り付ける

1 本製品を差し込まずに、パソコンの電源を入れ、
Mac OSを起動します。

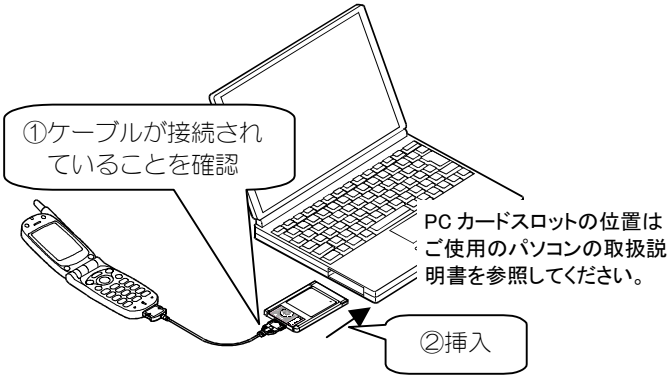
2 電話機の電源を入れます。



参考

電話機の電源は本製品との接続前、接続後のどちらでも問題ありません。

3 本製品を PC カードスロットに差し込みます。
ケーブルが本製品に接続されていることを確認後、本製品のラベル面を上にして、PCカードスロットの奥までしっかりと差し込みます。

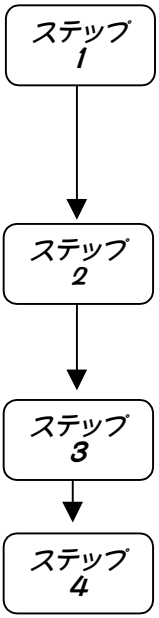


以上で取り付けは終了です。
インターネットを楽しみたい場合は、次ページ以降を参照してください。

インターネット接続編

Mac OS で インターネットに接続するには

【準備編】(【ステップ１】(289 ページ)～【ステップ３】(292 ページ)) が終了したら、いよいよインターネットに接続してみましょう。



接続前の準備 ····· ***294ページ***

インターネットに接続する上で必要な確認事項について説明します。

- プロバイダとの契約
- 通信方式の確認
- パソコン、本製品、電話機の準備

接続に必要なソフトウェア ····· ***296ページ***

インターネットに接続するために必要なソフトウェアについて説明します。

- らくらく自動設定
- お好み手動設定

インターネットを楽しもう ····· ***313ページ***

［リモートアクセス］で実際にインターネットに接続してみましょう。

通信方式を変更する場合 ····· ***316ページ***

通信方式を変更する場合の手順について説明します。

ステップ 1

インターネット接続編

接続前の準備

インターネットに接続するには、以下をまず準備しておく必要があります。順にチェックしておいてください。

準備1:プロバイダとの契約

インターネット・サービスを受けるために、商用プロバイダとダイヤルアップ IP 接続の契約を行ってください。

※パケット通信を行う場合には、キャリアメーカーとパケット通信の契約も必要です。

契約時に入手した資料について

プロバイダとの契約後、パソコンからインターネット接続するために以下が記載されている資料を受け取ります。

パソコンにインターネット接続するための設定をする際（296 ページ【ステップ2】）、また、インターネットに接続する際（【ステップ3】313 ページ）に必要となりますので、準備しておいてください。

- ユーザー名
- パスワード
- 接続先の電話番号
- ネームサーバーアドレス※
  - プライマリ DNS サーバー
  - セカンダリ DNS サーバー

※ネームサーバーアドレス（プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー）は、プロバイダによっては指定がない場合もあります。
指定がない場合は特に設定する必要はありません。



ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

準備2：パソコン、本製品、電話機の準備

パソコン、本製品、電話機があればインターネットに接続できます。
ただし、以下の確認を行っておいてください。

チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。
※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。



電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

ステップ 2

インターネット接続編

接続に必要なソフトウェア

ここでは、インターネット接続の方法として以下の２通りを説明します。
【らくらく自動設定】は、Mac OS 付属の[インターネット接続アシスタント]を使用して、インターネット接続を簡単な操作ですませることができます。
【お好み手動設定】は、Mac OS 付属の[TCP/IP]と[PPP]（本書では[リモートアクセス]）を使用して、お好みの設定ができます。

・らくらく自動設定　　→ 次ページ

・お好み手動設定※　　→ 305 ページ

※この手順は、【らくらく自動設定】で設定した内容を確認する操作としても参照できます。

注意

【お好み手動設定】では、以下のソフトウェアが必要となります。
お使いのパソコンにインストールされていることを確認してください。
（通常、Mac OS 8.6 以降には標準でインストールされています。）

- **TCP/IP（インターネットに必要な通信手順）**
- **PPP**
  （電話回線を用いてプロバイダにダイヤルアップ接続するためのソフト。
  代表的なソフトは Mac OS 8.5 以降の標準ソフト[リモートアクセス]。）

らくらく自動設定

ここでは、[インターネット接続アシスタント]を使ったインターネット接続手順について説明します。

1 [インターネット接続アシスタント]を起動します。

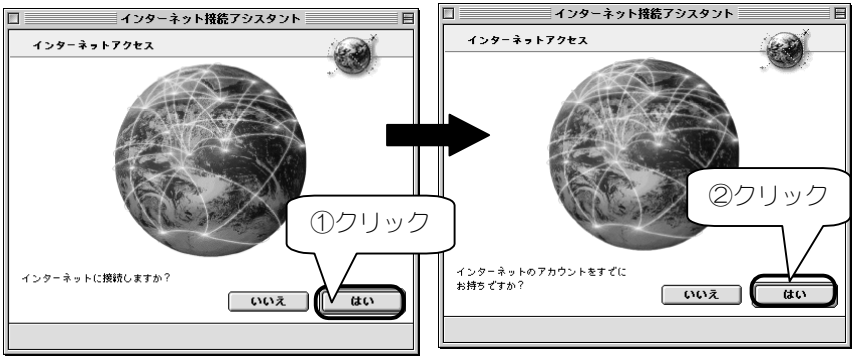
・*Mac OS 8.6/9.0/9.0.4 の場合：*

起動ディスク（例えば Macintosh HD）→[インターネット]フォルダ→[インターネット接続アシスタント]アイコンを順にダブルクリックします。

・*Mac OS 9.1/9.2/9.2.1 の場合：*

起動ディスク（例えばMacintosh HD）→[Applications（Mac OS 9）]フォルダ→[ユーティリティ]フォルダ→[アシスタント]フォルダ→[インターネット接続アシスタント]アイコンを順にダブルクリックします。

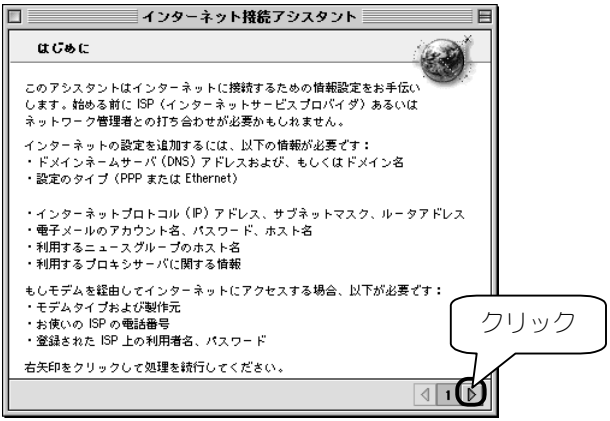
2 [はい]ボタンをクリックして処理を進めます。



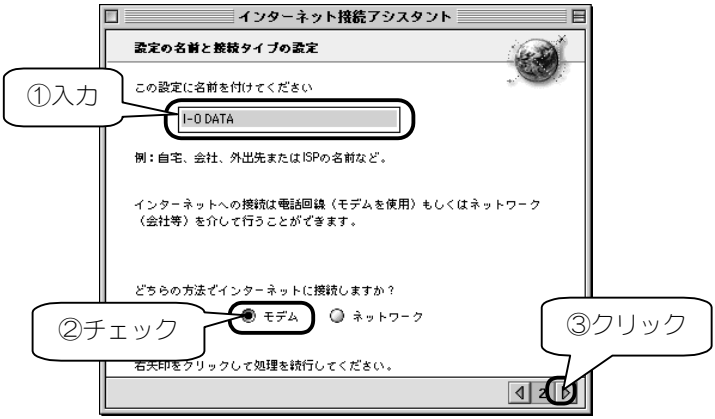
「*情報がないか不適切*」と表示された場合は…

【困ったときには】の 338 ページをご参照ください。

3 内容をよくお読みになり、
画面右下の[►]ボタンをクリックします。

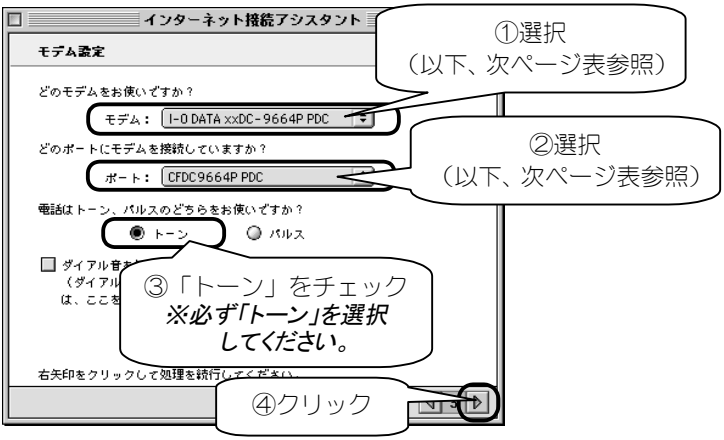


4 以下の各設定を行い、
画面右下の[►]ボタンをクリックします。
①この設定に任意の名前（プロバイダの名前など、お好きな名前）を入力します。
②[モデム]をチェックします。



5 以下の各設定を行い、
画面右下の[▶]ボタンをクリックします。

①[モデム]:　以下および次ページの表を参照して選択します。
②[ポート]:　以下および次ページの表を参照して選択します。
③[電話は…]は、[トーン]をチェックします。



・*CFDC-9664Pをお使いの場合*

お使いの電話機	[モデム]欄の選択	[ポート]欄の選択
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機	I-O DATA xxDC-9664P PDC	CFDC9664P PDC
	I-O DATA xxDC-9664P DoccimoPHS *(ドッチーモで PHS 通信を行う場合のみ)*	
PHS(NTT ドコモ、アステル)	I-O DATA xxDC-9664P PHS	CFDC9664P PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)	I-O DATA xxDC-9664P H	CFDC9664P H

・PCDC-9664Pをお使いの場合

お使いの電話機	[モデム]欄の選択	[ポート]欄の選択
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機	I-O DATA xxDC-9664P PDC	PCDC9664P PDC
	I-O DATA xxDC-9664P DoccimoPHS (ドッチーモで PHS 通信を行う場合のみ)	
PHS(NTT ドコモ、アステル)	I-O DATA xxDC-9664P PHS	PCDC9664P PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)	I-O DATA xxDC-9664P H	PCDC9664P H

[モデム]に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されない場合は…

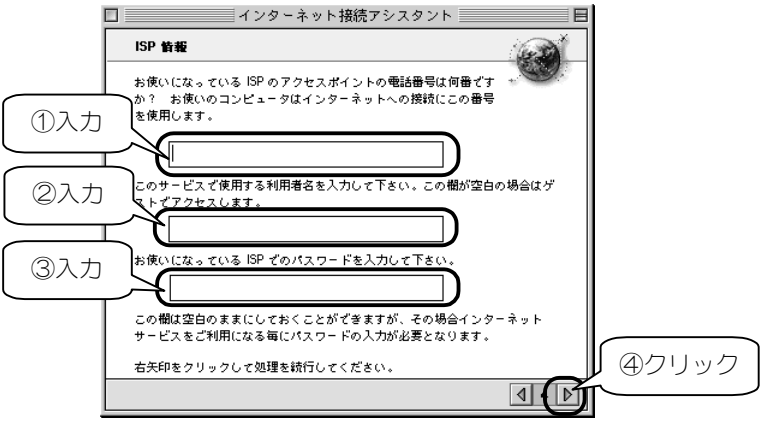
【困ったときには】の 339 ページをご参照ください。

[ポート]に[xxDC9664P xxx]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 340 ページをご参照ください。

6 以下の各設定を行い、画面右下の[►]ボタンをクリックします。

①アクセスポイントの電話番号を市外局番から入力します。
②ユーザー名を入力します。
③パスワードを入力します。



注意

・アクセスポイントの電話番号等、入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
・お使いのアクセスポイントによって追加設定が必要な場合があります。
次ページの表を参照して追加設定してください。
次ページの追加は後から行うこともできます。(316 ページ参照)
・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
(全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。)

●通信方式に応じた追加設定について

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
次ページ以降を参照して追加設定してください。

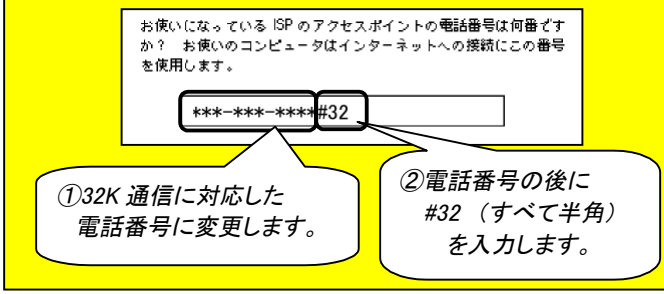
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント（電話番号）も異なる（別になっている）場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の電話番号入力欄にお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】（すべて半角）**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例）上記［64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合］の例



7 後は画面の指示にしたがい適切な内容を設定してから、
画面右下の[▶]ボタンをクリックして、処理を進めてください。

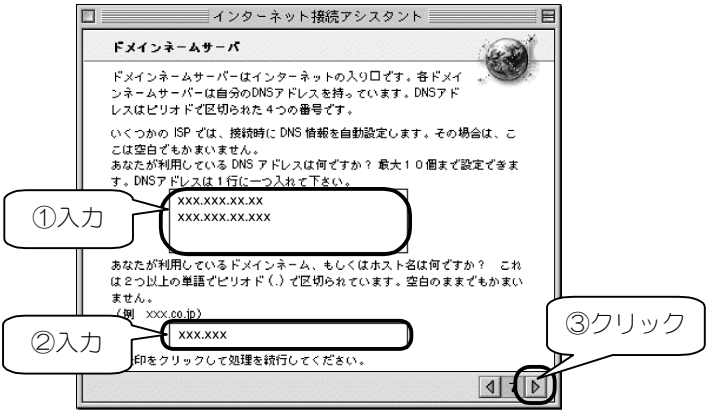
注意

入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は
→[ドメインネームサーバ]画面が表示されたら、以下の各設定を行います。

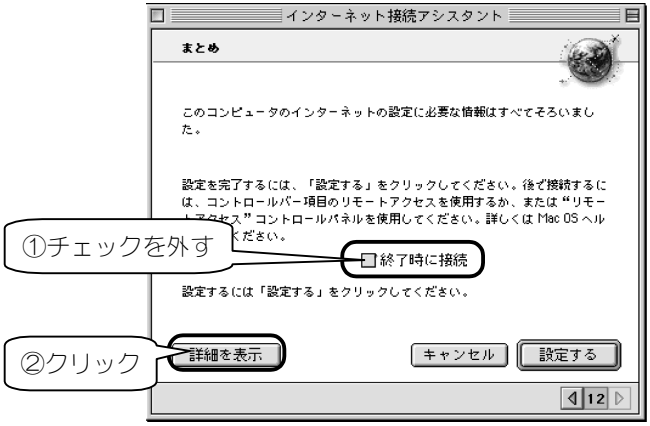
①[DNS アドレス]欄には、ネームサーバーアドレス(プライマリ DNS、セカンダリ DNS)を改行して(2 行になるように)入力します。

②[ドメインネーム、またはホスト名]欄には、ご契約のプロバイダのドメインネームまたはホスト名を入力します。



③画面右下の[▶]ボタンをクリックして処理を進めてください。

8 [終了時に接続]のチェックを外して、
[詳細を表示]ボタンをクリックします。



9 設定した内容を確認後、[設定する]ボタンをクリックします。
内容を修正したい場合は、画面右下の[◀]ボタンをクリックして、
必要な設定画面に戻り、内容を修正してください。



注意 **[ISP 電話番号]欄の「***-***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。**

以上でインターネット接続の準備は完了しました。
313 ページ【インターネットを楽しもう】へお進みください。

お好み手動設定

ここでは、[インターネット接続アシスタント]を使用せず、[TCP/IP]と[PPP]（本書では[リモートアクセス]）を使用した場合のインターネット接続手順について説明します。

※この手順は、[インターネット接続アシスタント]で設定した内容を確認する操作としても参照できます。

注意

【お好み手動設定】では、以下のソフトウェアが必要となります。
お使いのパソコンにインストールされていることを確認してください。

- **TCP/IP（インターネットに必要な通信手順）**
- **PPP**
  （電話回線を用いてプロバイダにダイヤルアップ接続するためのソフト。
  代表的なソフトは Mac OS 8.5 以降の標準ソフト[リモートアクセス]。）

■ [TCP/IP]の設定■

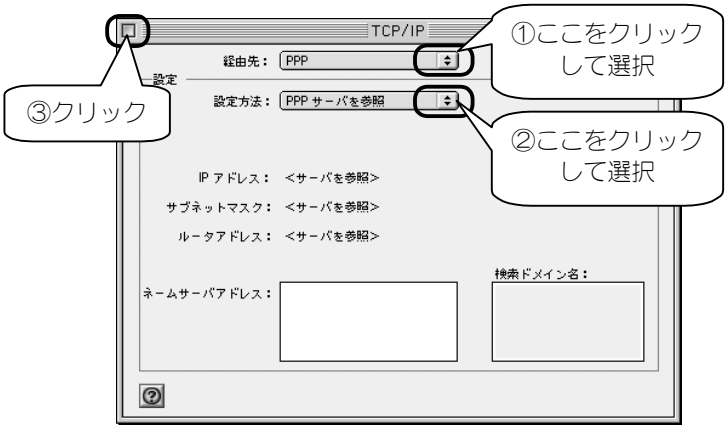
1 アップルメニュー→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を順にクリックします。

2 以下の各設定を行い、画面左上の ボタンをクリックして画面を閉じます※。

①[経由先]:[PPP]を選択します。

②[設定方法]:[PPP サーバを参照]を選択します。

※この際、「保存しますか?」と聞いてきますので、[保存]ボタンをクリックします。



プロバイダからネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を案内されている場合は
→[TCP/IP]画面で、さらに以下の各設定を行います。

①[ネームサーバアドレス]欄には、ネームサーバーアドレス(プライマリDNS、セカンダリDNS)を改行して(2行になるように)入力します。

②[検索ドメイン名]欄には、ご契約のプロバイダのドメインネームまたはホスト名を入力します。

注意

入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

以上で[TCP/IP]の設定は終わりです。
引き続き、次ページの【PPP の設定】へ進んでください。

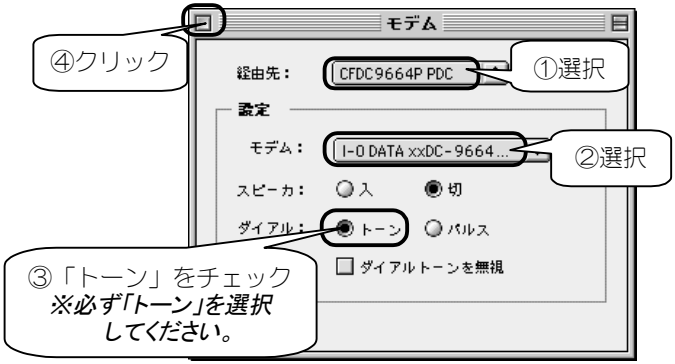
■ [PPP]の設定■

ここでは[PPP]として、[リモートアクセス]を使用する場合の手順を説明します。

1 アップルメニュー→[コントロールパネル]→[モデム]を順にクリックします。

2 以下の各設定を行い、画面左上の ボタンをクリックして画面を閉じます。

①[経由先]:　以下および次ページの表を参照して選択します。
②[モデム]:　以下および次ページの表を参照して選択します。
③[ダイアル:]は、[トーン]をチェックします。



・CFDC-9664Pをお使いの場合

お使いの電話機	[経由先]欄の選択	[モデム]欄の選択
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機	CFDC9664P PDC	I-O DATA xxDC-9664P PDC ・ドッチーモで PHS 通信を行う場合のみ I-O DATA xxDC-9664P DoccimoPHS
PHS(NTT ドコモ、アステル)	CFDC9664P PHS	I-O DATA xxDC-9664P PHS
H"&α-DATA32 対応電話機(DDI ポケット)	CFDC9664P H	I-O DATA xxDC-9664P H

・PCDC-9664Pをお使いの場合

お使いの電話機	[経由先]欄の選択	[モデム]欄の選択
PDC 方式の電話機、ドッチーモ、ドコモパケットデータ通信サービス対応電話機	PCDC9664P PDC	I-O DATA xxDC-9664P PDC ・ドッチーモで PHS 通信を行う場合のみ I-O DATA xxDC-9664P DoccimoPHS
PHS（NTT ドコモ、アステル）	PCDC9664P PHS	I-O DATA xxDC-9664P PHS
H"&α-DATA32 対応電話機（DDI ポケット）	PCDC9664P H	I-O DATA xxDC-9664P H

[経由先]に[xxDC9664P xxx]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 340 ページをご参照ください。

[モデム]に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されない場合は…

【困ったときには】の 339 ページをご参照ください。

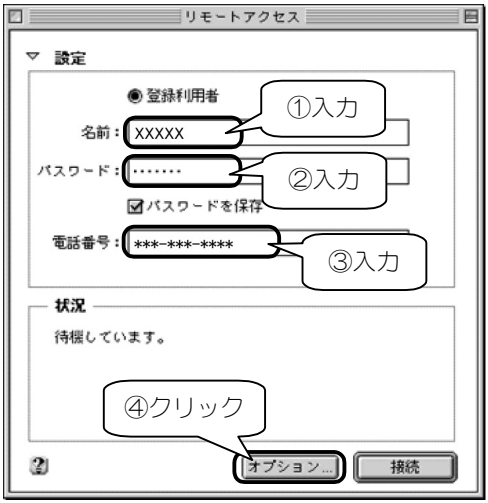
3 アップルメニュー→[コントロールパネル]→[リモートアクセス]を順にクリックします。

4 以下の各設定を行い、[オプション]ボタンをクリックします。

①[名前]:ご契約のプロバイダから案内されたユーザー名を入力します。

②[パスワード]:ご契約のプロバイダから案内されたパスワードを入力します。

③[電話番号]:アクセスポイントの電話番号を市外局番から入力します。



注意

・アクセスポイントの電話番号等、入力内容がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

・お使いのアクセスポイントによって追加設定が必要な場合があります。次ページの表を参照して追加設定してください。
次ページの追加は後から行うこともできます。(316 ページ参照)

・PHS、H"端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。

・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
(全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。)

●通信方式に応じた追加設定について

本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
以下を参照して追加設定してください。

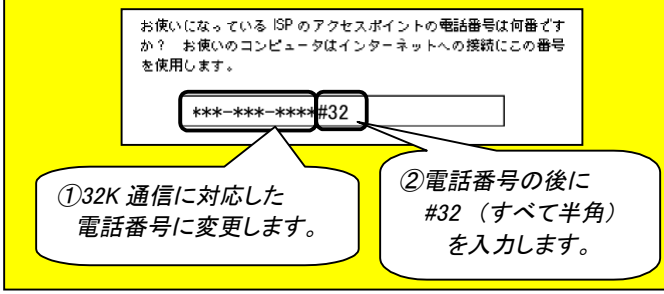
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント（電話番号）も異なる（別になっている）場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

通信方式に応じた設定は、前ページ画面の電話番号入力欄にお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の【追加する文字】（すべて半角）を追加すれば設定できます。

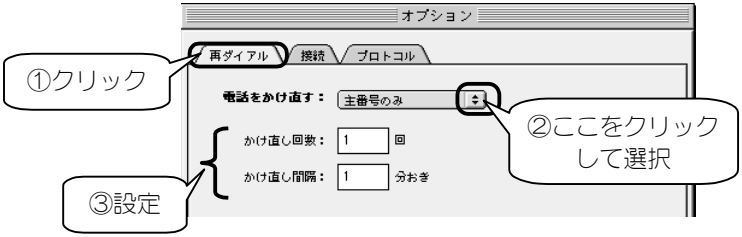
	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例）上記［64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合］の例



5 [再ダイヤル]タブをクリックして、以下の各設定を行います。

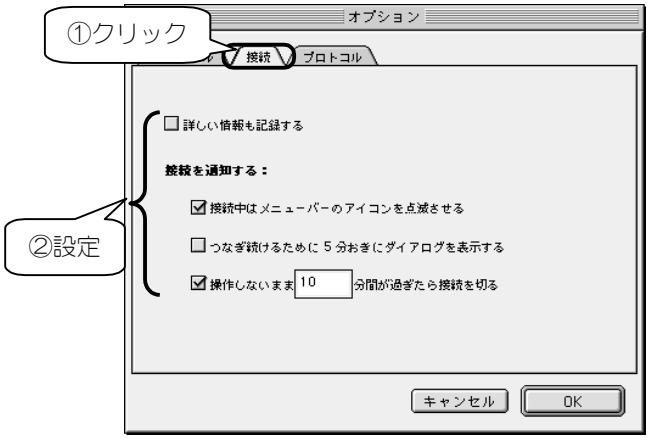
・[電話をかけ直す]:[主番号のみ]を選択します。
・[かけ直し回数]:任意の回数を設定します。
・[かけ直し間隔]:任意の時間を設定します。



※OSによっては画面が違います。

6 [接続]タブをクリックして、以下の各設定を行います。

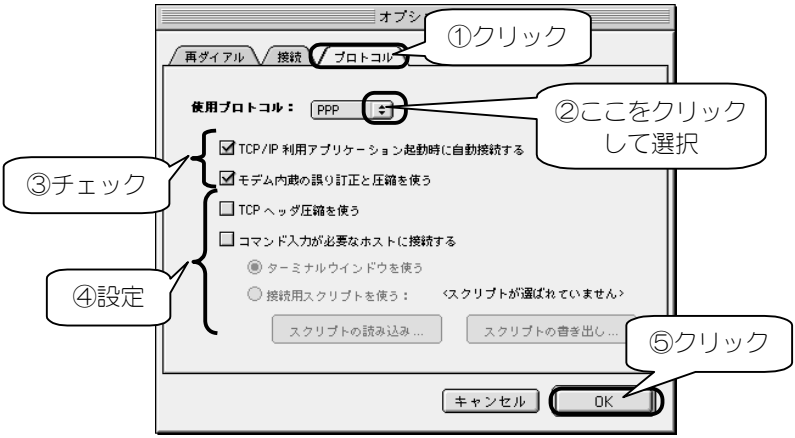
・[詳しい情報も記録する]:通常はチェックしません
・[接続中はメニューバーのアイコンを点滅させる]:接続時、アップルメニューのりんごマークが点滅するように設定します。
・[つなぎ続けるために 5 分おきにダイアログを表示する]:通常はチェックしません。
・[操作しないまま□分間が過ぎたら接続を切る]:任意の時間を設定します。



※OSによっては画面が違いますが、同様に設定してください。

7 [プロトコル]タブをクリックして、以下の各設定を行います。
設定後、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。

・[使用プロトコル]:[PPP]を選択します。
・[TCP/IP 利用アプリケーション起動時に自動接続する]:チェックします。
（オートダイヤルの設定です。）
・[モデム内蔵の誤り訂正と圧縮を使う]:チェックします。
・[TCPヘッダ圧縮を使う][コマンド入力が必要なホストに接続する]:ご契約のプロバイダにご確認ください。



※OSによっては[使用プロトコル]が表示されない場合があります。

以上で、インターネット接続の準備は完了しました。
次ページの【インターネットを楽しもう】を参照して、さっそくインターネットに接続しましょう。

ステップ 3

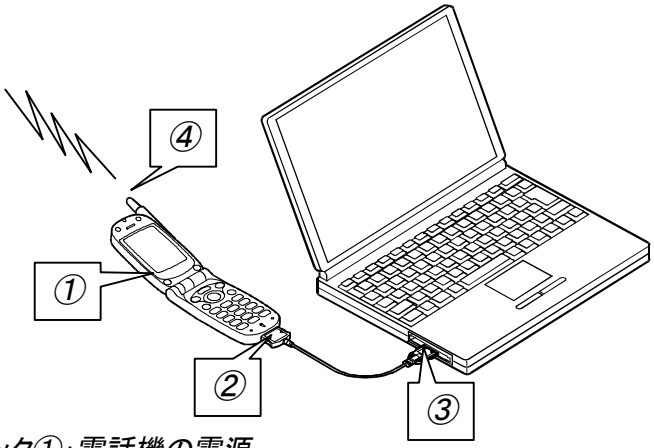
インターネット接続編

インターネットを楽しもう

ここまでの設定がすべて終了すれば、いよいよインターネットへの接続です。

接続する際のチェック項目

インターネットに接続する際は、電話機を操作する必要は特にありませんが、毎回以下を確認してから、本製品をパソコンに取り付け、インターネットに接続してください。



チェック①：電話機の電源

電話機の電源が入っていることを確認してください。

チェック②：電話機とケーブルの接続

電話機に添付のケーブルが接続されていることを確認してください。

チェック③：ケーブルと本製品の接続

添付のケーブルと本製品が接続されていることを確認してください。

チェック④：電話機の電波の状態

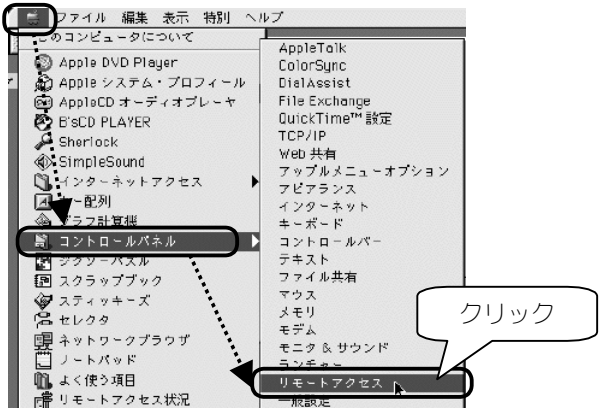
電話機の電波の状態が良好なことを確認してください。

※電話機でその場から正常に通話できることを確認しておいてください。

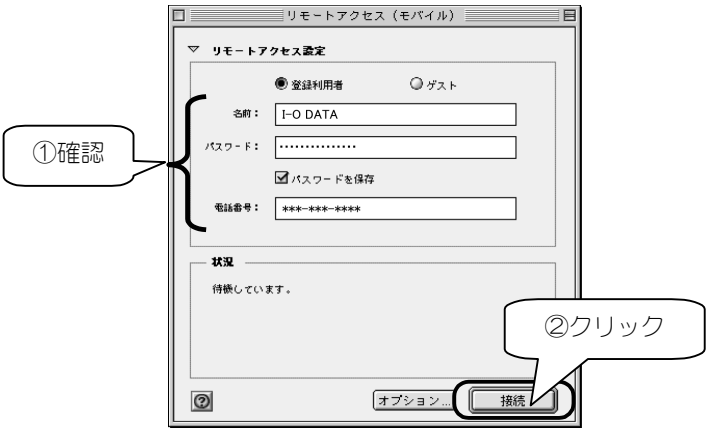
注意

電話機の電波が弱い場合は、正常にインターネットなどに接続できなかったり、通信中に切れる場合があります。アンテナレベルが最高になっていることを、電話機の液晶画面などで確認してから、インターネットなどに接続してください。

1 アップルメニュー→[コントロールパネル]→[リモートアクセス]をクリックします。



2 内容を確認して、[接続]ボタンをクリックします。



注意

・[電話番号]欄の「*-***-****」には、ご契約のプロバイダや接続先の電話番号が市外局番から表示されていることを確認してください。**
・ご契約のプロバイダおよびご契約内容にて、携帯や PHS からの接続が可能かどうかご確認ください。
（全国共通アクセスポイントやフリーダイヤル 0120 などでは、携帯および PHS からの接続ができない場合があります。詳しくはプロバイダにご確認ください。）

3 [状況]欄に以下のように表示されたら、接続完了です。

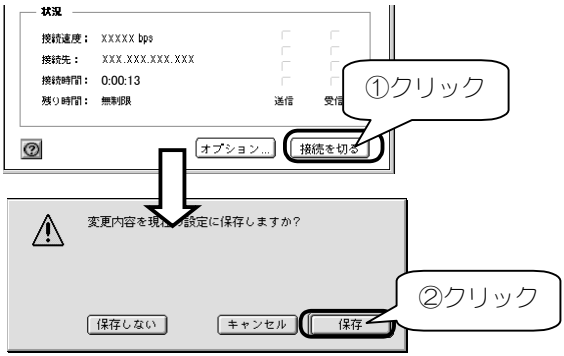


[状況]欄に「*この電話番号は話し中です*」と表示される場合は…

【困ったときには】の 337 ページをご参照ください。

4 ブラウザや電子メールを開いて、
インターネットをお楽しみください。

5 インターネットご利用後、[接続を切る]ボタンをクリックします。
これで電話機の通話が切断され、通信が終了します。



注意

・上記画面の変更内容とは、前ページ2 の手順の内容です。接続先の電話番号やユーザー名（名前）、パスワードなどを変更してから接続した場合は[保存]ボタンをクリックしてください。次回からその内容が最初に表示されます。
・ブラウザや電子メールを終わっただけでは電話回線は切断されません。必ず[接続を切る]ボタンをクリックしてください。電話機を確認して、通話が終わっていること、また、[状況]欄が[待機しています]となっていることを必ずご確認ください。
・電話機の通話だけを切ってもパソコン側の通信は終了しません。必ずパソコン側で切断してください。

インターネットをご体験いただけましたか。
これからも、本製品でインターネットをお楽しみください。

ステップ 4

インターネット接続編

通信方式を変更する場合

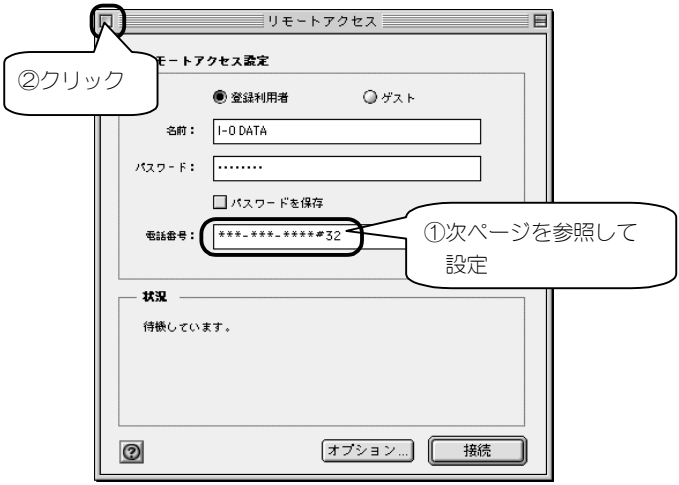
本製品を以下でご利用の場合は、追加設定が必要です。
以下を参照して追加設定してください。

64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合 ※*ドッチーモの PHS 通信で PIAFS 32K 通信を行う場合も含みます。*
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合
パケット通信対応電話機でパケット通信を行う場合

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント(電話番号)も異なる(別になっている)場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[リモートアクセス]をクリックします。

2 [リモートアクセス]画面の[電話番号]欄を次ページを参照して設定後、画面左上のチェックボックスをクリックします。



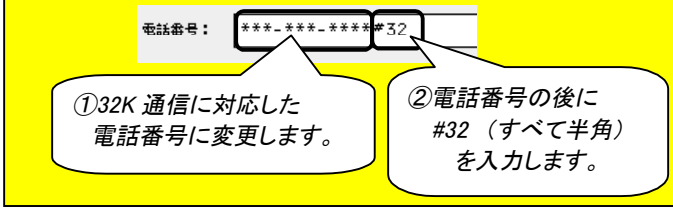
(上記の画面は 64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信する場合の設定例)

●通信方式に応じた設定

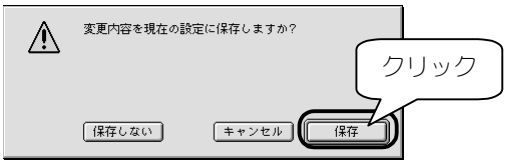
通信方式に応じた設定は、前ページ画面の［電話番号：］欄をお使いの通信方式に応じた電話番号に変更後、さらに電話番号の末尾に以下の**【追加する文字】(すべて半角)**を追加すれば設定できます。

	追加する文字
64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	#32
64K 対応 H″で PIAFS 32K 通信を行う場合　→	##3
パケット通信対応携帯電話でパケット通信を行う場合　→	#28

入力例）上記[64K 対応 PHS で PIAFS 32K 通信を行う場合]の例



3　以下の画面が表示されますので、
[保存]ボタンをクリックします。



以上で、変更は終了です。

MEMO

付録1

困ったときには

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

困ったときには（もくじ）

・インストール時のトラブル

状態	参照頁
本製品を接続してもインストール画面（Windows 2000 の場合は［標準 PCMCIA カードモデム］）が表示されない	321
ケーブルが電話機の接続コネクタに入らない	323
［*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*］と表示された	
［*指定の場所にはお使いのハードウェアに関する情報がありません*］と表示された	
デバイスマネージャの［モデム］の確認で、［I-O DATA xxDC-9664P xxx］が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）	324
端末速度設定時に［電話とモデムのプロパティ］（または［モデムのプロパティ］）に、［I-O DATA xxDC-9664P xxx］が表示されない	325
端末速度設定時に［詳細情報］（または［詳細］）ボタンをクリックしたとき、「*ポートが開けません*」または［*ポートが開かれています*］と表示されたり、応答がない（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）	

・インターネット接続時のトラブル（Windows 編）

状態	参照頁
[回線が使用中です]と表示された	328
[発信音が聞こえません]と表示された	
[ダイヤル先のコンピュータが応答しません]と表示された	329
[ダイヤル先のコンピュータから切断されました]と表示された	330
接続動作はするようだが、[ダイヤルアップ接続モニタ]や[接続インジケータ]が表示されない	
[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない（Windows Me/98/95）	332
[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない（Windows Me/98/95）	334

・インターネット接続時のトラブル（Mac OS 編）

状態	参照頁
[状況]欄に[この電話番号は話し中です]と表示された	337
[利用者として認証されませんでした]と表示された	
[お使いのモデムが正しく応答しません]と表示された	338
[情報がないか不適切]と表示された	
[搬送波が検出されませんでした]と表示された	339
[モデム]欄に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]と表示されない	
[ポート]（[経由先]）欄に[xxDC9664P xxx]と表示されない	340
接続を実行しても、電話機の反応がすぐ消えてしまい通信できない	

・その他のトラブル

状態	参照頁
通信ソフトが起動できない	341
AT コマンドを使用して通信できない	

インストール時のトラブル

本製品を接続してもインストール画面(Windows 2000 の場合は[標準 PCMCIA カードモデム])が表示されない

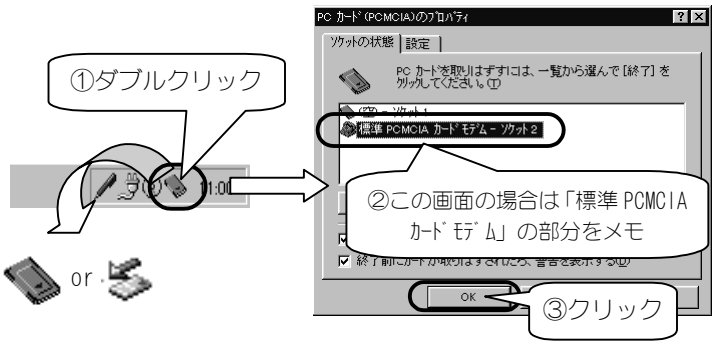
原因1	本製品がパソコンに正しく取り付けられていない。
対処	パソコンの PC カードスロットに最後まできちんと挿入し、専用ケーブルが装着されていることを確認してください。またカードの裏表も確認してください。

原因2	PC カードドライバが 32 ビットになっていない。 (Windows 98/95)
対処	【パソコンの PC カードドライバを確認する】(175 ページ)を参照して、32 ビットカードドライバをインストールしてください。

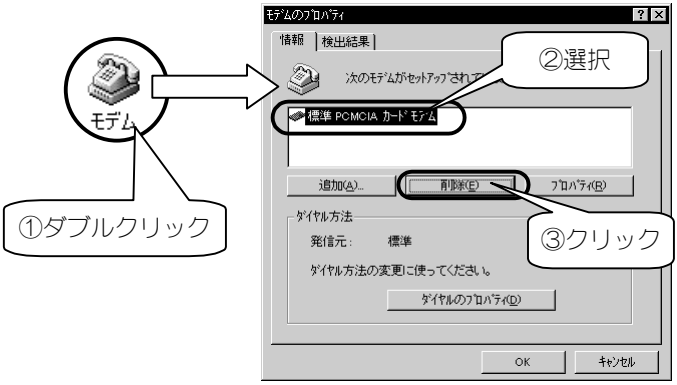
原因3	すでにインストール済みである。
対処	サポートソフトを1度インストールすると、PC カードスロットに差し込んでも、インストール画面は表示されません。本製品を PC カードスロットに差し込むだけで取り付け準備完了となります。

原因4	すでに何らかの形でインストールされ、誤認識されている。
対処	本製品を差し込んだ状態で、以下の手順でドライバを削除後、もう 1 度、インストールをやり直してください。

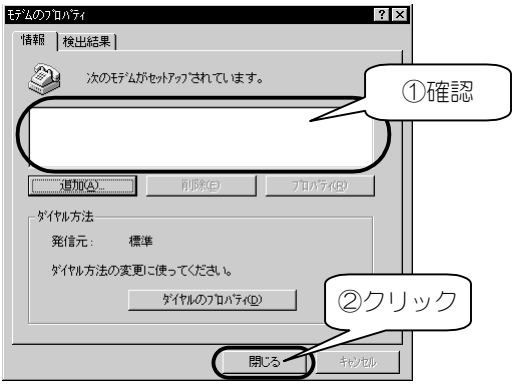
1 画面右下のタスクトレイに表示されている [PC カード]アイコンをダブルクリックします。挿入した PC カードスロットに表示されるモデム名の名称をメモした後、[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。



2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル](Windows XPは[スタート]→[コントロールパネル])を開き、[電話とモデムのオプション]または[モデム]アイコンをダブルクリックします。
1の手順でメモしたモデムを選択して、[削除]ボタンをクリックします。



3 指定したモデムが削除されます。
指定したモデムが消えたことを確認し、[閉じる]ボタンをクリックして画面を閉じます。



4 念のため、各OSの【パソコンから取り出す場合】を参照し、ソケットの状態に何も表示されていないことを確認してください。

5 確認後、本製品を PC カードスロットから取り出し、再度、挿入するとインストールが始まりますので、もう1度、インストールを行ってください。

ケーブルが電話機の接続コネクタに入らない

原因1	電話機の接続コネクタにカバーがかかっている。
対処	接続コネクタにはカバーがかかっている場合があります。カバーを開けてから差し込んでください。カバーの開け方は、電話機の取扱説明書を参照してください。

原因2	本製品のコネクタの向きが正しくない。
対処	コネクタの向きを変えて、もう1度差し込んでください。向きが一致していれば、コネクタを差し込むのに大きな力を加える必要はありません。

原因3	電話機の接続コネクタが違う。
対処	接続コネクタの位置は、電話機の取扱説明書を参照してください。

「*このデバイス用のドライバが見つかりませんでした*」と表示された

原因	検索場所の指定が間違っている。
対処	[戻る]ボタンを押して、「_DC-9664P サポートソフト」CD-ROM が CD-ROM ドライブにセットされているか確認して、もう一度、検索場所の指定を行ってください。

「*指定の場所にはお使いのハードウェアに関する情報がありません*」と表示された

原因	挿入した CD-ROM ディスクまたは指定したフォルダが間違っている。
対処	挿入した CD-ROM ディスクが「_DC-9664P サポートソフト」CD-ROM であることを確認してください。また、[マイコンピュータ]を開くなどしてお使いのパソコンの CD-ROM ドライブが何ドライブ（例えば D ドライブ）かを確認してください。その後、[参照]ボタンをクリックして、CD-ROM ドライブの「WIN98」フォルダ（Windows 98 の場合）を指定してください。

[デバイスマネージャ]の[モデム]の確認で、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されない、または、先頭に「！」マークが付いている

（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）

原因1	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】(348 ページ)を参照し、いったん、サポートソフトを削除してください。その後で、インストールをもう1度やり直してください。

原因2	本製品がパソコンに正しく接続されていない。
対処	パソコンのPCカードスロットに最後まできちんと挿入し、専用ケーブルが装着されていることを確認してください。 また画面右下のタスクトレイに[PC カード]アイコンが表示されます。

原因3	ドライバが誤認識されている。
対処	321 ページの【本製品を接続してもインストール画面…・】の項の「すでに何らかの形でインストールされ、誤認識されている」欄をご参照になり、ドライバを削除してから、もう一度、インストールしてください。

原因4	うまく自動認識が行われなかった
対処	本製品をPCカードスロットに挿入したまま、Windows を再起動してみてください。

端末速度設定時に、[電話とモデムのオプション]（または[モデムのプロパティ]）画面に、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が表示されない

原因	正しくインストールされていない。
対処	・【インストールしたソフトを削除するには】（348 ページ）を参照し、いったん、サポートソフトを削除してください。その後で、インストールをもう1度やり直してください。 ・Windows NT 4.0 の場合は、【インストールする】の 236 ページの注意を参照してください。

端末速度設定時に[詳細情報]（または[詳細]）ボタンをクリックしたとき、、[*ポートが開けません*]または[*ポートが開かれています*]と表示される。

（Windows XP、Windows 2000、Windows Me/98/95）

原因1	パソコンの PC カードスロットにきちんと挿入されていない。
対処	パソコンのPCカードスロットに最後まできちんと挿入し、専用ケーブルが装着されていることを確認してください。 また画面右下のタスクバーに[PC カード]アイコンが表示されます。

原因2	リソースが競合している（内蔵モデムが使用しているポートと競合している場合もあります）。
対処	本製品をPCカードスロットに差し込んだ状態で、次ページの【■*確認手順*】の手順を行って、リソースを変更してみてください。 変更が終わったら、もう一度、インストール終了後の確認を行ってください。

■確認手順

1 各 OS の【インストールは正常ですか？】の個所を参照し、[デバイスマネージャ]画面、または、[システムのプロパティ]画面の[デバイスマネージャ]タブを開きます。

2 [ポート(COM/LPT)]をダブルクリックし、[COMx](例 COM1、COM2 など)と表示されているものがある場合は、その番号をメモします。

3 [モデム]をダブルクリックし、本製品以外のモデムが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、そのモデムをダブルクリックし、[モデム]タブをクリックして、COM 番号(例 COM1、COM2 など)をメモし、[キャンセル]ボタンをクリックして画面を閉じます。

4 [モデム]に表示されている[I-O DATA xxDC-9664P xxx]をダブルクリックし、[リソース]タブをクリックして、[I-O の範囲]を確認します。

5 以下の表を参考にして、現在、存在しない COM 番号に対応する[I-O の範囲]をメモします。次の「■変更の詳細手順」を行って、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]の[I-O の範囲]を、メモした値に変更してください。

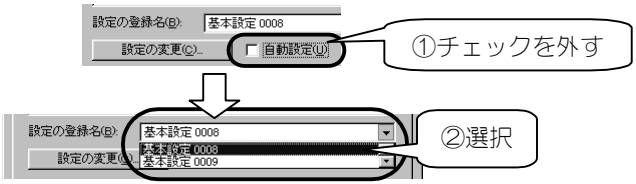
COM 番号と使用している[I-O の範囲]

COM 番号	I-O の範囲
COM1	03F8～03FF
COM2	02F8～02FF
COM3	03E8～03EF
COM4	02E8～02EF

例）手順２で「通信ポート（COM1）」があり、手順３で「内蔵モデム（COM2）」が使用されていた場合、[I-O DATA xxDC-9664P xxx]の[I-O の範囲]は、COM3 か COM4 の値にします。

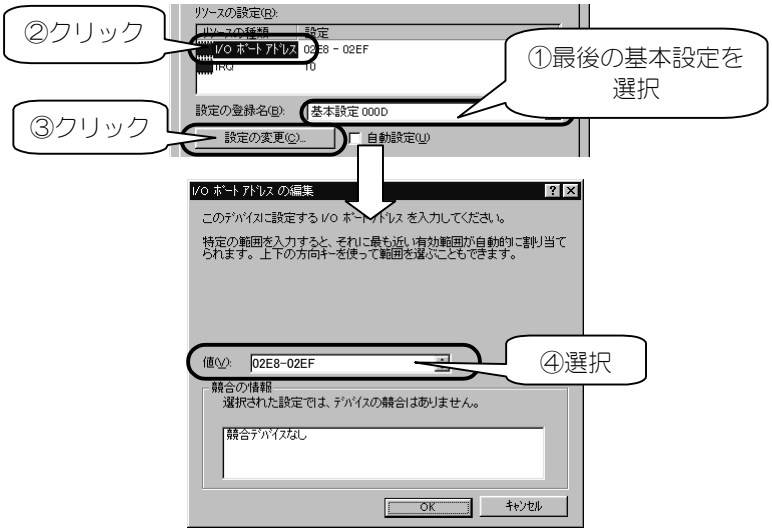
■変更の詳細手順

1 [自動設定]のチェックを外してから、[設定の登録名]の中から、[I-Oの範囲]が5の手順でメモした値になる基本設定を探します。(割り込みは変更不要ですが、4以外で競合するデバイスがない値なら変更可能)
競合しない値が見つかったときは、手順3へ進みます。



2 競合しない基本設定が見つからなかった場合

1. 基本設定を最後の選択肢にします。
2. [I/O ポートアドレス]をクリックします。
3. [設定の変更]ボタンをクリックします。
4. 値の編集画面になるので、変更したい値にします。



3 [OK]ボタンをクリックしながら、順番に画面を閉じて行きます。リソースが手動で変更されているメッセージが表示されるので[はい]ボタンをクリックして続行します。再起動が要求されたら、再起動してください。
変更が終わったら、もう1度、各 OS の【インストールは正常ですか？】の項を参照して、正常に詳細情報が出るかを確認してください。

インターネット接続時のトラブル（Windows 編）

[回線が使用中です]と表示された

原因	接続先のアクセスポイントが混雑している。
対処	[OK]ボタンをクリックし、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンをクリックします。 時間をおいてもう1度接続するか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を設定してください。

[発信音が聞こえません]と表示された

原因1	電話機の電源が入っていない。
対処	[OK]ボタンをクリックし、電話機の電源を入れてからもう1度接続してください。

原因2	電話機の接続コネクタに、本製品が正しく接続されていない。
対処	[OK]ボタンをクリックし、電話機の接続コネクタをきちんと差し込んでから（カチッと音がするまで）もう1度接続してください。

原因3	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】(348 ページ)を実行し、いったんサポートソフトを削除します。 その後、各 OS の【インストールする】の個所を参照して、インストールをやり直してください。

原因4	モデムの設定で、本製品が選択されていない。
対処	各 OS の【設定を変更するとき】の個所（Windows XP は 54 ページ、Windows 2000 は 108 ページ、Windows Me は 157 ページ、Windows 98/95 は217ページ）を参照して、接続アイコンのプロパティ画面で[接続の方法]欄で[I-O DATA xxDC-9664P xxx]を選択してください。

原因5	プッシュトーンが選択されていない。
対処	各 OS の【発信情報を設定する】の個所を参照して、 ダイヤル方式に[トーン]が選択されているか確認してください。

原因6	電話番号が間違っている。
対処	以下を確認してください。 ・電話番号は半角文字で入力されているか ・電話番号がご使用の電話機に対応した電話番号か

[ダイヤル先のコンピュータが応答しません]と表示された

原因1	[ダイヤルのプロパティ]画面で設定した市外局番が「000」になっていない。
対処	[OK]ボタンをクリックし、接続画面が表示されたら、[ダイヤルのプロパティ]ボタン（Windows XP、Windows 2000 は[プロパティ]ボタン）をクリックして、[市外局番]欄を「000」にしてください。

原因2	接続先の電話番号が違っている。
対処	[OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンをクリックします。 接続アイコンを右クリックして、[プロパティ]を選び、正しい電話番号を（市外局番を含めて）確認してください。 ※プロバイダに接続先の電話番号を確認してください。

原因3	接続先のアクセスポイントが混雑している。
対処	[OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。 時間をおいてもう1度接続するか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を設定してください。

原因4	正しくインストールされていない。
対処	【インストールしたソフトを削除するには】(348 ページ)を実行し、 いったんサポートソフトを削除します。 その後、各 OS の【インストールする】の個所を参照して、インストールをやり直してください。

[ダイヤル先のコンピュータから切断されました]と表示された

原因1	接続先の電話番号が違っている。
対処	[OK]ボタンを押し、接続画面が表示されたら、[キャンセル]ボタンを押します。 接続アイコンを右クリックして、[プロパティ]を選び、正しい電話番号を（市外局番を含めて）入力してください。 ※接続先の電話番号が電話機でご利用可能な電話番号かを確認してください。 プロバイダによっては、アナログモデム用と電話機用で電話番号が異なる場合があります。

原因2	パソコンの PC カードスロットにきちんと挿入されていない。
対処	パソコンのPCカードスロットに最後まできちんと挿入し、専用ケーブルが装着されていることを確認してください。 また画面右下のタスクバーに[PC カード]アイコンが表示されます。

接続動作はするようだが、[ダイヤルアップ接続モニタ]や[接続インジケータ]が表示されない

原因1	接続先の電話番号が違っている。
対処	接続画面で、正しい電話番号を（市外局番を含めて）確認してください。 ※正しい電話番号は、プロバイダに確認してください。

原因2	NTT ドコモのパケット通信サービスをご利用の場合、指定した電話番号が使いたい通信方式の電話番号ではない。
対処	NTTドコモのパケットデータ通信サービス対応電話機をお使いの場合、本製品は2種類のパケット通信(最大通信速度28.8kbpsと9600bps)に対応しています。 NTT ドコモのパケットデータ通信サービス対応電話機を使って接続する場合は、接続先の電話番号がパケットデータ通信サービス用のアクセスポイントであることを確認してください。

原因3	H“、PHS で 64K 対応の場所（サービスエリア）でない
対処	64K 対応の場所であるかをプロバイダにご確認ください。 64K 対応の場所でない場合は、64K 対応の場所に移動するか、あるいは、本書の各 OS での【通信方式を設定する】あるいは【通信方式を変更する】を参照して、32K に変更してみてください。

原因4	H“、PHS で 64K 対応の電話機でない
対処	64K 対応の電話機であるかは電話機の取扱説明書、あるいは、電話機メーカーにご確認ください。 64K 対応の電話機でない場合は、本書の各 OS での【通信方式を設定する】あるいは【通信方式を変更する】を参照して、32K に変更してみてください。

原因5	H“、PHS で 64K 対応のプロバイダでない
対処	プロバイダが 64K に対応しているかはプロバイダにご確認ください。 64K 対応のプロバイダでない場合は、本書の各 OS での【通信方式を設定する】あるいは【通信方式を変更する】を参照して、32K に変更してみてください。

注意

・PHS、H”端末をご利用の場合、プロバイダが PIAFS 64K に対応しているか、また、ご利用場所が 64K サービスエリアかは、プロバイダにご確認ください。
・電話機が PIAFS 64K に対応しているかは、電話機の取扱説明書、あるいは、電話機器メーカーにご確認ください。

※同じプロバイダであっても、PHS で接続する場合と、電話回線でつないだモデムや TA で接続する場合では、通信方式が違うため、アクセスポイント（電話番号）も異なる（別になっている）場合があります。
※複数のプロバイダに接続する場合にもそれぞれすべてのプロバイダの通信方式を確認しておいてください。

[ダイヤルアップネットワーク]が表示されない（Windows Me/98/95）

原因	ダイヤルアップネットワークがインストールされていない。
対処	以下の手順でダイヤルアップネットワークをインストールします。

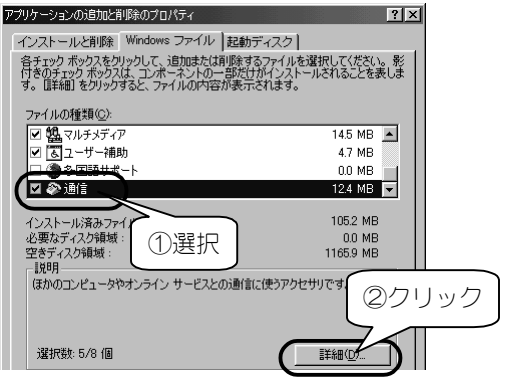
■ダイヤルアップネットワークのインストール手順

1 [アプリケーションの追加と削除]を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]から、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

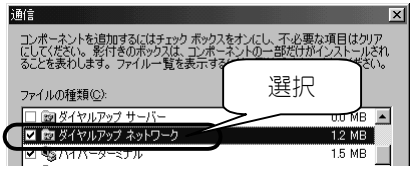
2 [Windowsファイル]タブをクリックします。
表示が切り替わるまでに時間がかかります。しばらくお待ちください。



3 [通信]を選択し、[詳細]ボタンをクリックします。

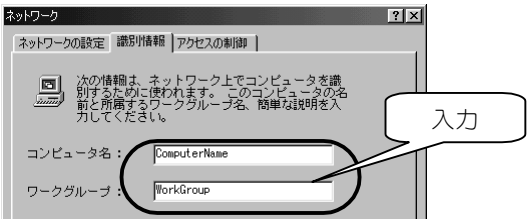


4 [ダイヤルアップネットワーク]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



5 手順*3* の画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。
Windows の CD-ROM を用意し、画面の指示にしたがって処理を進めます。

6 以下の画面になったら、[コンピュータ名]と[ワークグループ]名を入力し、[閉じる]ボタンをクリックします。これらの名称はインターネットを使うときには使用しないので、適当な名称を入力してください（[コンピュータの説明]は省略可）。



7 [OK]ボタンをクリックします。
インストールが終わったら、パソコンを再起動します。
[ケーブル接続]はインターネットを使うときには不要ですので、インストールは行いません。



8 Windows が再起動すると、下記の画面が表示されるので、[キャンセル]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップアダプタ]や[TCP/IP]が表示されない（Windows Me/98/95）

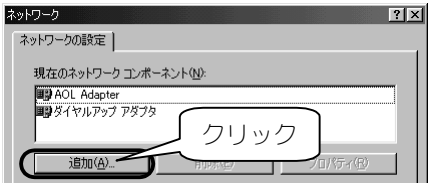
原因	TCP/IP がインストールされていない。
対処	以下の手順で TCP/IP をインストールします。

■[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]の両方の表示が無い場合のインストール手順

以下の手順で[TCP/IP]をインストールすることによって、両方とも（[ダイヤルアップアダプタ]と[TCP/IP]）がインストールされます。

1 [ネットワーク]を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]から、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

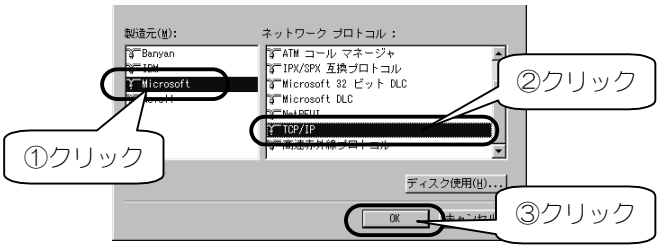
2 [追加]ボタンをクリックします。



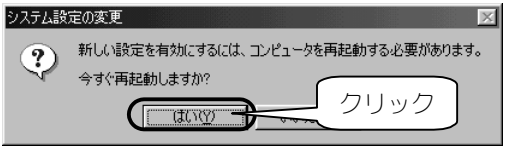
3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。



4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。後は画面の指示にしたがって、処理を進めてください。



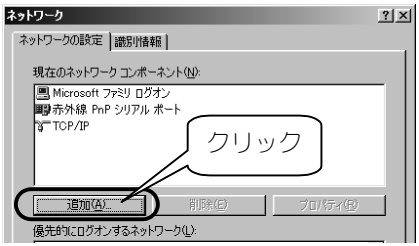
5 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



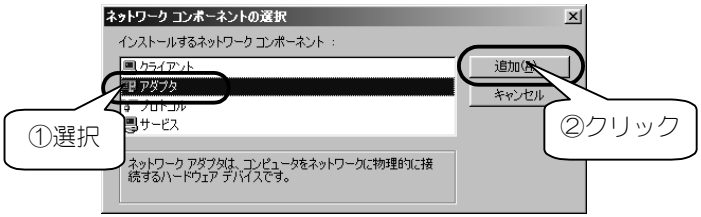
■[ダイヤルアップアダプタ]のみ表示が無い場合のインストール手順

1 [ネットワーク]を起動します。
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]から、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

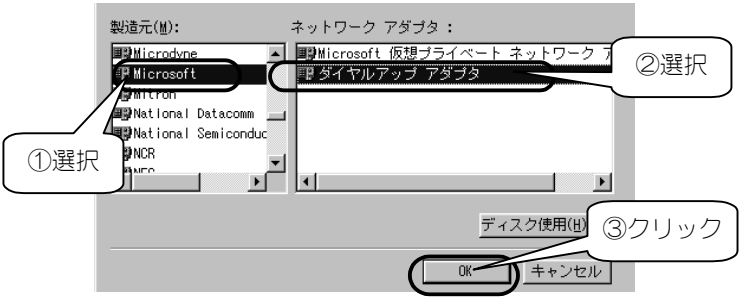
2 [追加]ボタンをクリックします。



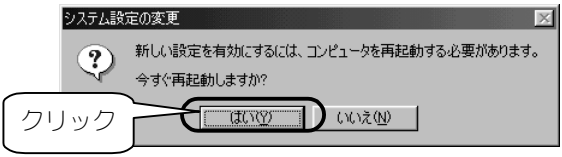
3 [アダプタ]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。



4 [Microsoft]の[ダイヤルアップアダプタ]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。後は画面の指示にしたがって、処理を進めてください。



5 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。



インターネット接続時のトラブル
（Mac OS 編）

状況欄に[*この電話番号は話し中です*]と表示された

原因1	本製品に取り付けた電話機の「通話」ボタンを操作している。
対処	「HOLD」で通話を切り、待ち受け状態にしてから、再度、通信ソフトの[接続]ボタンをクリックしてください。

原因2	接続先の電話番号が違っている。
対処	[OK]ボタンをクリックして、接続画面が表示されたら、正しい電話番号を（市外局番を含めて）確認してください。 ※正しい電話番号は、プロバイダに確認してください。

原因3	ダイヤル方法（トーン）の指定が違っている。
対処	ダイヤル方法が「トーン」になっているか確認してください。 ・インターネット接続アシスタント：299 ページ手順***5*** ・PPP ダイヤラ：307 ページ手順***2***

原因4	接続先のアクセスポイントが混雑している。
対処	時間をおいてから、再度[接続]ボタンをクリックするか、アクセスポイントが複数ある場合は、別のアクセスポイントの電話番号を入力してから[接続]ボタンをクリックしてください。

[*利用者として認証されませんでした*]と表示された

原因	ユーザー名やパスワードが違っている。
対処	[OK]ボタンをクリックしてください。アルファベットの大文字や小文字に注意してユーザー名やパスワードを入力し、[接続]ボタンをクリックしてください。正しく入力してもこの画面が表示されるようなら、プロバイダにユーザー名やパスワードを確認してください。

[お使いのモデムが正しく応答しません]と表示された

原因1	本製品が正しく接続されていない。
対処	[OK]ボタンをクリックしてください。 パソコンの PC カードスロットに最後まできちんと挿入されているか、ケーブルが正しく電話機に接続されているかどうかをご確認ください。 正しく接続後、再度[接続]ボタンをクリックします。

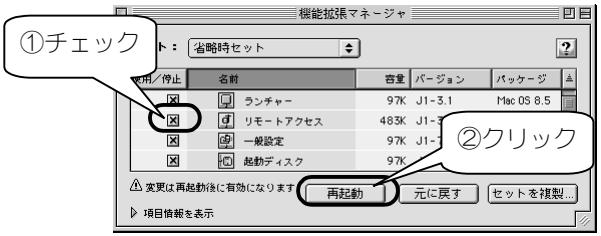
原因2	ダイヤラでの設定が正しく行われていない。
対処	[経由先]や[モデム]の選択が正しく行われているか、確認してください。 （299 ページおよび 307 ページ参照）

「情報がないか不適切」と表示された

原因	接続に必要なソフトウェア「リモートアクセス」がインストールされていない。
対処	画面を閉じると、[本当に終了してよろしいですか]と表示されるので、[終了]ボタンをクリックします。 以下の操作を行って「リモートアクセス」をインストールしてください。

1 アップルメニューから[コントロールパネル]→[機能拡張マネージャ]を開きます。

2 「リモートアクセス」に[×]印をつけて、[再起動]ボタンをクリックします。画面の指示にしたがって、インストールを行ってください。



[搬送波が検出されませんでした]と表示された

原因1	本製品が正しく接続されていない。
対処	[OK]ボタンをクリックしてください。 パソコンの PC カードスロットに最後まできちんと挿入されているか、ケーブルが正しく電話機に接続されているかどうかをご確認ください。 正しく接続後、再度[接続]ボタンをクリックします。

原因2	本製品のケーブルとご利用の電話機との接続に問題がある。
対処	[OK]ボタンをクリックして警告画面を閉じてください。 電話機をいったん取り外し、接続し直してみてください。正しい接続後、再度[接続]ボタンをクリックします。

原因3	接続先の電話番号が違っている。
対処	プロバイダに接続先の電話番号をご確認ください。 一部地域では、64Kサービスをご利用いただけません。 その場合は、32Kに対応した電話番号をご利用ください。

原因4	接続先アクセスポイントが 64K 対応の場合でも、電話機を使用する場所によっては、最寄りの基地局の状況や時間帯により、64K 通信ができない場合がある。
対処	可能であれば、 ・時間帯を変えて接続してみる。 ・場所を移動して接続してみる。 ・32K に対応した電話番号で接続してみる。 以上についてお試しください。 データ通信の場合、電話機のアンテナレベルが最高の状態にて、ご使用ください。

[モデム]欄に[I-O DATA xxDC-9664P xxx]と表示されない

原因	[I-O DATA xxDC-9664P xxx]が[Modem Scripts]にコピーされていない。
対処	[I-O DATA xxDC-9664P xxx]]を[システムフォルダ]の[機能拡張]フォルダ内の[Modem Scripts]にコピーしてください。 【設定ファイルをコピーする】(290 ページ)を参照。

［ポート］（［経由先］）欄に［xxDC9664P xxx ］と表示されない

原因	本製品が正しく接続されていない。
対処	パソコンの PC カードスロットに最後まできちんと挿入されているか、ケーブルが正しく電話機に接続されているかどうかをご確認ください。 ※ケーブルが接続されていないと表示されません。

接続を実行しても、電話機の反応がすぐ消えてしまい通信できない

原因	電話機に設定の切替がある。
対処	電話機に「データ通信ケーブル」に関する設定があれば、設定を［OFF］にしてください。

その他のトラブル

通信ソフトが起動できない

原因	通信ソフトの起動方法などが正しくない。
対処	インターネットへの接続が正しく動作すれば、通信ソフト側の問題が考えられます。通信ソフトの取扱説明書などをご参照ください。

AT コマンドを使用して通信できない

原因	AT コマンドに対するリザルトコードにより、エラー障害の切り分けができます。リザルトコードとは、エコーバックと呼ばれる応答信号のことです。
対処	リザルトコードの種類によって、以下のように、エラーの回復を試みてください。 ATコマンドに関しては、「サポートソフト」CD-ROM内のManual.htmを参照してください。 **※AT コマンドでの操作を行うためには、別途ターミナルソフトをご用意いただく必要があります。(Windows の場合は、次ページ参照)**

1. **ERROR**
   ATコマンドに誤りがあります。マニュアルをよく呼んで、パラメータなどをチェックしてください。
2. **NO CARRIER**
   ダイヤルコマンドを入力した時このエコーが表示された時は、回線が接続されていないか、こちらの呼び出しに対して接続先が応答信号を返さない状態です。先ず、こちらのカードが正しくパソコンのスロットに挿入されているか、ケーブルが正しく接続されているかを確認してみてください。

補足1:ATコマンドによる通信の動作確認

通信できない、あるいはモデムが正常に動作しないなどのトラブルが発生した場合、例えば、以下の手順のようにWindows標準の「ハイパーターミナル」で操作をためすことができます。(以下の画面はWindows Meの例です。)

1 「ハイパーターミナル」を起動します。

・*Windows XP の場合*

[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[通信])→[ハイパーターミナル]を順にクリックします。

・*Windows 2000 および Windows Me/98/95 の場合*

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ハイパーターミナル]を順にクリックします。

・*Windows NT 4.0 の場合*

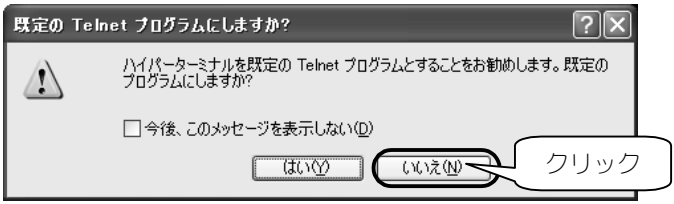
[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[ハイパーターミナル]→[ハイパーターミナル])を順にクリックします。



参考

メニュー内に[ハイパーターミナル]が無い場合は、[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]の[Windows ファイル]タブ(Windows NT 4.0では、[Windows NT セットアップ]タブ)から追加してください。

2 Windows XP の場合は、以下の画面が表示される場合があります。
ここでは[いいえ]ボタンをクリックします。



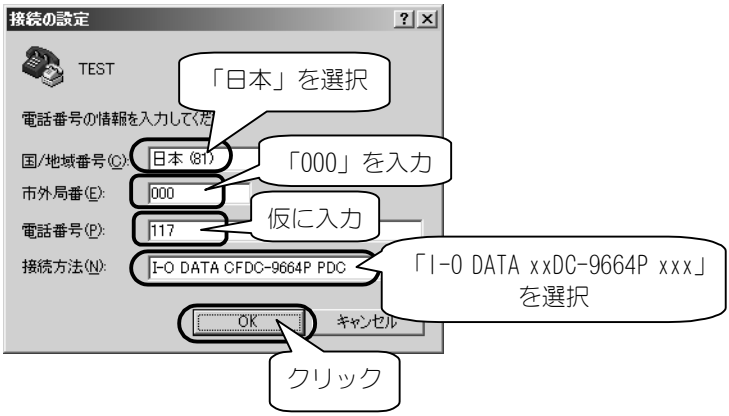
Windows 98/95 の場合は、[HyperTerminal]画面が表示されます。
[Hypertrm]アイコンをダブルクリックします。



3 [名前]に適当な名前(例:TEST)を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



4 以下を設定して[OK]ボタンをクリックします。



5 [キャンセル]ボタンをクリックします。



6 [ハイパーターミナル]画面が表示されます。

7 [ハイパーターミナル]画面内にATコマンドを入力して通信動作を確認することができます。
以下の画面例は、以下の AT コマンドを入力した例です。
※これらの文字は、半角文字で入力する必要があります。

AT ↵
AT&F ↵
AT&W ↵
ATDxxxxxxxxx ↵



付録2
サービス品について

本製品には Lotus Notes 用のモデムファイル（Windows のみ対応）や［DION オンラインサインアップ用 CD-ROM］を添付しています。必要に応じてお使いください。

Lotus Notes でモバイル通信をしたい

（Windows のみ対応）

注意

Lotus Notes の使用方法その他については、弊社ではサポートしておりません。ロータス社にお問い合わせください。

「サポートソフト」CD-ROM に入っている Lotus Notes 用のモデムファイルをご利用ください。利用方法は以下の通りです。

1 Lotus Notes がインストールされているフォルダの notes¥data¥modems フォルダの中にご使用になるモデムコマンドファイルをコピーしてください。

①DC-9664.MDM　（通常）
②DC-9664D.MDM　（ドッチーモ PHS 通信用）

2 次に、Lotus Notes を起動し、以下のような設定を行います。

1. ［ファイル］→［ツール］→［ユーザーリファレンス...］を選択します。
2. ［ポート］をクリックします。
3. 本製品が接続されているポート（例えばCOM3）を選択します。

4. 必要に応じて[ポートを有効にする]をチェックしてポートを使用可能にします。
5. [ポートオプション]をクリックします。
   ポートは、接続されているポート名です。例えば、[COM3オプション]となります。
6. モデムの種類を選択します。
   通常は　「I-O DATA xxDC-9664P」を選択
   以下の場合のみモデムの種類を個別対応に変更してください。
   ・ドッチーモをPHSモードで利用する場合
   I-O DATA xxDC-9664P (DoccimoPHS)
   ・64K対応PHSで32K通信を行う場合
   電話番号の末尾に"#32"を付加
   ・64K対応H"で32K通信を行う場合
   電話番号の末尾に"##3"を付加
7. 追加するモデム設定があれば追加します。特になければ省略しても結構です。
8. [OK]ボタンをクリックします。
9. [OK]ボタンをクリックして、[ユーザーリファレンス]画面を閉じます。

※Lotus Notes についてはロータス社にお問い合わせください。

今すぐインターネットを始めたい＜DIONオンラインサインアップ＞

今すぐインターネットを始めようという方のために、オンラインで簡単にプロバイダ契約ができる「DION オンラインサインアップ用 CD-ROM」をご用意しました。



参考

対応 OS など詳細は、「DION オンラインサインアップ用 CD-ROM」をご覧ください。

付録3

インストールしたソフトを削除するには

本製品のサポートソフトのインストールをもう１度やり直すときは、インストールした「サポートソフト」を削除（アンインストール）してから行う必要があります。
ここでは、その削除方法（アンインストール方法）について説明します。

削除方法は使用しているOSによって異なりますので、以下の使用しているOSのページを参照ください。

Windows XP で削除する場合
→【Windows XP での削除】（次ページ）～
Windows 2000 で削除する場合
→【Windows 2000 での削除】（353 ページ）～
Windows Me/98/95 で削除する場合
→【Windows Me/98/95 での削除】（357 ページ）～
Mac OS で削除する場合
→【Mac OS での削除】（359 ページ）

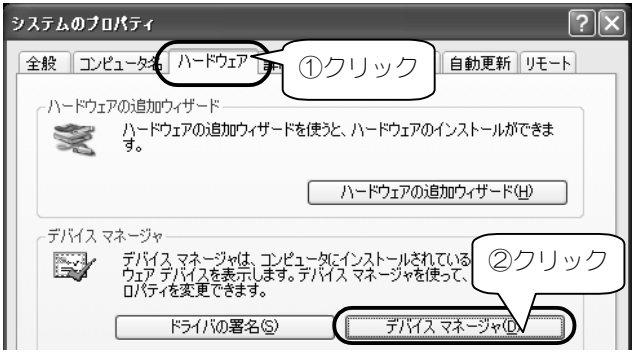
Windows XP での削除

1 本製品をPCカードスロットに挿入したまま、
パソコンの電源を入れ、Windows XPを起動します。

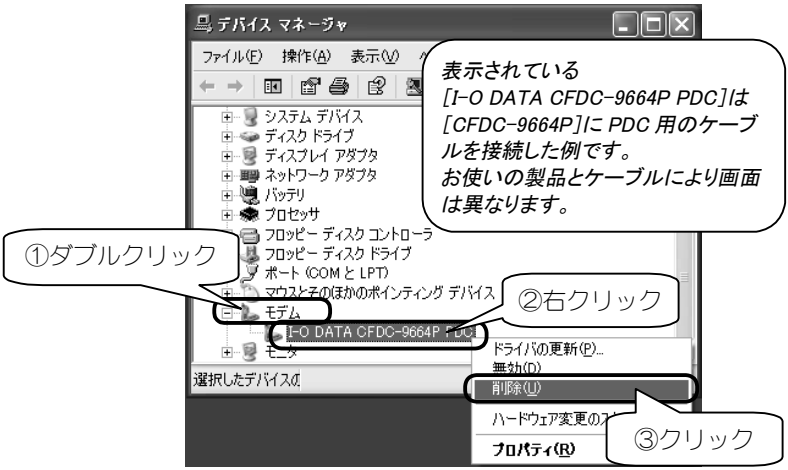
2 [スタート]をクリック後、
[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された[プロパティ]をクリックします。



3 [ハードウェア]タブをクリック後、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



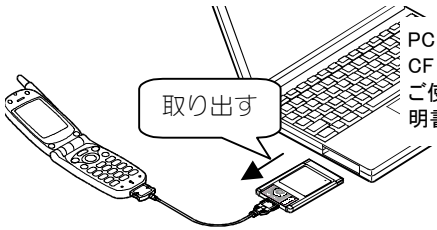
4 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA xxDC-9664P xxx](※ここの表示に関しては19ページを参照してください)を右クリックし、表示された[削除]をクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックします。

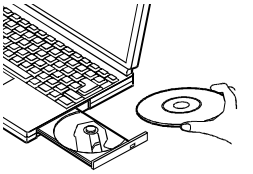


6 パソコンの電源を入れたまま、本製品をPCカードスロット(もしくはCFカードスロット)から取り出します。



PC カードスロット(もしくは CF カードスロット)の位置はご使用のパソコンの取扱説明書を参照してください。

7 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。



「サポートソフト」CD-ROM

8 [スタート]→[マイコンピュータ]をクリックします。

9 CD-ROMのアイコン(_DC-9664P)をダブルクリックします。



10 CD-ROM内の[DDSETUP]をダブルクリックします。



11 [OK]ボタンをクリックします。



12 [OK]ボタンをクリックします。



13 以下の画面が表示されますので、
CD-ROMディスクを取り出して
[はい]ボタンをクリックし、Windowsを再起動してください。

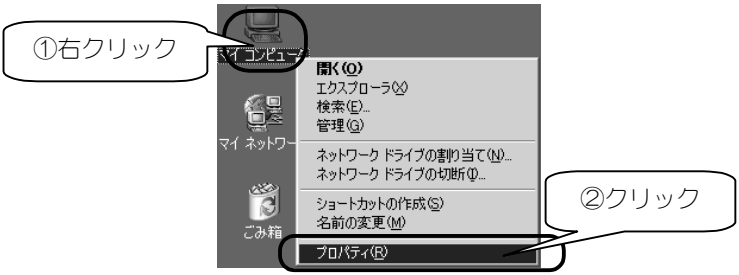


以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

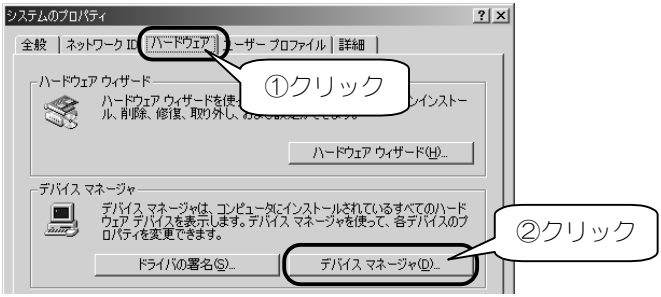
Windows 2000 での削除

1 本製品をPCカードスロットに挿入したまま、
パソコンの電源を入れ、Windows 2000を起動します。

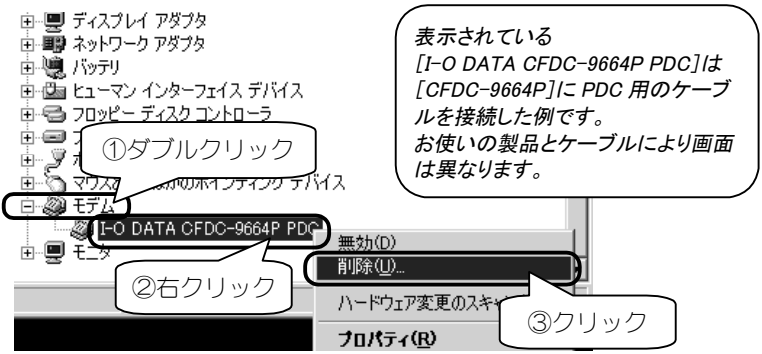
2 [マイコンピュータ]を右クリックして、
[プロパティ]をクリックします。



3 [ハードウェア]タブをクリックし、
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



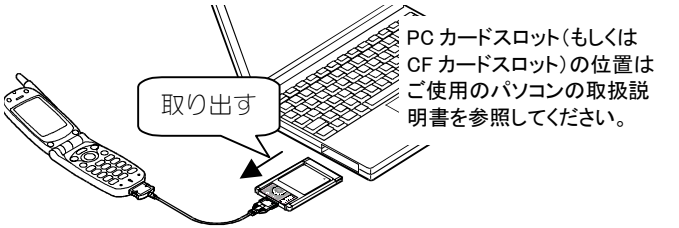
4 [デバイスマネージャ]画面の[モデム]をダブルクリックして、[I-O DATA xxDC-9664P xxx](※ここの表示に関しては73ページを参照してください)を右クリックし、表示された[削除]をクリックします。



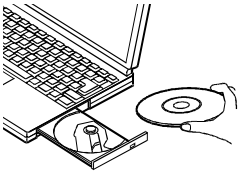
5 [OK]ボタンをクリックします。



6 パソコンの電源を入れたまま、本製品をPCカードスロット(もしくはCFカードスロット)から取り出します。

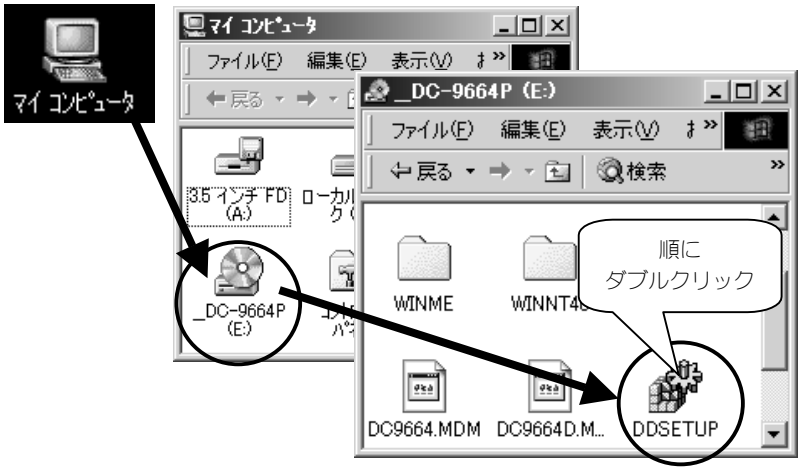


7 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

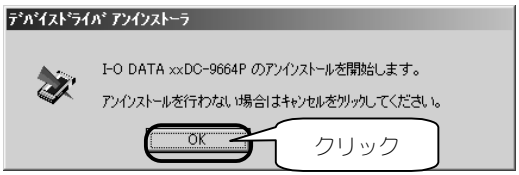


「サポートソフト」CD-ROM

8 [マイコンピュータ]→[CD-ROM ドライブ]([_DC-9664P])→
[DDSETUP]を順にダブルクリックします。



9 [OK]ボタンをクリックします。



10 [OK]ボタンをクリックします。



11 削除が完了すると、以下の画面が表示されます。
「サポートソフト」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、
[はい]ボタンをクリックしてください。



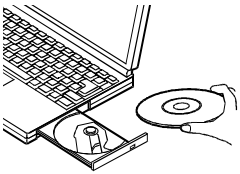
以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

Windows Me/98/95 での削除

1 パソコンおよび本製品の電源を切った後、
本製品をPCカードスロットから取り外します。

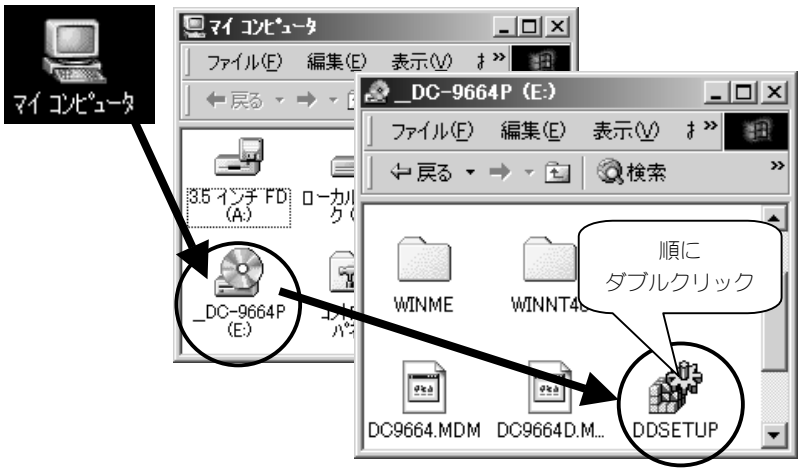
2 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

3 「サポートソフト」CD-ROM を
CD-ROMドライブにセットします。

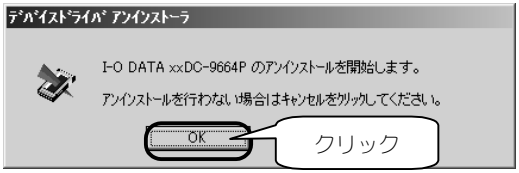


「サポートソフト」CD-ROM

4 [マイコンピュータ]→[CD-ROM ドライブ]([_DC-9664P])→
[DDSETUP]を順にダブルクリックします。



5 [OK]ボタンをクリックします。



6 [OK]ボタンをクリックします。



7 削除が完了すると、以下の画面が表示されます。
「サポートソフト」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出し、
[はい]ボタンをクリックしてください。



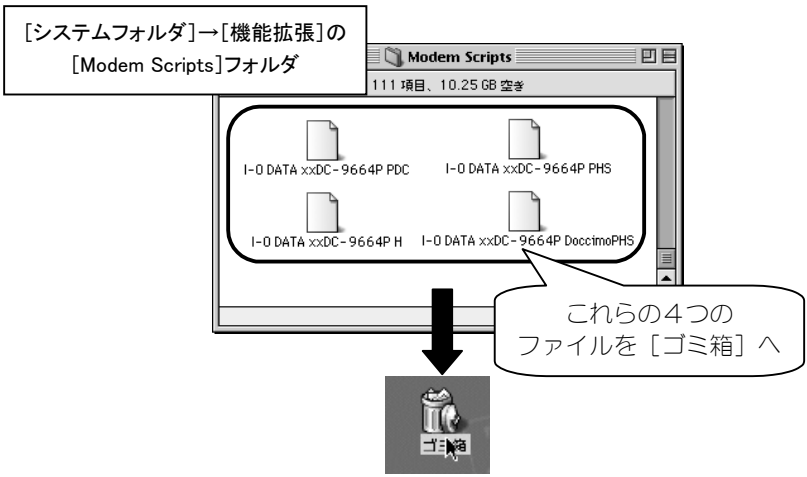
以上で、インストール情報の削除（アンインストール）は終了です。

Mac OS での削除

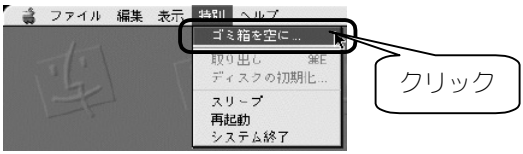
1 本製品が使用中でないことを確認後、PCカードスロット(もしくはCFカードスロット)から本製品を取り出します。

2 [システムフォルダ]※→[機能拡張]→[Modem Scripts]フォルダ内の[I-O DATA xxDC-9664P xxx]の4つのファイルをすべて[ゴミ箱]に入れて削除します。

※[システムフォルダ]は、Mac OSをインストールしたドライブの中にあります。



3 [特別]メニューの[ゴミ箱を空に…]をクリックします。



以上で、Mac OSでのコピーしたソフトの削除（アンインストール）は終了です。

付録4

仕　様

・PDC方式接続時(データモード)

通信方式	全二重
通信速度	9600bps
通信規格	RCR STD-27準拠
制御コマンド	ATコマンド準拠
対応キャリア	NTTドコモ J-PHONE au Tu-Ka

・PDC方式接続時(パケットモード)

通信方式	全二重
通信速度	28800/9600bps
通信規格	RCR STD-27準拠
制御コマンド	ATコマンド準拠
対応キャリア	NTTドコモ

・H″接続時

通信方式	全二重
通信速度	PIAFS 2.1：最高64000bps PIAFS 1.0：最高32000bps
通信規格	PIAFS 1.0/2.1,RCR STD-28準拠
制御コマンド	ATコマンド準拠
対応キャリア	DDIポケット

・PHS接続時

通信方式	全二重
通信速度	PIAFS 2.0：最高64000bps PIAFS 1.0：最高32000bps
通信規格	PIAFS 1.0/2.0,RCR STD-28準拠
制御コマンド	ATコマンド準拠
対応キャリア	NTTドコモ ASTEL

・CFDC-9664P一般仕様

端末インターフェイス	CFA CF+規格準拠
電源電圧	5.0V/3.3V（PC本体から供給）
消費電流	Max40mA
寸法	42.8 × 36.4 × 5.0（mm）（CFカードTYPE Ⅱ 規格準拠）
質量	約11g
添付ケーブル長	各 約55cm
認証番号	A01-1031JP

※FAX 通信には対応しておりません。

・PCDC-9664P一般仕様

端末インターフェイス	PCカードスタンダード規格準拠
電源電圧	5.0V/3.3V（PC本体から供給）
消費電流	Max40mA
寸法	85.6 × 54.0 × 5.0（mm）（PCカード TYPE Ⅱ 規格準拠）
質量	約25g
添付ケーブル長	各 約55cm
認証番号	A01-1032JP

※FAX 通信には対応しておりません。

付録5

用語解説

bps（ビーピーエス） *(bit per second)*

データ通信速度の単位です。1 秒間に送受信できるビット数を表します。
例）9600bps は 1 秒間に 9600bit の情報（データ）を送受信します。

COM ポート（コムポート）

Windows ではシリアルインターフェイスを COM ポートと呼びます。

ITU-T（アイティーユー・ティー）

ITU（国際通信連合）の付属機関である国際電信電話諮問委員会(旧 CCITT)を指します。
国際通信に関する審議と勧告を行います。

MNP（エムエヌピー）

MNP は米国マイクロコム社が開発したモデム間通信規格です。XXDC-9664P は MNP クラス 2,3,4,5,10 を搭載しています。

MNP クラス 2：データが正しく送受信されたことを確認するためのプロトコルです。送信された文字を受信側から送信側に送り返すことで，送ったデータが途中で破損していないかどうかを確認できます。全二重通信が可能なモデムならいずれも実装が可能です。

MNP クラス 3：MNP2 を改良し，同期型で処理できるようにしたものです。これにより，データ転送のオーバーヘッドを削減できるようになりました。

MNP クラス 4：エラー訂正のための規格です。通信中のエラーを訂正することによって高品質な通信を行うことができます。

MNP クラス 5：データ圧縮のための規格です。最大 200%のデータ圧縮を行うことによって実質的な通信速度を最大 2 倍に向上させることができます。データ圧縮を行う場合は端末速度（パソコンとモデム間の通信速度）を回線速度（自分と相手のモデム間の通信速度）の 2～3 倍に設定し

ておくと効率よく通信できるようになります。

MNP クラス 10:移動体通信の場合など、回線状態が悪い場合に有効なプロトコルです。
通信中のエラー発生率に合わせてその都度最適な通信速度や転送データサイズを自動選択します。

いずれの場合も相手が同じ規格を装備している場合のみ有効です。

PDC(ピーディーシー) *(Personal Digital Cellular)*

デジタル電話機に関する日本国内の通信方式です。
TDMA 方式という時分割多重接続を採用。これに対し、cdmnaOne では CDMA 方式という符合分割多重接続を採用しています。

PPP(ピーピーピー) *(Point-to-Point Protocol)*

同期および非同期式のポイント・ツー・ポイント・シリアルリンク回線方式に関するパケット通信規約です。
不特定多数の人が、たまにしか利用しない場合に、IP アドレスを一義的に割り当てるのは不経済なため、PPP では利用時に一時的に割り当てる方式をとります。
ダイヤルアップネットワークのための IP 接続用の通信規約で、ファイルやデータの転送が可能です。

TCP/IP(ティーシーピーアイピー) *(Transmission Control Protocol/Internet Protocol)*

Advanced Research Projects Agency(ARPA)によって開発されたプロトコル(＝通信規約)一式です。
主にネットワーク層プロトコル(IP)と、トランスポートプロトコル(TCP)を含みます。
インターネットでは一般的に使われています。

V.42(ブイヨンジュウニ)

ITU-T(旧 CCITT)で規定されたモデムのエラー訂正・データ圧縮の規格です。

- V.42:エラー訂正の規格で、MNP と LAP-M という 2 つの規格がありますが、通常 V.42 というと LAP-M 規格をさします。
- V.42bis:データ圧縮のための規格で、最大 400%のデータ圧縮を行うことによって実質的な通信速度を最大 4 倍に向上させることができます。データ圧縮を行う場合は端末速度(パソコンとモデム間の通信速度)を回線速度(自分と相手のモデム間の通信速度)の 2～4 倍に設定しておくと効率よく通信できるようになります。

いずれの場合も相手が同じ規格を装備している場合のみ有効です。

アクセスポイント

プロバイダが設けたインターネット接続用の電話番号。
アクセスポイントにはインターネットに通じるサーバが接続され、ダイヤルアップ接続してきたユーザーをインターネットに接続します。

キャリア

「コモンキャリア」と呼ばれる自前の通信設備(特に回線網)を所有している通信事業者(第一種電気通信事業者)のこと。日本では NTT、KDDI、日本テレコムなどがこれにあたります。

ダイヤルアップ

電話回線などの公衆網を利用して、インターネットに接続できる通信業者(プロバイダ)に接続することです。

プロトコル

通信規約のことです。コンピュータ同士が相互で通信を行うための様々な取り決め(通信速度や通信方式、エラーチェックの方法、データの形式など)です。
インターネットでは、TCP/IP プロトコルを使用します。

プロバイダ

(インターネット)プロバイダとは、インターネットへの接続サービスを行っている接続業者のことです。インターネットを利用するためには、利用者もしくは所属する組織が各種学術研究ネットワークに加入するか、インターネットプロバイダと呼ばれる接続業者に加入する必要があります。

PLANT コールセンターへのお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及び FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアル No.
3. ご使用のパソコン本体と電話機の機種。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.jp/support/
「PLANT コールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mail をお送りください。

■郵便

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「CFDC-9664P、PCDC-9664P」係宛

■電話

電話番号　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144
受付時間　9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

■FAX

FAX 番号　金沢　076-260-3360
東京　03-3254-9055
宛先　株式会社アイ・オー・データ機器
PLANT コールセンター「CFDC-9664P、PCDC-9664P」係　宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANT コールセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

「サポートソフト」がバージョンアップした場合は、以下の方法で入手できます。

■オンライン

インターネット　　http://www.iodata.jp/lib/

■サービス窓口からの郵送

以下の窓口までお問い合わせください。（**送料および手数料はお客様負担**）

住所　　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「CFDC-9664P、PCDC-9664P」サービス窓口　宛
電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

・インターネットによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

保証について

■保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

- ・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- ・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記「修理品送付先」までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態(『PLANT コールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」)をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化(一体化)されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

■修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町2丁目84番地　アイ･オー･データ第2ビル
株式会社アイ･オー･データ機器
「CFDC-9664P、PCDC-9664P」修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、***宅配便***または***書留郵便小包***でのご送付をお願いいたします。

■修理品納期問い合わせについて

受付窓口 「CFDC-9664P、PCDC-9664P」サービス窓口
電話番号 本社　076-260-3663
受付時間 9:30～12:00　13:00～17:00　月～金曜日(祝祭日を除く)

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。

CFDC-9664P　PCDC-9664P 取扱説明書
2001.Nov.29　103203-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2001 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品および本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。